

中館遺跡発掘調査報告

～伊勢市本町・一志町・八日市場町～

2025（令和7）年3月

三重県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は、三重県伊勢市本町・一志町・八日市場町に所在する中館遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本書で報告する発掘調査は、令和2年度から令和5年度にかけて行った、外宮常磐線電線共同溝事業に伴う記録保存調査を実施したものである。
- 3 発掘調査にかかる諸費用は、執行委任を受けて県土整備部が全額負担した。
- 4 発掘調査成果については、本書をもって正報告とする。
- 5 調査は、下記の体制で実施した。
 - ・ 調査主体 三重県教育委員会
 - ・ 調査担当 三重県埋蔵文化財センター
調査研究1課 主幹兼課長代理 原田 恵理子
課長代理 櫻井 拓馬
主幹 萩原 義彦・大川 操
 - ・ 自然科学分析 株式会社パレオ・ラボ（大型植物遺体・貝類同定）
一般社団法人 文化財科学研究センター（漆塗膜分析・樹種同定）
 - ・ 保存処理 株式会社吉田生物研究所（金属製品）
一般社団法人 文化財科学研究センター（木製品）
- 6 本書の作成業務は、当センター調査研究1課の大川 操・原田恵理子が執筆を行い、文末にも表記した。編集は大川が行った。また、V章第16表の貝類同定は当センター調査研究1課の中野 環が、遺物写真撮影は同課の田中久生が行った。
- 7 発掘調査及び報告書作成に際し、下記の機関等に多大なるご協力・ご指導を賜った。記して感謝の意を表したい。
伊勢建設事務所事業推進室道路一課、伊勢市情報戦略局文化政策課文化財係（順不同、敬称略）
- 8 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

- 1 本書では、国土地理院発行の1:25,000 数値地図および2017 三重県共有デジタル地図（平成29年整理）などの地図類を用い、一部に加筆修正をした図を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している（承認番号：令和5年4月6日付け三総合地第1号）。
- 2 本書で示す方位は、世界測地系第VI座標による座標北である。
- 3 本書で表記する土色は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（財日本色彩研究所 1997 初版）に、土器等の色調は、上記ならびに『COLOR GUIDE 日本の伝統色』第8版（DIC グラフィックス株式会社 1979 年第1版）に拠った。
- 4 本書で使用する土器・陶磁器の「椀」「碗」については、土師器には「椀」、陶器・磁器については「碗」を用いた。
- 5 本書では、以下のように遺構の略記号を使用している。
SE：井戸 SK：土坑

目次

I	前言	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の経過	1
3	発掘調査と記録の方法	2
4	整理作業とその方法	2
II	位置と環境	3
1	地理的環境	3
2	歴史的環境	3
III	基本層序	6
IV	遺構	7
V	出土遺物	12
1	令和3年度調査	12
2	令和4年度調査	13
3	令和5年度調査	17
VI	自然科学分析	46
1	分析の目的	46
2	中館遺跡から出土した大型植物遺体	46
3	中館遺跡出土の貝類同定	47
4	中館遺跡における漆製品の塗膜分析	47
5	中館遺跡における樹種同定	51
VII	調査のまとめ	55
1	遺跡の消長	55
2	出土遺物の特徴	55
3	まとめ	56

図版目次

第1図	周辺遺跡地図	4
第2図	調査坑位置図	5
第3図	令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図1	6
第4図	令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図2	7
第5図	令和4年度調査坑平面略測図・土層略測図	8
第6図	令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図1	9
第7図	令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図2	10
第8図	基本層序模式図	11
第9図	出土遺物実測図1	18
第10図	出土遺物実測図2	19
第11図	出土遺物実測図3	20
第12図	出土遺物実測図4	21
第13図	出土遺物実測図5	22
第14図	出土遺物実測図6	23
第15図	出土遺物実測図7	24
第16図	出土遺物実測図8	26
第17図	出土遺物実測図9	27
第18図	出土遺物実測図10	28
第19図	出土遺物実測図11	29
第20図	出土遺物実測図12	30
第21図	中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体	47
第22図	中館遺跡出土の貝類	48
第23図	中館遺跡における蛍光X線分析結果	49
第24図	中館遺跡の塗膜分析写真	50
第25図	中館遺跡の木材顕微鏡写真	54
第26図	中館遺跡出土遺物の各比率	56

表目次

第1表	遺物観察表1	31
第2表	遺物観察表2	32
第3表	遺物観察表3	33
第4表	遺物観察表4	34
第5表	遺物観察表5	35
第6表	遺物観察表6	36
第7表	遺物観察表7	37
第8表	遺物観察表8	38
第9表	遺物観察表9	39
第10表	遺物観察表10	40
第11表	遺物観察表11	41
第12表	遺物観察表12	42
第13表	遺物観察表13	43
第14表	遺物観察表14	44
第15表	遺物観察表15	45
第16表	出土貝類一覧表	45
第17表	中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体	46
第18表	中館遺跡出土貝類の同定結果	47
第19表	樹種同定結果	52
第20表	中館遺跡主な出土土器組成	56

写真一覧

写真図版1	主要地方道伊勢南島線外宮北交差点付近(西から) 令和3年度調査坑No.1伊勢市観光協会付近(北から)	写真図版3	出土遺物1
写真図版2	調査坑R3-No.1(南から) 調査坑R3-No.2(東から) 調査坑R3-No.3(西から) 調査坑R3-No.4(東から) 調査坑R4-No.4東壁面土層(西から) 調査坑R4-No.4土器出土状況 調査坑R5-No.2東壁面土層(西から) 調査坑R5-No.2土器出土状況	写真図版4	出土遺物2
		写真図版5	出土遺物3
		写真図版6	出土遺物4
		写真図版7	出土遺物5
		写真図版8	出土遺物6
		写真図版9	出土遺物7
		写真図版10	出土遺物8
		写真図版11	出土遺物9・出土貝類

I 前 言

1 調査に至る経緯

中館遺跡の範囲に含まれる道路敷において、三重県県土整備部が電線の地中埋設化を目的とする共同電線溝整備事業を実施することとなった。

双方で当該文化財の取り扱いについて協議を行った結果、発掘調査を実施していくこととなった。

2 調査の経過

(1) 調査の経過概要

中館遺跡は、外宮前の微高地上に位置し、伊勢市本町・一志町・八日市場町にかけて所在する。平成24年度に高河原遺跡で本遺跡と同様の発掘調査が行われた。

令和2年度末に、最初の発掘調査を行い、既設埋管とその深さ等を確認した。翌年度に4箇所を調査を行い、令和4年度には、7箇所、令和5年度には9箇所、堆積土層の確認と、遺構の有無確認、出土遺物の確認を行った。

(2) 調査の状況

令和2年度 年度末に、電話線・水道管理設箇所を確認するための調査を実施した。

令和3年度 令和3年度は、当該県道の外宮北交差点から約220m西へ、道路敷の工事地点4箇所、豊受宮宮域内遺跡隣接地として発掘調査を実施した(R3-1～4区)。調査は、令和3年4月6日から同3年5月31日までの延べ4日間、調査面積は合計42.9㎡である。令和3年度調査区では、調査坑により堆積状況が異なり、湿地状の堆積土から、15世紀末から16世紀以降の土師器が多数出土した。

令和4年度 令和3年度の最西調査坑から西へ約230m地点までの下り線側で4箇所、R3-2調査坑の向かい側、上り線側の約55m区間で3箇所の、計7箇所を調査を行った(R4-1～7区)。調査は、令和4年5月16日から同年7月26日までの間で7日間と、令和5年2月24日から3月28日までの間

で3日間、延べ10日間にかけて行い、調査面積は合計78.4㎡である。いずれも遺構はなかったものの、R4-2～4の調査坑から旧河道かと思われる堆積が見つかったほか、16世紀以降の土器が多量に出土した。

令和5年度 本年度は、再び外宮北交差点付近に戻り、下り線側の5箇所を令和5年4月11日から同年7月25日にかけて実施した。また年明けの令和6年1月29日から同年2月27日にかけて、延べ13日間調査を行い、調査面積は107.3㎡となった。調査坑R5-1では、2本の木杭の痕跡、調査坑2では、結桶かと思われる井戸跡、調査坑6では土坑などの遺構が確認できたほか、土師器や陶器などが出土した。

(3) 文化財保護法等にかかる諸通知

◎文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護条例第48条第1項（周知の埋蔵文化財における土木工事等の発掘に関する通知）

・令和3年5月31日付け、伊建第472号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長あて）

・令和4年5月16日付け、伊建第367号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長あて）

・令和4年9月16日付け、伊建第772号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長あて）

・令和5年8月14日付け、伊建第653号

（三重県知事から三重県教育委員会教育長あて）

◎文化財保護法第100条第2項（文化財の発見・認定通知）

・遺失物法にかかる文化財の発見・認定通知（伊勢警察署長あて県教育長通知）

令和3年6月16日付、教委第12-4403号（R3年度調査区）

令和5年3月8日付、教委第12-4417号（R4年度調査区）

令和5年8月16日付、教委第12-4504号（R5年度No.1～5調査分）

令和6年3月1日付、教委第12-4512号（R5年度No.6～9調査分）

3 発掘調査と記録の方法

(1) 調査の方法

調査は、重機による掘削を進め、遺構や遺物が確認されたところで人力掘削に切り替える方法で行った。

(2) 地区設定と遺構番号

調査地は、1.7～2.8 m×3.4～6.0 m程度の小規模な調査坑である。該当年度に枝番を付けることで調査区の名称とした。「R3-1」とは、令和3年度の1箇所目の調査坑、ということである。

(3) 出土遺物の回収

出土遺物は、出土遺構（層位）と出土年月日を記載した専用のラベルを現地で付与した。また、小地区割りを行っていないため、遺構に伴わない遺物は出土地点や層位がわかる「青灰粘砂」、「灰褐色粘砂排水坑1」といった表記を与えた。遺物類は当センターへ搬送し、洗浄などの作業を行った。

(4) 遺構図面

調査時の状況を、工事図に合わせて記録した。記録は野帳への略図並びに調査日誌の方眼に作成した。調査区の実測図は、上記の記録を基に1/100で作成した。

(5) 遺構写真

調査の状況は、FUJIFILM Fine Pix XP140 ほかで撮影し記録をした。

4 整理作業とその方法

(1) 遺物類の整理

調査後、当センターにおいて、洗浄・注記・接合作業を実施した。

出土遺物は、発掘調査担当者が報告書掲載遺物と未掲載遺物に区分した。報告書掲載遺物については、実測図を作成した。報告書掲載遺物については、1点ずつ報告書番号を付したラベルを添付し、収蔵後の混乱を避けている。

出土遺物は、整理の結果をもとに、収蔵庫で保管している。

(2) 図版作成と遺物写真撮影

実測図等が完成した遺物類は、報告書作成のための観察や図版作成を行った。これらの遺物類は、報告書掲載順に収蔵し、報告書完成後の利活用に備えた。また、実測図そのものも、記録保存の一環として保存している。

報告書へ図版掲載した遺物のうち、各調査坑の主なものを抽出して写真撮影を行った。カメラは、デジタル1眼レフ（Nikon D 800 E）を使用して撮影を行った。

(3) 記録類

以上にかかる発掘調査の記録類は、調査関連図面（平面図・土層断面図など）、調査日誌、写真類（デジタル画像）がある。これらは、所定の番号を与え、当センター専用収蔵スペースで保管している。

（原田・大川）

Ⅱ 位置と環境

1 地理的環境

中館遺跡は、三重県の中南部、伊勢市の本町・一志町・八日市場町にかけて所在する。三重県は旧伊勢国・旧志摩国・旧伊賀国・旧紀伊国の一部で構成されており、三重県中南部は旧伊勢国にちなんで中勢地方、南勢地方、また中南勢地域と呼ばれている。

中館遺跡周辺の地形的特徴を概観すると、中南勢地域である伊勢市の市街地の南、豊受宮（外宮）の門前を東西に県道伊勢南島線が通る。外宮北交差点から西へと緩やかに標高が上がり、現時点では最も高くなる地点が遺跡の西端となる。市街化されて、旧地形が分かりづらくなっているが、宮川右岸下流域に大きく広がる沖積低地の自然堤防上に、断片的に中世以降の遺跡が確認されている。外宮門前である山田の低地部の地形の復元的考察が、高河原遺跡調査時に詳しくなされており、詳細は高河原遺跡の報告書における考察を参照されたい¹⁾。

2 歴史的環境

当遺跡の周辺では、面的に発掘調査を行った地点が極めて少ない。上記の高河原遺跡も当遺跡と同様の調査を行っており、点的な情報を繋げて観察し、絵図等との比較検討することで微地形が推定復元されているため、開発事業等で不時発見された遺物等の評価、位置づけが可能になった。中館遺跡は、近世・参宮街道沿いに立地しており、周辺には中世後期から近世にかけての遺跡が多い。その中でも、豊受宮宮内遺跡（市史）では、弥生時代終末期から古墳時代初頭、平安時代後期から鎌倉時代の遺物が確認されている。古墳時代の遺物としては、外宮南方の山にある高倉山古墳よりも一時期古い須恵器が確認されていて、当該地の古墳時代の様相を考えるうえで重要な地点である²⁾。外宮宮域以外で、奈良・平安時代の遺跡は乏しく、高倉山の北西、通称「天神山」とされる丘陵に、江戸時代からの墓地が作られており、昭和40年代の墓地造成時に瓦経が発見された、

小町経塚がこれに続く。また、一之木4丁目の桜園公園内で防火水槽埋設の工事中に、陶器碗（山茶碗）が採集されたのみである。鎌倉時代としては、一之木北遺跡で、わずかに土師器小皿片、陶器碗片が散布するのみで、遺構を伴う遺跡としては、伊勢市役所北で土坑から土師器小皿100余点、燈明皿、古瀬戸三筋壺や瀬戸美濃産灰釉折縁皿などが出土した岩淵西遺跡が知られている。中世後期になると、開発等により破壊されているものの、15～16世紀ごろの土師器小皿・鍋片、陶器片、瀬戸仏花瓶などが出土した三宝院跡が八日市場町にあるほか、地誌で、北畠国司兵の防御のため築かれたとされる村山城跡が、伊勢筋向橋郵便局の裏手に比定されている。

中館遺跡周辺域では、高河原遺跡以外は、土層の層位を踏まえた調査、面的な調査が実施できていないこともあり、遺跡の片鱗に触れる程度の様相把握に留まる市街化域ではあるが、これらの点的な調査履歴の蓄積により、微地形の解明、遺跡の実態解明に結び付けていくことが課題といえる地域であろう。

（大川）

【註】

1) 三重県埋蔵文化財センター 2015「Ⅵ高河原遺跡と近世都市山田～調査のまとめと検討」『高河原遺跡発掘調査報告』

2) 伊勢市 2011「第三章 遺跡概観 第十二節 明倫地区」『伊勢市史』第六巻 考古編

【参考文献】

・伊勢市 2011「第三章 遺跡概観 第十節 厚生地区」『伊勢市史』第六巻 考古編

・三重県埋蔵文化財センター 2015「Ⅱ 遺跡と周辺の諸環境」『高河原遺跡発掘調査報告』



第2図 調査坑位置図 (1 : 3,000)

Ⅲ 基本層序

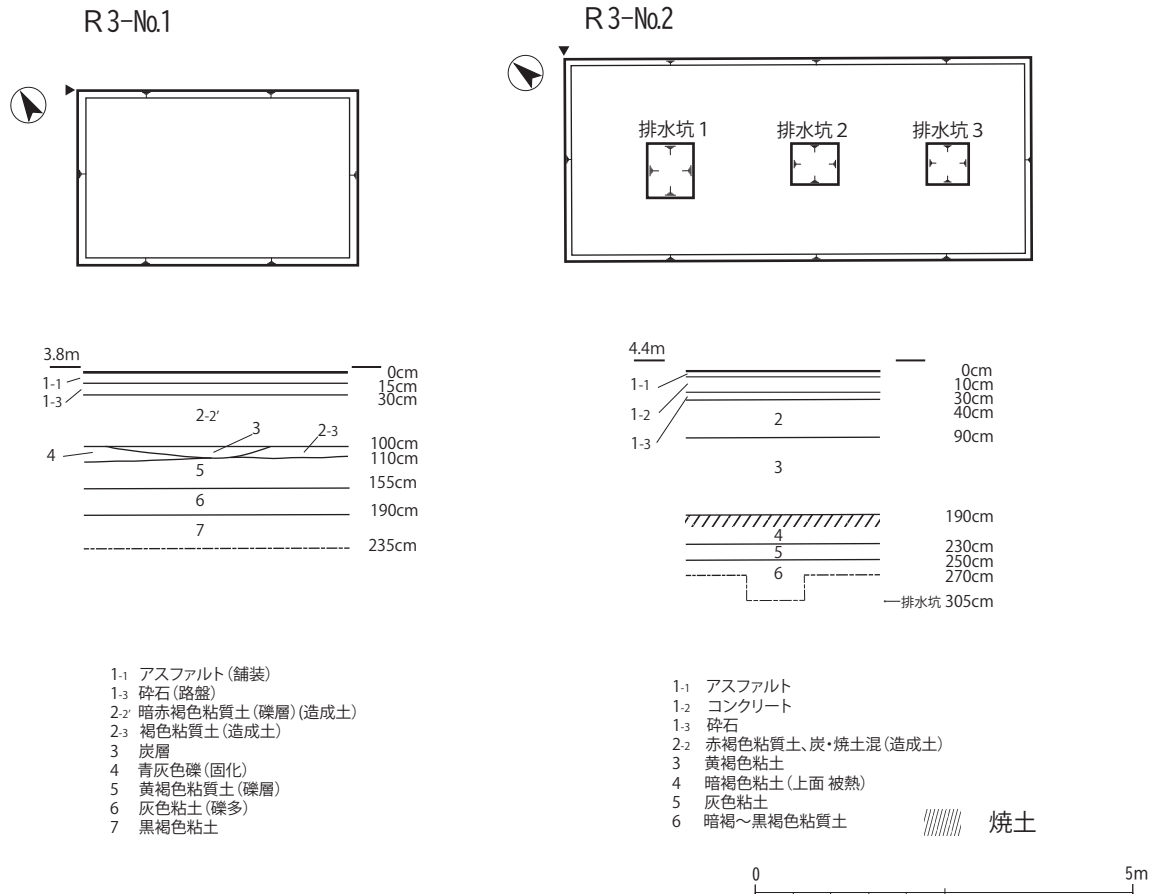
中館遺跡は、標高約3～5mの微高地上に位置している。概ね平坦であるが、全体的に東側へ緩やかに下り勾配に傾斜している。

今回の調査では、工事掘削する深度までしか確認できていないため、調査区間の全ての堆積状況や層位を連続して確認できていない。

基本的に近現代の舗装ならびに造成土以下で、2～3層に分かれる。第1層は、現代の舗装材（アスファルト・コンクリート・インターロッキングブロック）とその路盤材（碎石など）であり、掘削箇所によりその厚みが異なる。第2層は造成土で、一層で厚みがある所、30～50cm程度の造成が複数確

認される箇所があった。第3層以下が、19世紀以前の堆積が確認できる層となっており、黄褐色から褐色の粘質土と焼土・炭層が互層で確認される箇所、礫を含む褐色から灰黄褐色粘質土シルトと炭層・焼土層が互層になる箇所、また、黄褐色から黄灰色粘質土と黒褐色粘砂、同色の粗砂が互層になる箇所があったりと、参宮街道や街並みが立地したと思われる微高地の縁辺部にあたる本調査区間では、調査坑ごとに異なる堆積層の様相が確認された。

上層の方は近世の整地層と思われ、小炭塊を含む焼土や炭層から19世紀代の遺物が出土する地点もあった。粘土質シルトから礫を含むシルト層前後で



第3図 令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図1 (1:100)

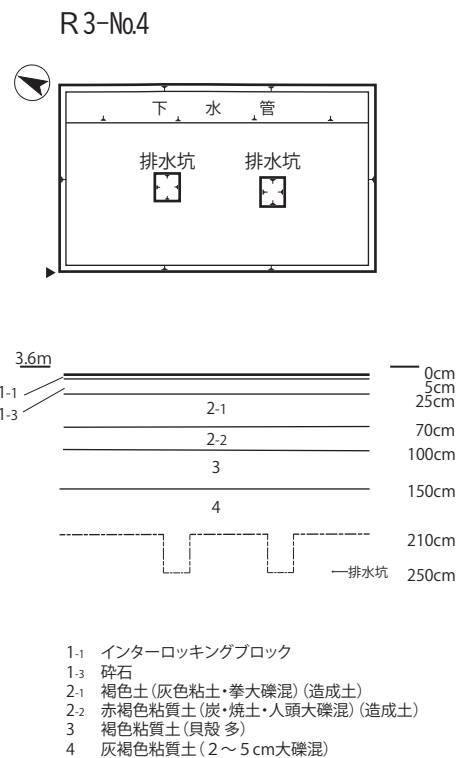
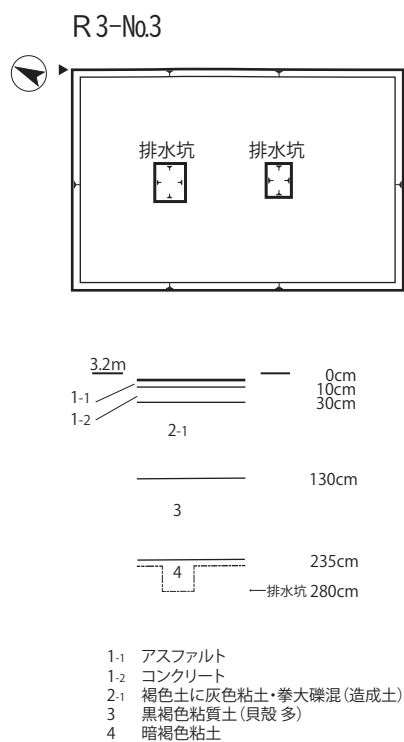
は、間に粗砂・礫層を挟む箇所もあり、遺跡の中程と西端で川の氾濫によると思われる堆積が確認できた。こうした氾濫堆積層の上下にレンズ状に残る

粘質土シルト層から、16～17世紀代の土器類が多く出土した。また、比較的粘性の高い堆積層からは、貝殻や木製品などの有機物も遺存していた。(大川)

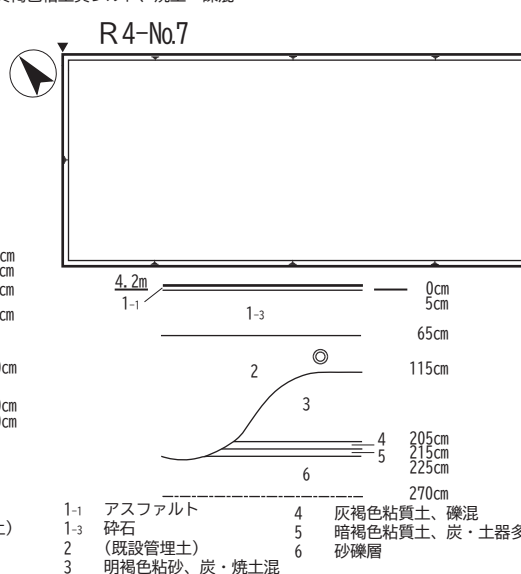
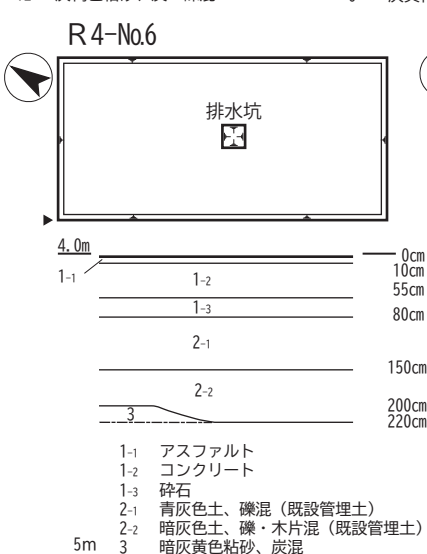
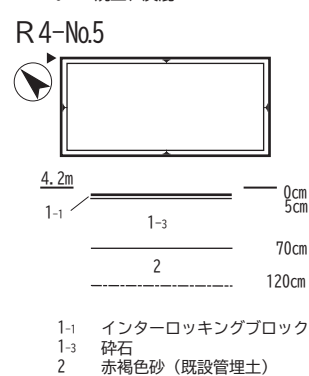
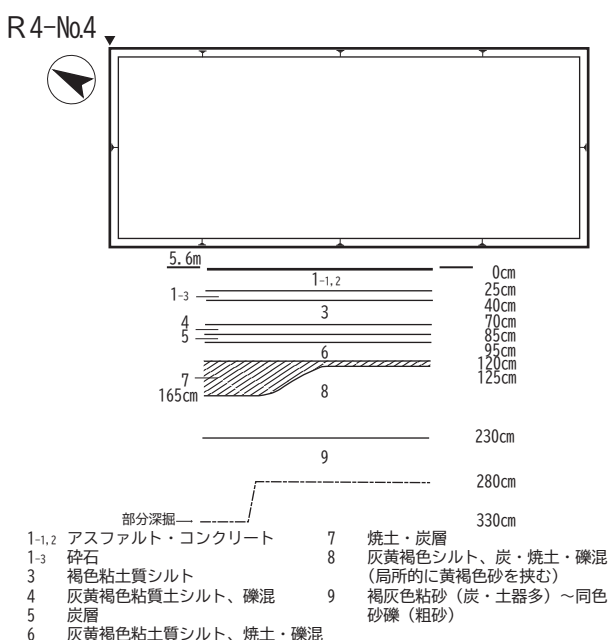
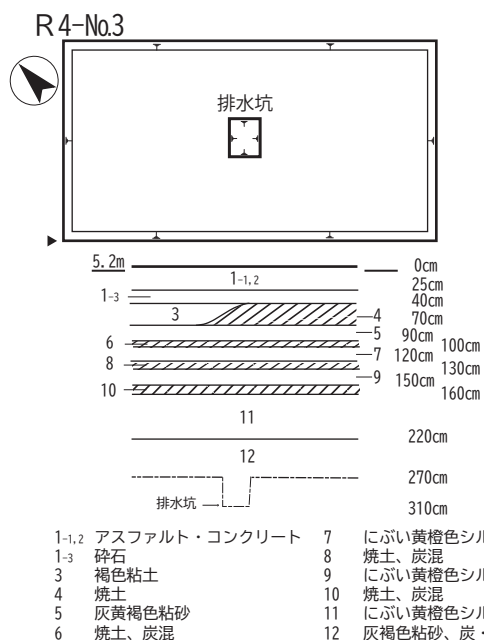
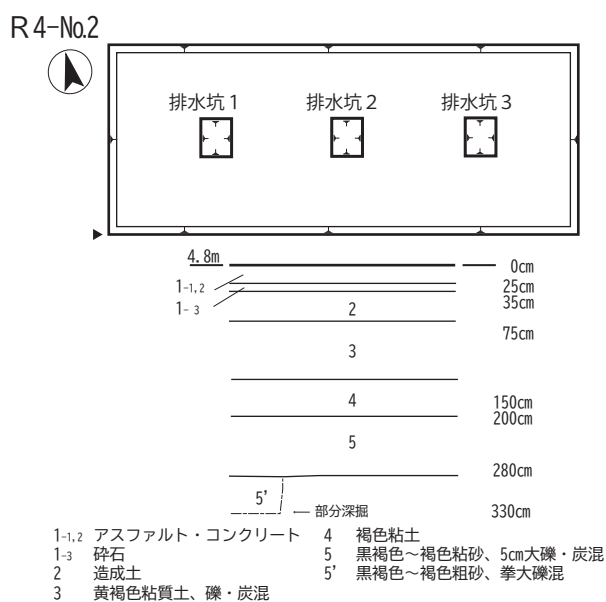
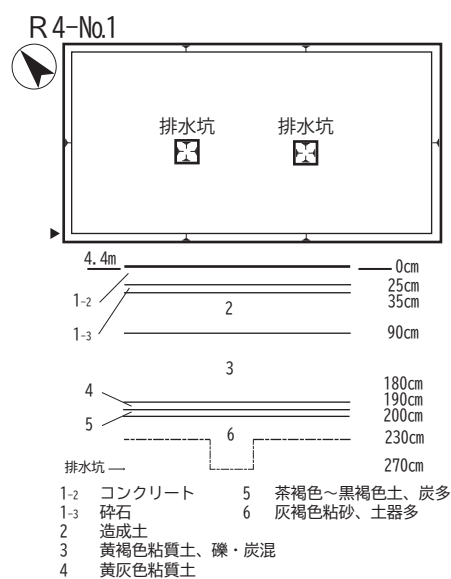
IV 遺 構

全体的に、狭小な調査坑であったため、20箇所の調査坑の中で遺構はわずかに確認できたのみである。
S E 1 (第6図) 令和5年度のNo.3調査坑で、結桶かと思われる井戸跡が、調査坑南東隅で1基検出された。埋設旧水道管直下の検出で全体を把握できなかったが、遺物は出土せず、規模は直径約0.6m程度で江戸時代のものと考えられる。

S K 2 (第7図) 同じく令和5年度のNo.6調査坑の現地地表下約2.2mから、土坑1基が確認できた。焼土粒や小さい炭塊が混じる暗褐色粘質土の埋土で、長径1.2m、短径0.7mほどの長楕円形、深さは約10～12cm程度の土坑であった。出土遺物は、土師器皿・鍋、鉄釘が出土した。(大川)

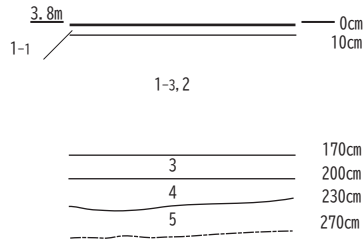
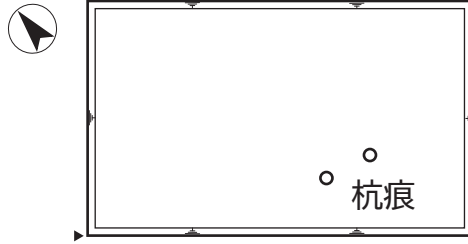


第4図 令和3年度調査坑平面略測図・土層略測図2 (1:100)



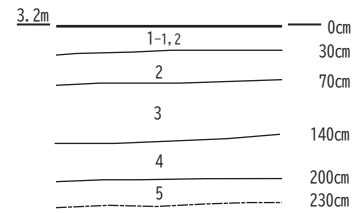
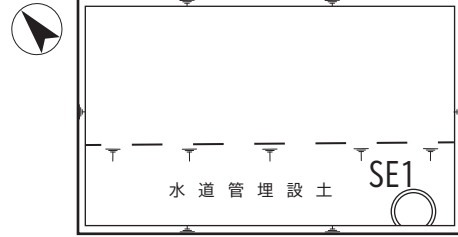
第5図 令和4年度調査坑平面略測図・土層略測図（1：100）

R5-No.1



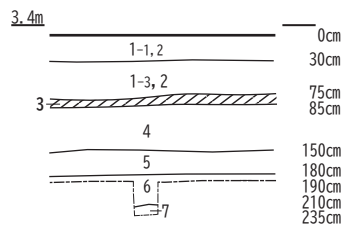
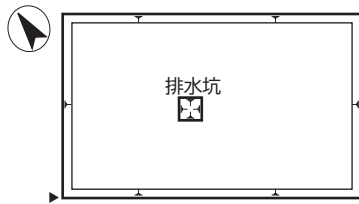
- 1-1 インターロッキングブロック
 1-3 砕石
 2 造成土
 3 褐灰色粘質土に灰色粘土ブロック・拳大礫・木片混
 4 暗褐色粘砂、拳大礫・木片多、固く締まる
 5 淡褐色砂礫層、木杭痕

R5-No.2



- 1-1, 2 アスファルト・コンクリート
 2 褐色土（造成土）
 3 暗灰色粘質土
 4 暗青灰砂礫土
 5 暗緑灰砂礫、黒褐色シルトブロック混

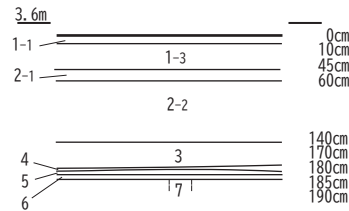
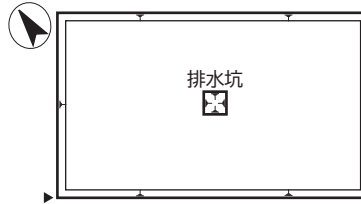
R5-No.3



- 1-1, 2 アスファルト・コンクリート
 1-3 砕石・造成
 3 褐色～明赤褐色粘砂（焼土）
 4 暗青灰色粘砂、礫多
 5 褐灰シルト
 6 青灰色粘砂、礫多
 7 褐灰粘砂

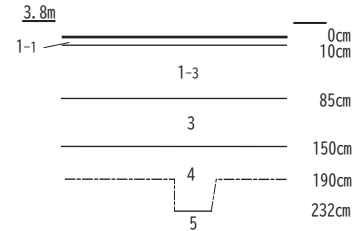
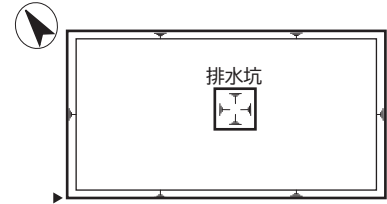
焼土

R5-No.4



- 1-1 アスファルト
 1-3 砕石
 2-1 褐色土、焼土混（造成土）
 2-2 灰色粘質土、礫混（造成土）
 3 青灰色～褐灰粘質土、礫混
 4 褐色粘砂
 5 青灰色粘質土、礫多
 6 暗褐色粘砂
 7 青灰～暗灰色粗砂、礫多

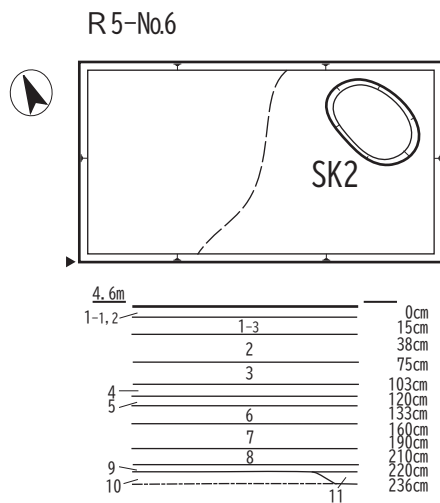
R5-No.5



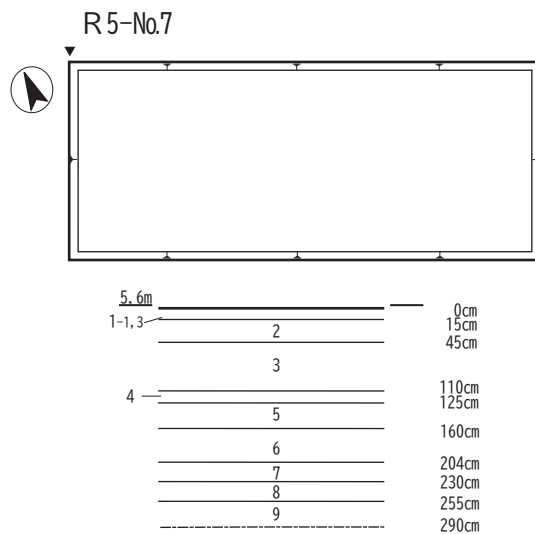
- 1-1 アスファルト
 1-3 砕石
 3 黄褐色粘砂
 4 青灰色粘砂、礫混（下方に炭・植物片混）
 5 青灰色礫層



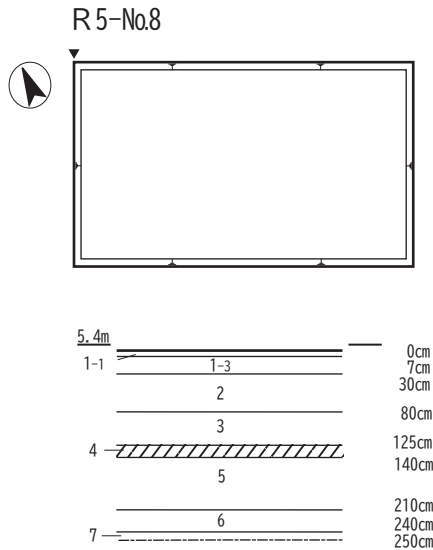
第6図 令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図1（1：100）



- 1-1,2 アスファルト・コンクリート 10 暗灰砂礫
 1-3 砕石 11 褐色砂礫
 2 褐色土（造成土）
 3 褐色砂礫、10～15cm大礫混
 4 灰褐色砂礫、5～20cm大礫混
 5 褐色粗砂
 6 灰褐色粗砂、5cm大礫混
 7 褐色粘砂
 8 灰褐色粗砂、4～5cm大礫混
 9 褐色細砂

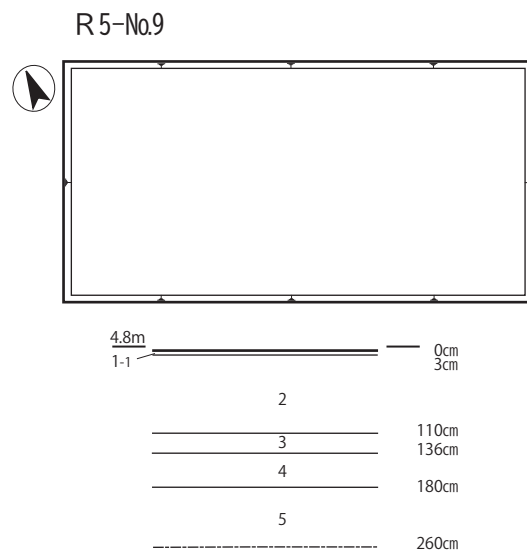


- 1-1,3 アスファルト・砕石
 2 赤褐色土（造成土）
 3 灰褐色砂礫
 4 褐色砂礫
 5 暗褐色砂礫
 6 暗褐色粘質土
 7 暗灰褐色礫
 8 褐色砂礫
 9 灰白粗砂



- 1-1 インターロッキングブロック
 1-3 砕石
 2 赤褐色土（造成土）
 3 灰褐色砂礫
 4 褐色砂礫（焼土）
 5 暗褐色粘質土、10cm大礫混（陶器片・漆碗片・貝殻含）
 6 暗褐色礫
 7 褐色粘質土

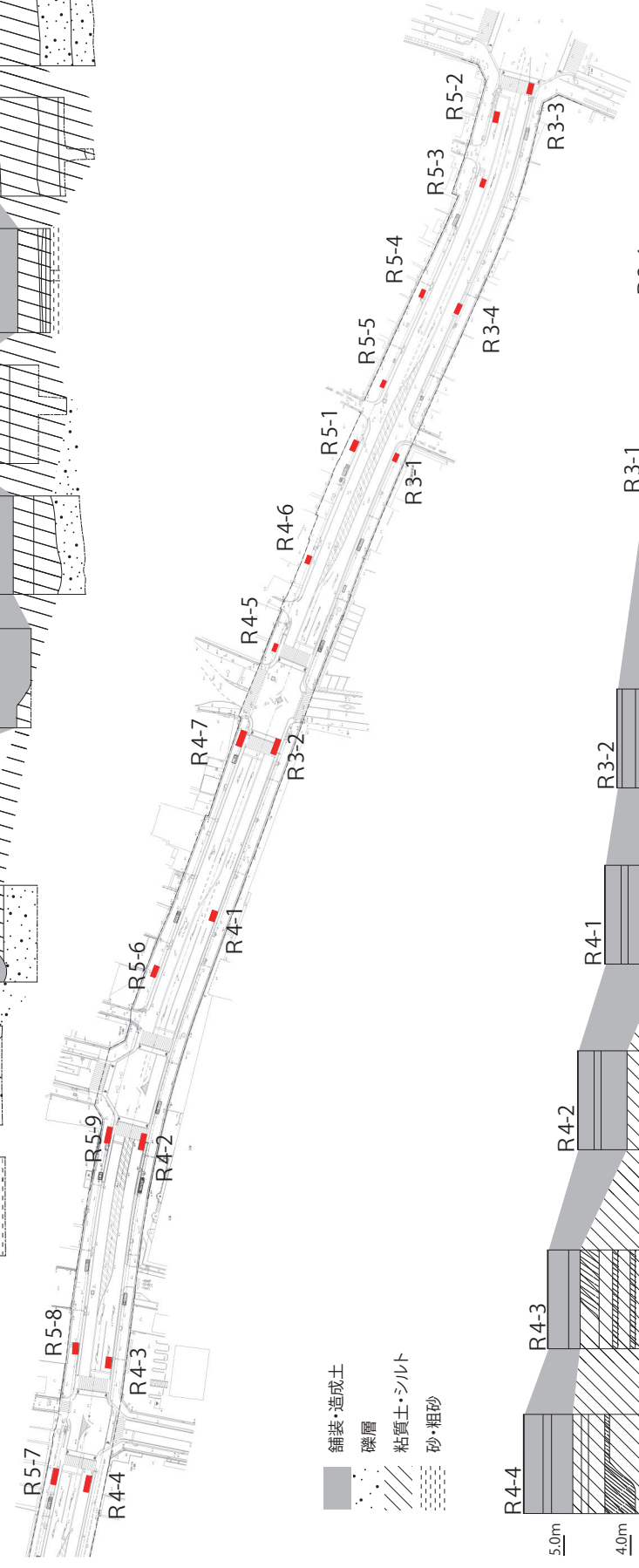
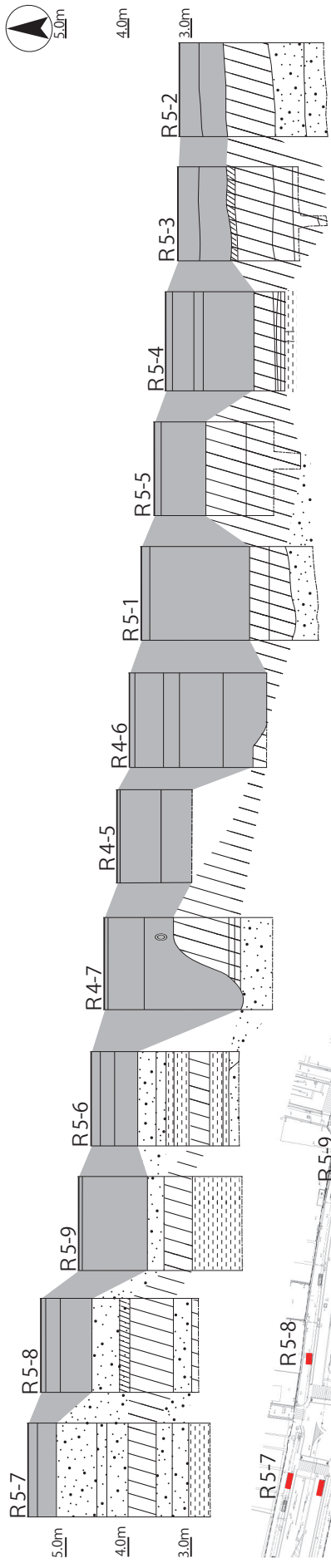
焼土



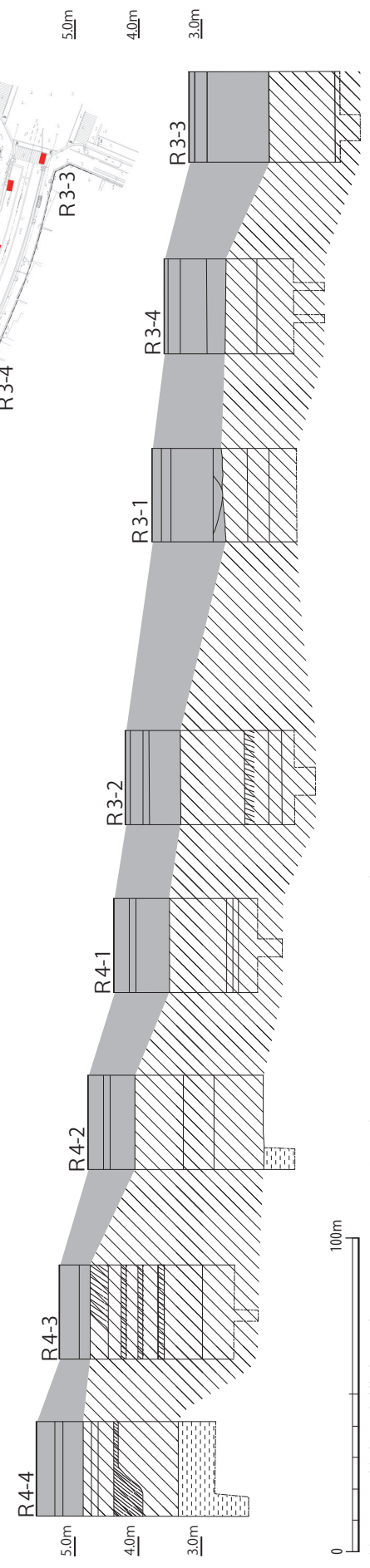
- 1-1 アスファルト
 2 緑灰色砂礫（造成土）
 3 暗灰礫
 4 暗灰色砂質土、礫混
 5 褐色砂

0 5m

第7図 令和5年度調査坑平面略測図・土層略測図2（1：100）



- 舗装・造成土
- 礫層
- 粘質土・シルト
- 砂・粗砂



第8図 基本層序模式図 (平面 1 : 2,000、土層略測図 V 1 : 100、H 1 : 200)

V 出土遺物

3ヶ年にわたる発掘調査で中世から近世にかけての遺物がコンテナケースに21箱分（重量換算で約154 kg）出土した。図化する遺物の大半は近世の土師器で、陶磁器と少量の鉄製品、木製品、砥石・石臼などの石製品を含み、720点を掲載した。年度・工事調査坑別に、出土層位ごとに報告する。出土遺物の分類、時期比定にかかる参考文献は、章末に記載した。

1 令和3年度調査

（1） No.1 調査坑（第9図）

黒褐色粘土層（1～3） 1は南伊勢系土師器皿D形態である。2は瀬戸美濃産陶器丸皿である。底部は碁笥底状となっており、高台が明瞭でない。内面及び外面下半部まで長石釉がかかる。大窯第4段階前半頃の所産か。3は青磁皿である。高台は畳付部分のみ無釉で、釉は貫入が多い。残存部は無文である。

灰色粘土層（4～5） 4は南伊勢系土師器皿B形態である。口径の割に器高が浅い。5は瀬戸美濃産稜皿である。内外面に鉄釉がかかる。大窯第4段階末に比定される。

黄褐色粘質土層（6） 6は国産磁器碗である。高台は畳付部分のみ無釉で、青磁色の地に千歳茶色で口縁端部を着色している。また内面にも同色で松葉様の模様が描かれる。近代以降のものである。

（2） No.2 調査坑（第9図）

黒褐色粘質土層（7～43） 7～33は南伊勢系土師器皿である。7～9はA形態、10～17はB形態、18～25はC形態、26～43はD形態である。B形態の口径は7 cm前後～9 cm代、C形態は8～11 cm前後、D形態は10～13 cm前後となる。一部15世紀代のものを含むが概ね16世紀代に収まるとみられる。

34～39は南伊勢系土師器鍋である。概ね伊藤編年第4段階である。口縁端部が上部に立ち上がるもの（38）、内側に折り返し断面が三角形を呈するもの

（35～37・39）などがある。口頸部が内湾するもの（35）、直線的に延びるもの（36・39）、外反するもの（38）など、バラエティーに富んでいる。体部形状までわかる個体は少ないが、体部があまり張らず器高の高いもの（38・39）、体部が張り器高の低いもの（37）がみられる。

40～43は瀬戸美濃産陶器である。40は天目茶碗である。口縁部で上方に延び、口縁端部は玉縁状となる。外面体部下半は露胎である。41・42は反り皿である。腰部から口縁部にかけて大きく外反し、42は端部が波状となる。41は鉄釉が、42は長石釉がそれぞれかかる。概ね大窯第3～4段階前半頃のものか。43は壺であろうか。緩やかに内湾し、端部が肥厚する。内外面共に鉄釉がかかる。

造成土層・廃土（44～52） 44・45は南伊勢系土師器である。44は小皿である。45は鍋で、第4段階である。

46～48は瀬戸美濃産陶器である。46は志野丸皿で長石釉は貫入が多く入る。47は天目茶碗で、口縁部が上方へ延び、口縁端部は外方へ広がる。体部外面は露胎である。48は搗鉢で、口縁内部に段をもち、口縁端部は外方に広がる。いずれも大窯第4段階後半から末のものか。

49は白磁皿D群である。口径が小さく浅いもので、高台は挟りが入る。高台の接地部分のみ無釉である。

50・51は肥前産磁器である。いずれも菊花形に型打ち成形した皿で、見込み中央に菊花文を、その周囲に渦文を配する。17世紀第2四半期頃の所産である。高台は畳付部分のみ無釉である。

52は土師質の土塊片である。表面には長さ5～7 mm程度のスサの痕跡が不定方向に認められる。焼締まりがなく、低温焼成された炉壁片か。

黄褐色粘土層（53～56） 53は白磁端反皿E-2群である。高台は畳付部分のみ無釉である。

54～56は肥前産磁器皿である。55は高台畳付のみ無釉で、内面に草花を描く。56は菊花形に型打ち成形した皿である。

廃土（57～64） 57～63は南伊勢系土師器皿で

ある。57はA形態、58～60はB形態、61・62はC形態、63はD形態である。B形態の口径は7～8cm代である。

64は青花皿である。高台は畳付のみ無釉で、内面見込み部及び外面に絵付けがなされている。

(3) No.3 調査坑 (第10図)

暗褐色粘土層(65) 南伊勢系土師器羽釜である。口縁部は外面に折り込み、強くヨコナデ調整をする。鏝も強いヨコナデにより、端部は面を持つ。形状から、概ね第3段階のものであろう。

黒褐色粘質土層(66～103) 66～102は南伊勢系土師器である。66～101は皿である。66～70はA形態、71～82はB形態、83～93はC形態、94～101はD形態である。B形態の口径は8cm前後、C形態は10～11cm代、D形態は10～14cm代となる。概ね15世紀後半から16世紀代のものとみられる。102は南伊勢系土師器鍋である。小形で、体部外面のハケメは粗い。伊藤編年第3段階に比定される。

103は古瀬戸縁釉小皿である。口縁端部に鉄釉がかかる。藤沢編年古瀬戸後期様式Ⅳ期古に相当する。造成土層(104) 104は瀬戸美濃産陶器天目茶碗である。削出高台で、高台内部はわずかに凹む。外面下半は薄く錆釉がかかる。藤沢編年大窯第4段階に比定される。

(4) No.4 調査坑 (第10図)

灰褐色粘質土層(105) 南伊勢系土師器皿である。C形態で、口径9cmである。概ね15世紀後半から16世紀代とみられる。

造成土層(106～109) 106は南伊勢系土師器皿である。近世Ⅱ期に相当するか。

107は国産白磁である。見込に圈線が1条入る。高台は削り出し、内側に段差が生じる。畳付から内側は無釉で、見込み部分は蛇の目釉剥ぎである。

108・109は瀬戸美濃産陶器である。108は播鉢で、底部付近のみ残存している。外面は糸切痕が認められ、内面の播目は放射状に入れた後、見込み部中央を起点に円形に入れている。底部外面以外は鉄釉がかかる。109は貼付高台の付く大形製品である。外面は体部下半付近まで灰釉が、内面は全体的に灰釉

と銅緑釉がかかる。形状から水甕とみられる。登窯第8小期頃であろうか。

2 令和4年度調査

(1) No.1 調査坑 (第11図)

灰褐色粘砂層(110～131) 110～127は南伊勢系土師器である。110～121は皿である。110はA形態、111～113はB形態、114～116はC形態、117～119はD形態、120・121は台付皿(近世皿X形態に繋がるもの)である。B形態の口径は7cm前後～9cm代、C形態は8～11cm代、D形態は9～14cm代となる。台付皿は台部で判断できるものであり、全体の形状は不明である。122～126は煮炊具で、122～124は鍋、125～127は茶釜である。第4段階に比定され、概ね15世紀後半から16世紀代のものとみられる。

128は青磁碗である。外面に細蓮弁文を施す。

129は瀬戸美濃産陶器皿である。内面に鉄釉と灰釉で同心円状に絵付けし、その上から透明釉がかかる。

130は産地不明磁器皿である。器表面に融着物があり、口縁部外面及び内面見込み部に圈線が1条ずつ描かれているのが確認できる程度である。

131は常滑産陶器捏鉢である。内面及び底部外縁が磨耗している。

(2) No.2 調査坑 (第11・12図)

黒褐～褐色粘砂層(132～195) 132～162・164～174は南伊勢系土師器である。132～162は皿である。132～134はA形態、135～145はB形態、146～157はC形態、158～162はD形態である。B形態の口径は7～8cm代、C形態は8～10cm代、D形態は10～12cm代となる。164～169は鍋である。164・165は口縁20cm未満の小形、166～169が中形で、第4段階に比定される。170・171は羽釜である。172は茶釜である。形状から、時期は概ね15世紀後半から16世紀代のものとみられる。173・174は不明品である。173は器高が低く、片口とみられる箇所がある。174は半球形の体部を呈するもので、近世鍋X形態に繋がるものと思われる。外面にススが付着している。

163 は土師器碗である。南伊勢地域で生産された
とみられるが、出土量の少ないものである。精緻な
土を用い、外面は細かい単位でケズリ、内面はケズ
リとミガキ調整がなされる。内外面共にススが付着
している。

175 ～ 187 は瀬戸美濃産陶器である。時期は古い
もので古瀬戸後期様式、登窯第 7 小期が下限とな
る。175 は縁釉小皿である。口縁部に灰釉がかかる。
古瀬戸後期様式である。176 は灰釉がかかる端反皿
である。大窯第 1 段階である。177 は志野皿である。
178 は浅碗である。内面に灰釉がかかる。179・180
は天目茶碗である。口縁部で外反し、外面下半部は
薄く錆釉がかかる。時期は大窯第 4 段階前半頃であ
ろうか。181 は拳骨碗である。182 は播鉢である。口
縁部の外側に縁帯が形成され、口縁外面が僅かに凹
むものであり、大窯第 1 段階に比定される。183 ～
186 は鉢類である。183・184 は口縁部付近に灰釉が
かかり、184 は注口が 1 箇所認められる。185 は内面
に卸目が認められる。古瀬戸後期様式に収まるもの
である。187 は半胴である。口縁部に鉄釉がかかるが、
口縁端部は摩耗により釉が剥離している。

188・189 は青磁、190 は白磁である。188 は外面
無文で、釉は黄味が強く、貫入が多く入る。189 は
高台の断面が逆台形を呈する。高台の接地面を釉剥
ぎしている。高台内面は無釉である。見込部分に馬
形の陰影が認められる。Ⅴ類新相に比定される。190
は皿Ⅱ群で、高台に挟りが入る。見込みにピン状の
重ね焼き痕が残る。

191・192 は肥前産磁器丸碗である。外面に 191 は
青海波及び竹、192 は花が描かれる。 (原田)

193 は和釘で頭部を欠損する。ゆるく「く」字状
に曲がり、屈曲点を境に脚先では軸方向に沿った木
質が、頭部に近い側は軸方向に直交する木質の銹着
が確認できる。厚さ 3.5 ～ 4.0 cm ほどの材を繋ぎ留
めていたものと考えられる。194 は和釘。展延した
頭部を二つ折りに曲げ、脚部の断面は略方形である。
195 は和釘で、194 と同じく頭部を二つ折りに曲げる。
中ほどで「く」字に曲がり、脚先をわずかに欠く。
194・195 とともに木質の銹着はない。 (大川)

造成土層 (196 ～ 201) 196 ～ 198 は瀬戸美濃産
陶器である。196 は志野丸皿、197 は志野菊皿で、い

ずれも口径に比して器高が低く扁平化し、高台部の
突起も大きくない。大窯第 4 段階後半に比定される。
198 は茶入か。肩がそれほど張らず、外面底部に錆
釉をかけたのち、内外面に鉄釉がかかる。

199 は白磁小碗である。口縁部が僅かに外反して
いる。200 は青花端反皿で口縁端部が大きく外方に
広がっている。16 世紀代の所産とみられる。201 は
茶白 (上白) である。直径約 19 cm の円柱で中央に穀
落しの孔、側面に挽手孔が 2 箇所ある。擦面は 8 分
画で最大 4 mm 程度のふくみがある。

(3) No.3 調査坑 (第 12・13 図)

灰褐色粘土質シルト層 (202～205) 202・203 は
南伊勢系土師器皿で、202 が C 形態、203 が D 形態で
ある。

204 は瀬戸美濃産天目茶碗である。高台内側のケ
ズリは浅く、高台部の器壁が厚い。外面下半部は錆
釉が認められる。大窯第 3 段階の所産か。205 は古
瀬戸直縁大皿又は折縁深皿の底部付近とみられる。
内面見込が僅かに摩耗している。古瀬戸後期様式
のものである。

黄橙色シルト～灰褐色粘砂層 (206～216) 206・
207 は南伊勢系土師器である。206 は皿 D 形態であ
る。207 は鍋である。口縁端部を三角形に折り返
すもので、第 4 段階に相当する。

208 ～ 212 は古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器であ
る。208 は瀬戸美濃産丸皿で、内外面に灰釉がかかる。
大窯第 3 段階に収まるものか。209・210 は古瀬戸折
縁深皿や卸目付大皿等の口縁部で、古瀬戸後期様式
に比定される。いずれも灰釉がかかっている。211・
212 は播鉢である。いずれも錆釉がかかり、口縁端
部の形状から 211 が古瀬戸後期様式、212 が大窯第
1 段階に比定される。

213・214 は青磁碗である。213 の外面は細蓮弁文
が崩れたような文様が認められ、釉は黄色味が強い。
214 は高台から内側の器壁が厚く、高台で囲まれた
部分は無釉である。内面見込み部に圈線が 1 条認め
られる。213 がⅥ類新相、214 がⅥ類古相に比定され
る。215・216 は青花皿である。215 は腰部から大き
く外反する端反皿で、見込に草花文が描かれる。216
は碁筭底の皿 C 群で見込に擬人化した吉祥文字が描

かれる。いずれも 16 世紀代のものとみられる。

炭層 (217 ~ 221) 217 ~ 219 は瀬戸美濃産陶器である。217・218 は丸皿で、灰釉がかかる。大窯第 3 段階に収まるものである。219 は瀬戸美濃産陶器播鉢である。口縁端部が上下に延び縁帯を形成している。内面の播目が認められる辺りは、使用による摩耗が認められる。大窯第 2 段階後半から第 3 段階に収まるものである。220 は常滑産陶器捏鉢である。焼きが甘く、いわゆる赤物である。(原田)

221 は北宋銭で、皇宋通宝の真書。「通」字の上下にクラックが入るが割れには至っていない。(大川)
褐灰色粘土質シルト層 (222 ~ 228) 222 ~ 223 は土師器茶釜蓋、224 ~ 227 は土師器茶釜である。基本的には南伊勢系であるが、222 は端部の形状にシャープさがなく、焼成状態からみても他地域の要素を持つ可能性がある。茶釜は土瓶形の形状となり、口縁端部を外方に折り返している。19 世紀代のものである。

228 は肥前産磁器皿である。口縁部が屈曲して外方に延びる形状である。内面に花文を描く。天正年間以降のものである。

褐色粘土質シルト層 (229 ~ 230) 229 は瀬戸美濃産天目茶碗である。口縁部は上方に延び、口縁端部で僅かに外に向く。体部下半は露胎である。登窯第 3 小期に相当するか。

230 は瀬戸美濃産磁器碗である。腰部は丸味を帯びており、端反碗ないしは丸碗の類であろう。見込に花が描かれる。

(4) No.4 調査坑 (第 13・14・15 図)

褐灰色粘砂層 (231 ~ 318) 231 ~ 288・290 ~ 293・295 ~ 298 は南伊勢系土師器である。231 ~ 288 は皿である。231 ~ 233 は A 形態、234 ~ 266 は B 形態、267 ~ 280 は C 形態、281 ~ 288 は D 形態である。B 形態の口径は 7 cm 前後 ~ 9 cm 代、C 形態は 7 ~ 11 cm 代である。D 形態は 8 ~ 16 cm 代で、複数の規格が認められる。290 ~ 293 は鍋である。口縁端部を内側に折り返し強いヨコナデにより面をもつもの (290・293)、断面が三角形になるもの (291・292) がある。295 ~ 297 は羽釜である。口縁端部が強いヨコナデにより面をもつもの (295・296)、外面に折り返

し強くヨコナデをするもの (297) がある。鍋・羽釜ともに、概ね第 4 段階に比定される。289 は土師器不明品である。胎土や調整から南伊勢系土師器とみられるが、類をみない器種である。294 は中北勢羽釜である。

298 は瓦質土器羽釜である。鏝との接合部から下はケズリ、上は丁寧なミガキ調整がなされる。鏝部以下は全体的にススが付着している。

299 ~ 311 は古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器である。299 は天目茶碗である。体部下半は薄く錆釉がかかる。古瀬戸後期様式 IV 期新に収まるものであろうか。300 は腰部から口縁部にかけて外反する端反皿である。内外面ともに透明釉がかかる。301 は向付で、長石釉がかかり、見込みに鉄絵が描かれる。302・303 は小鉢で、底部をわずかに削り込み低い高台を形成する。腰部はやや丸味を帯び、残存部は無釉である。高台の形状等から古瀬戸後期様式の小鉢になるとみられる。304 ~ 310 は鉢類である。304 は内面に卸目が認められ、卸目付大皿である。305 ~ 308 は直縁大皿ないしは卸目付大皿の類になるであろう。古瀬戸後期様式に収まるものである。309・310 は播鉢である。いずれも鉄釉がかかり、口縁端部は内側に小突起が認められる。大窯第 4 段階後半頃のものか。

311 ~ 313 は磁器である。311 は青磁碗である。体部下半、高台ともに厚みがあり、釉は高台内面以外に厚くかかる。312 は白磁皿である。挟りのある高台で、畳付部以外は釉がかかる。形状は D 群とほぼ同じであるが胎土や釉のかかり方をみると、典型的な D 群よりやや新しい可能性がある。16 世紀代以降のものか。313 は青花端反皿 B 群である。外面に唐草文、見込みに玉取獅子文を描く。16 世紀中頃のものである。

314 ~ 318 は常滑産陶器で、314 ~ 316 が甕、317・318 が捏鉢である。314・315 ともに口縁部の内側が盛り上がり、縁帯は外縁に付着する。10 型式に収まる。317・318 は口縁端部が幅広の面を持ち、上下端部が拡張する。いずれも内面は使用による摩耗が認められる。概ね 10 ~ 11 型式に比定される。

灰黄褐色粘土質シルト層 (319 ~ 323) 319・320 は南伊勢系土師器皿である。319 は近世皿 C に、320

は近世皿Bとみられる。

321は瀬戸美濃産陶器播鉢である。口縁端部が上方に延び、丸味を持つ。大窯第3段階に比定される。

322・323は磁器である。322が白磁小杯で、見込みは蛇の目釉剥ぎとなっている。323は青花皿C群である。口縁部は軽く内湾し、外面に波濤文・芭蕉葉文が描かれる。

灰黄褐色シルト層(324～326) 324・325は青花碗で、324は外面に、325は見込み部にそれぞれ花文が描かれる。325は碗E群とみられ、畳付が無釉で砂粒が付着する。326は肥前産磁器皿である。326の畳付も325と同様で、高台内部は放射状に皷痕が残る。見込みに人物が、高台内部に角福とみられる銘款がある。

褐色粘土質シルト層(327) 327は石白(上白)である。直径約28.5cmの円柱で穀落しの孔が1箇所、側面に挽手孔が2箇所ある。擦面は8分画になるとみられる。

焼土層(328～349) 328・329は南伊勢系土師器皿で、328は近世皿A、329は近世皿Xに分類されるものである。

330～333は瀬戸美濃産陶器で、330～332は皿で、いずれも灰釉がかかる。見込み部に331は梅花文、332は菊花文が印される。大窯第1段階後半に比定される。333は練鉢とみられる。削出高台の幅は広めで段差は低い。内面は灰釉がかかり、全体的に摩耗している。登窯第9小期頃のものか。

334～346は中国産磁器で、334～336は白磁、337～346は青花である。白磁はいずれも口縁端部が外反する皿E-2群である。青花のうち337～342は皿B1群で、343～346は皿C群である。337・338・342は見込みに十字花文、外面に花唐草文を描く。339・341は見込みに牡丹唐草文を描き、339の高台内部に二重の方形で囲まれた吉祥字とみられるものが認められる。343は見込みに花文を描き、344～346は外面に波濤文・芭蕉葉文を描く。概ね16世紀前半から中頃の所産である。

347は肥前産磁器猪口である。外面に山水文を描く。19世紀前後の所産か。

348は砥石である。3面使用している。

349は瓦質土器鉢である。内面は工具によるケズ

り及びナデ調整が、外面は丁寧にミガキ調整がなされる。外面下部に剥離の痕跡があり、脚が付いていた可能性がある。

炭層(350～359) 350～355は中国産磁器である。350～353は碗で、350・352・353は碗E群とみられる。見込みは350～353が花様の模様、354は人物が描かれる。355は皿E群で、内面に花が描かれる。いずれも概ね16世紀後半の所産とみられる。

356～359は常滑産陶器で、356は播鉢、357～359が甕である。甕は口縁端部を外側に折り返し頂部に面を持つ。359は頂部が内外面に引き出され、断面形がT字状になる。概ね16世紀末から17世紀代の所産である。

(5) No.6 調査坑(第16図)

暗灰色砂礫層(360～361) 360は瀬戸美濃産皿である。底部を削り出すが、高台はわずかに認められる程度である。畳付以外は灰釉がかかる。大窯第1～2段階頃に収まるか。

361は常滑産陶器片を円形に加工したものである。打ち欠いた周辺をよく磨っている。

(6) No.7 調査坑(第16図)

暗褐色粘質土層(362～366) 362は土師器皿である。器壁が厚く、口縁端部はヨコナデを施す。中北勢のものであろうか。363・364は南伊勢系土師器である。363は皿B形態で皿b期に比定され、内外面に油煙痕が認められる。364は鍋である。第3段階で、15世紀中頃のものとみられる。

365は古瀬戸陶器碗である。削出高台で残存部の形状から平碗になるとみられる。内面は灰釉がかかる。古瀬戸後期様式頃か。

366は青磁碗である。釉は高台の内側を輪状に剥いている。内面の釉は、貫入が多く入る。V類か。

灰褐色粘質土層(367～369) 367は古瀬戸陶器で、折縁深皿ないしは卸目付大皿になるとみられる。古瀬戸後期様式のものである。368・369は瀬戸美濃産陶器播鉢である。368は鉄釉、369は錆釉がかかる。368は口縁端部が肥厚し、丸く収めている。登窯第4小期か。

3 令和5年度調査

(1) No.1 調査坑 (第16図)

暗褐色粘砂層 (370～386) 370～377は南伊勢系土師器である。370・371は皿D形態である。372は台付皿である。373～377が煮炊具で、373が焙烙、374～376が鍋、377が茶釜である。鍋は374・376が小形品、375が中形品で第4段階に比定される。377は大形品になろうか。

378・379は瀬戸美濃産陶器碗で、378が天目茶碗、379が丸碗である。378は口縁端部で外反する。379は内外面に鉄釉がかかる。大窯第3ないしは4段階であろうか。

380は常滑産陶器鉢である。粘土帯の境で剥離しているが、剥離箇所が底部付近になるとみられ、口径の割に器高が低い。

381～386は木製品で、381が皿、382が札、383・384が箸類、385・386が折敷の側板である。381は口縁部及び高台が欠損している。高台内面は黒漆が塗られ中央に「一」と朱描きされる。それ以外の部分は黒漆の上に朱漆が塗布される。樹種はケヤキである。382は柾目材で頂部を斜めに落とし、三角形を呈す。器表面は丁寧にケズっている。文字は認められなかった。383・384は周囲を面取りしたものである。樹種はいずれもヒノキである。383の断面形は384より扁平な長方形になる。385・386は柾目材で、385は2個1対の穿孔が2箇所認められる。樹種はいずれもヒノキである。

褐灰色粘質土層 (387～392) 387・388は南伊勢系土師器である。387は皿D形態である。388は茶釜で、頸部から口縁部の立ち上がりが短く口縁端部は強いヨコナデにより面を持つ。口径が27cm程度で大形品になろうか。

389～391は瀬戸美濃産陶器である。389は天目茶碗である。削出輪高台で、高台幅が狭い。腰部から口縁部に向けて直線的に広がり、口縁部で僅かに窄まって口縁端部は外反する。体部下半に薄く錆釉をかけた後、内面及び外面上半に厚く鉄釉がかかる。登窯第3小期に相当する。390・391は播鉢である。390は口縁端部が上方に延びる。大窯第1ないしは2段階のものか。391は内面が使用により摩耗して

いる。

392は青花皿である。皿付部のみ露胎である。見込みに十字花文が描かれる。16世紀代の所産か。

(2) No.2 調査坑 (第16図)

暗緑灰色砂礫層 (393～403) 393～401は南伊勢系土師器である。387～400は皿で、393～396がB形態、397～399がC形態、400がD形態である。概ねIV a～b期に収まるとみられる。397は口縁端部に油煙痕が付く。401は茶釜蓋である。

402は瀬戸美濃産陶器花瓶であろうか。頸部から口縁部にかけて大きく開くもので、灰釉がかかる。大窯第1段階のものか。

403は青花端反碗である。外面は唐草文とみられる絵付けがなされる。

褐色土層 (404～411) 404～406は南伊勢系土師器皿である。404・405は近世皿C、406は近世皿Dである。

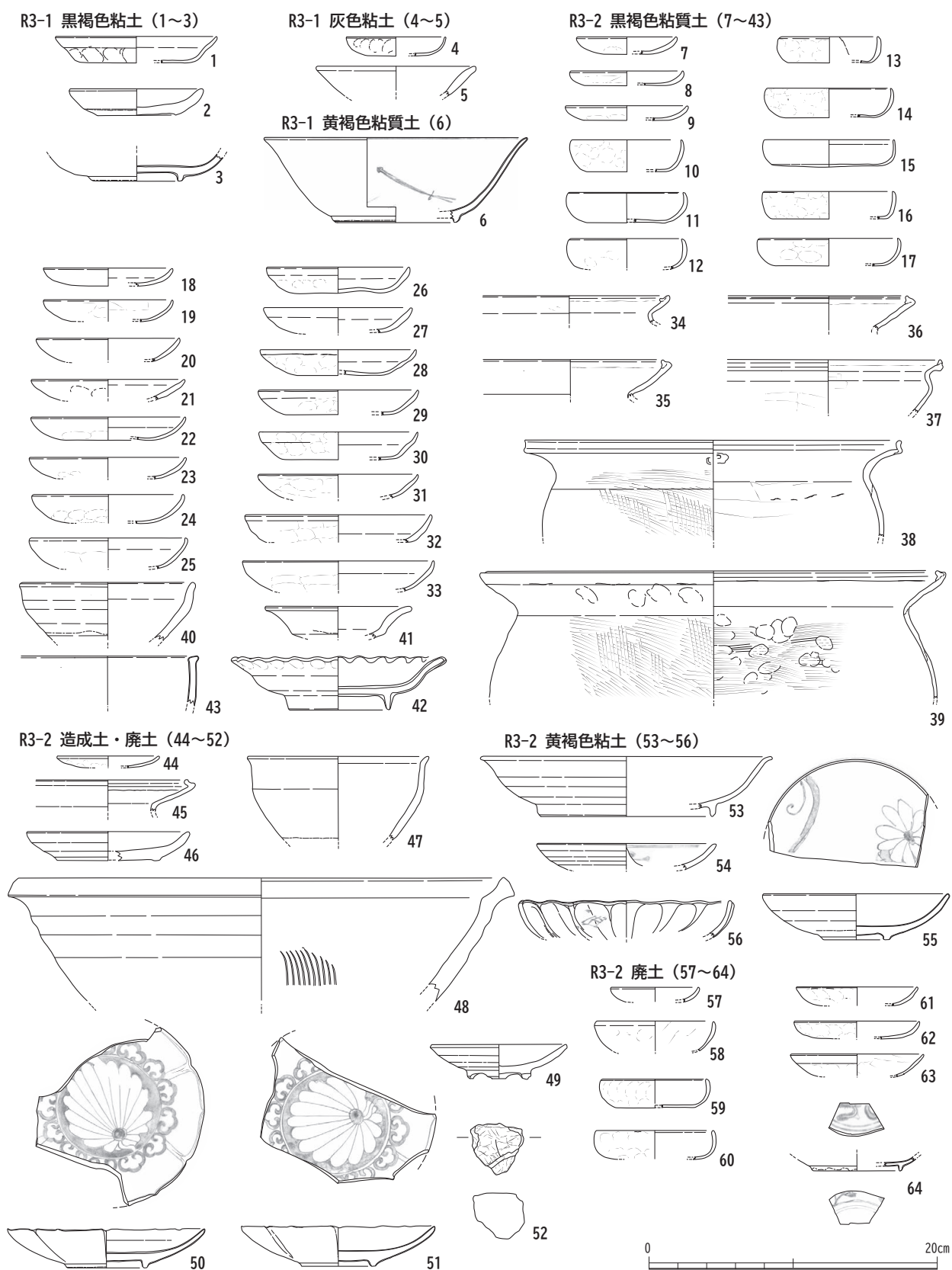
407～409は瀬戸美濃産陶器である。407は志野丸皿である。体部下半は削りこみ、高台部外側は明瞭な段差をもつが、内側の段差は僅かである。長石釉は、貫入が多く入る。登窯第3小期頃の所産か。408は播鉢である。底部外面に糸切痕が認められ、内面の播目は放射状に配する。409は瓶掛とみられる。体部外面に花卉及び葉の形をした粘土板を貼り、外面は銅緑釉が厚くかかり、内面は鉄釉が刷毛塗りされる。登窯第8小期頃のものか。

410は青磁碗である。外面に波状文様の曲線が認められる。Ⅶ類相当のものか。(原田)

411は、厚さ0.3～0.4cmの鋳物鉄片である。破片中央にバリ痕跡を残す。一端に2.5cmの立ち上がりが残るが、断片的である。鐔状製品か天水鉢状の器形が想定されるが元製品の形状は不明で、地金として割取られたものかと考えられる。(大川)

埋戻し土 (412～413) 412は古瀬戸縁釉小皿である。口縁部はやや内湾し、口縁端部に面をもつ。口縁部に鉄釉がかかり、口縁端部は摩耗により釉が剥離している。

413は南伊勢系土師器鍋である。口頸部はやや短く、口縁端部を内側に折り返して強いヨコナデを施す。



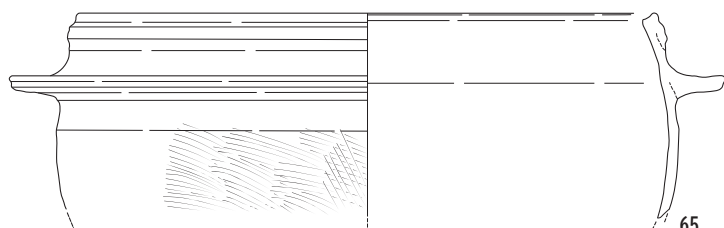
第9図 出土遺物実測図1 (1:4)

(3) No.3 調査坑 (第 17・18・19 図)
青灰色粘砂層 (414 ~ 602, 604 ~ 671, 673 ~ 691)

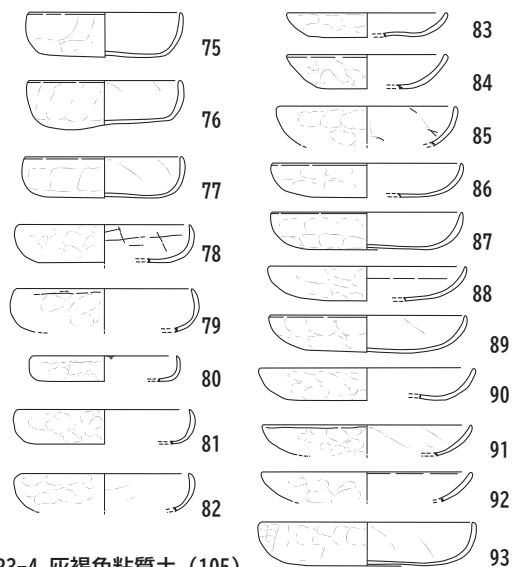
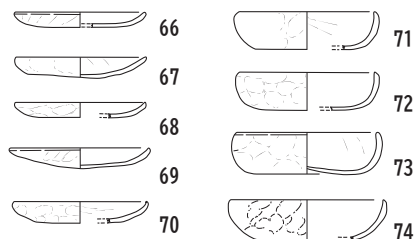
414 ~ 671 は南伊勢系土師器である。414 ~ 627 は皿で、414 ~ 428 が近世皿 A、429 ~ 453 が近世皿 B、454 ~ 560 が近世皿 C、561 ~ 620 が近世皿 D、621 ~ 627 が近世皿 X である。特に C・D の出土量が多い。口径は、A が 5 ~ 7 cm 前後、B が 5 cm 前後である。C が 5 ~ 9 cm 前後、D が 8 ~ 10 cm、12、14 cm 前後と規模がバラエティーに富むが、出土量によるものかもしれない。油煙痕が一定量認められるが、特に近世皿 D が多い傾向にある。628 は不明品である。629 ~ 631 は鉢形になるうか。631 は注口部分である。632 ~ 663 が鍋ないしは焙烙である。632 ~ 647・649・655 は口径が 20 cm に満たない小形品で

ある。632・634・637 は体部が張り頸部が狭く窄まり、口縁部に向けて広がる形状を持ち、口縁端部を内面へ折り返すもので、中世小形鍋 A に近い形状のものである。646・647 は近世鍋 D、649 は近世鍋 X、655 は近世鍋 C の小形品である。633・635・636・638 ~ 645 は焙烙 C である。頸部径と体部最大径がほぼ同じで、口縁部が大きく広がる形状である。635・641・645 は、体部最大径付近に焼成後穿孔が認められる。648 は形状が皿状となるもので、類例はあまりない。内外面共にススが付着している。650・651・659 ~ 661 が近世鍋 B、652・653・656・657 が近世鍋 C、658 が近世鍋 D。662・663 焙烙 B であろうか。664・665 は羽釜である。鰐部端部は強いヨコナデにより面を持ち、口縁部は 664 が面を持つもの

R3-3 暗褐色粘土 (65)



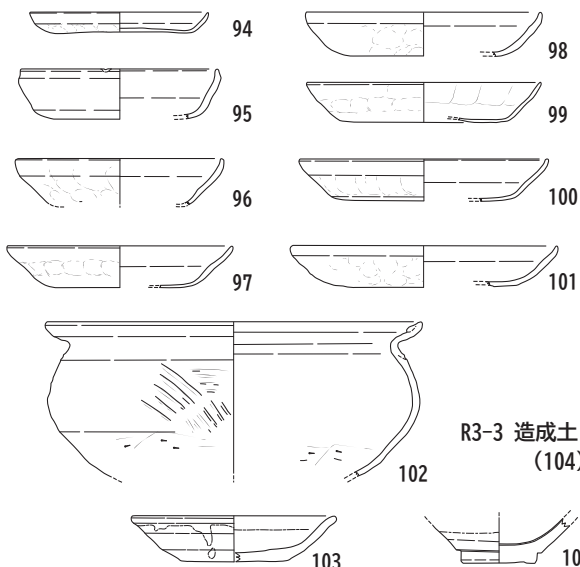
R3-3 黒褐色粘質土 (66~103)



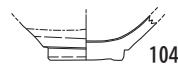
R3-4 灰褐色粘質土 (105)



R3-4 造成土 (106~109)

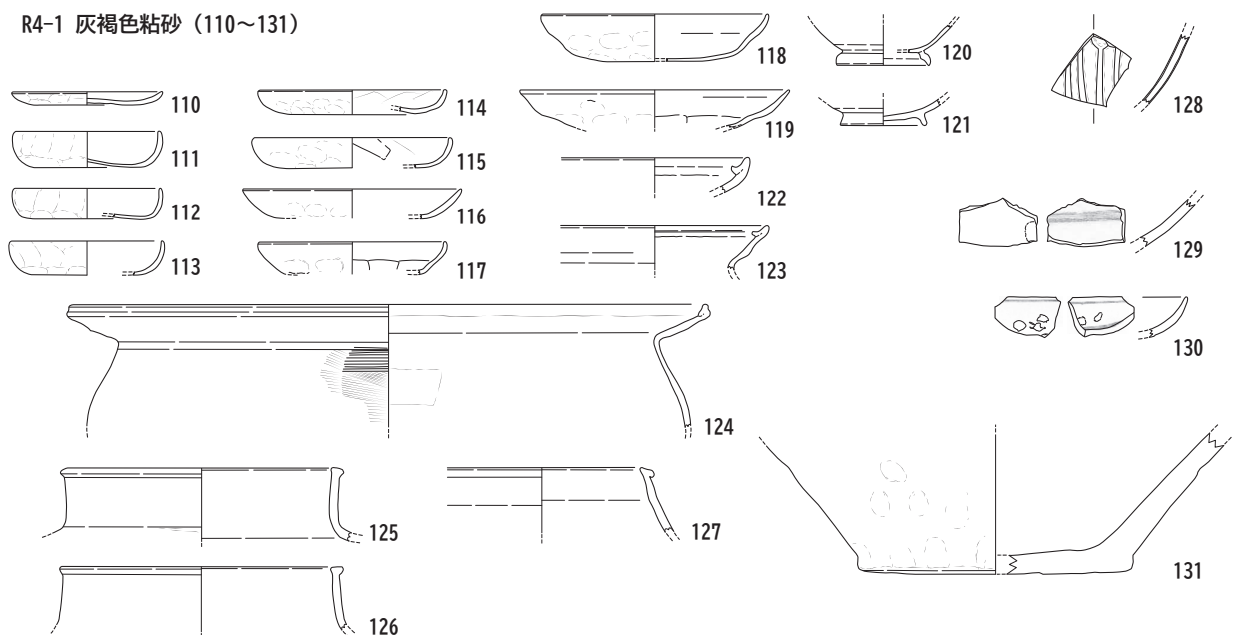


R3-3 造成土 (104)

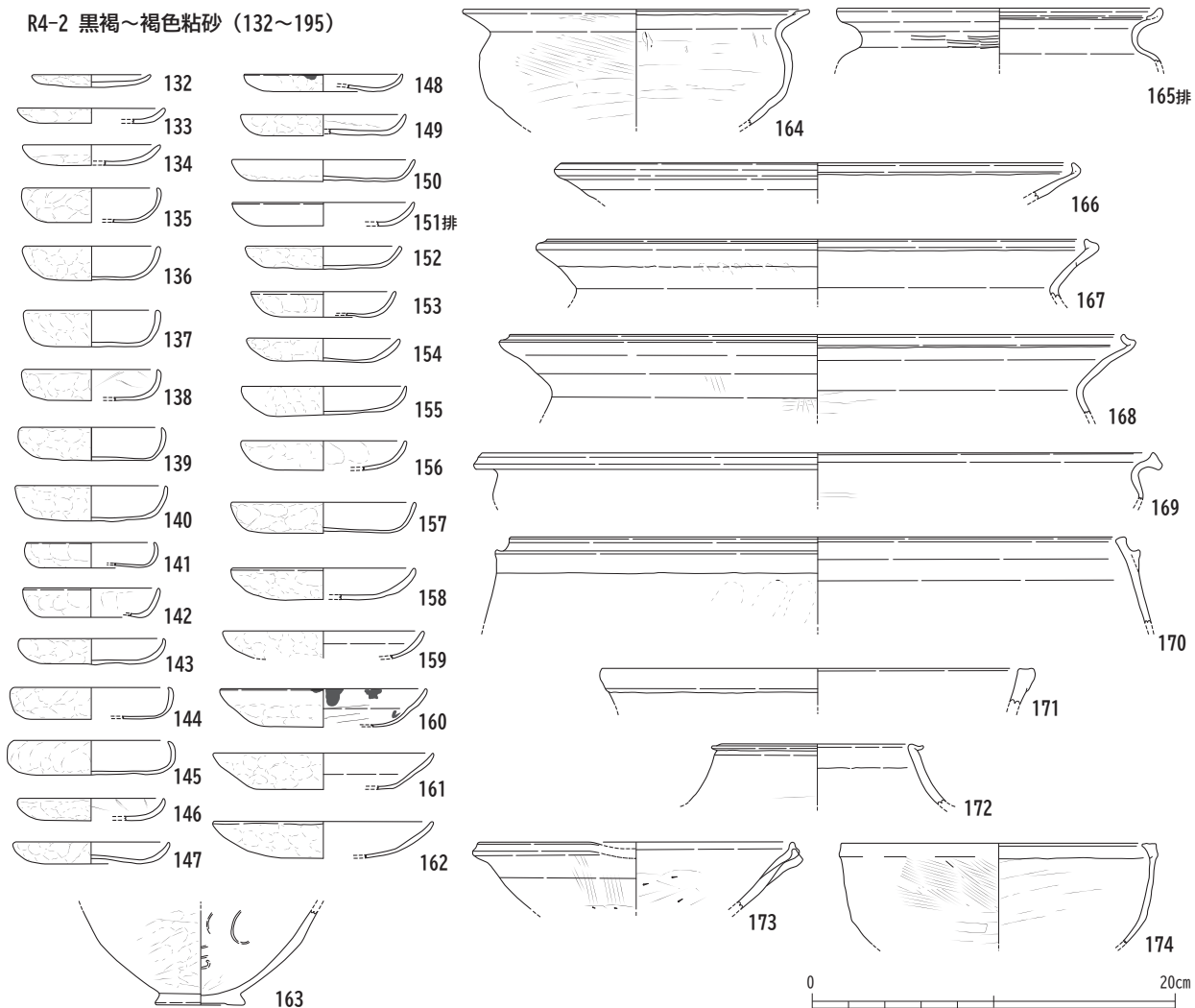


第 10 図 出土遺物実測図 2 (1 : 4)

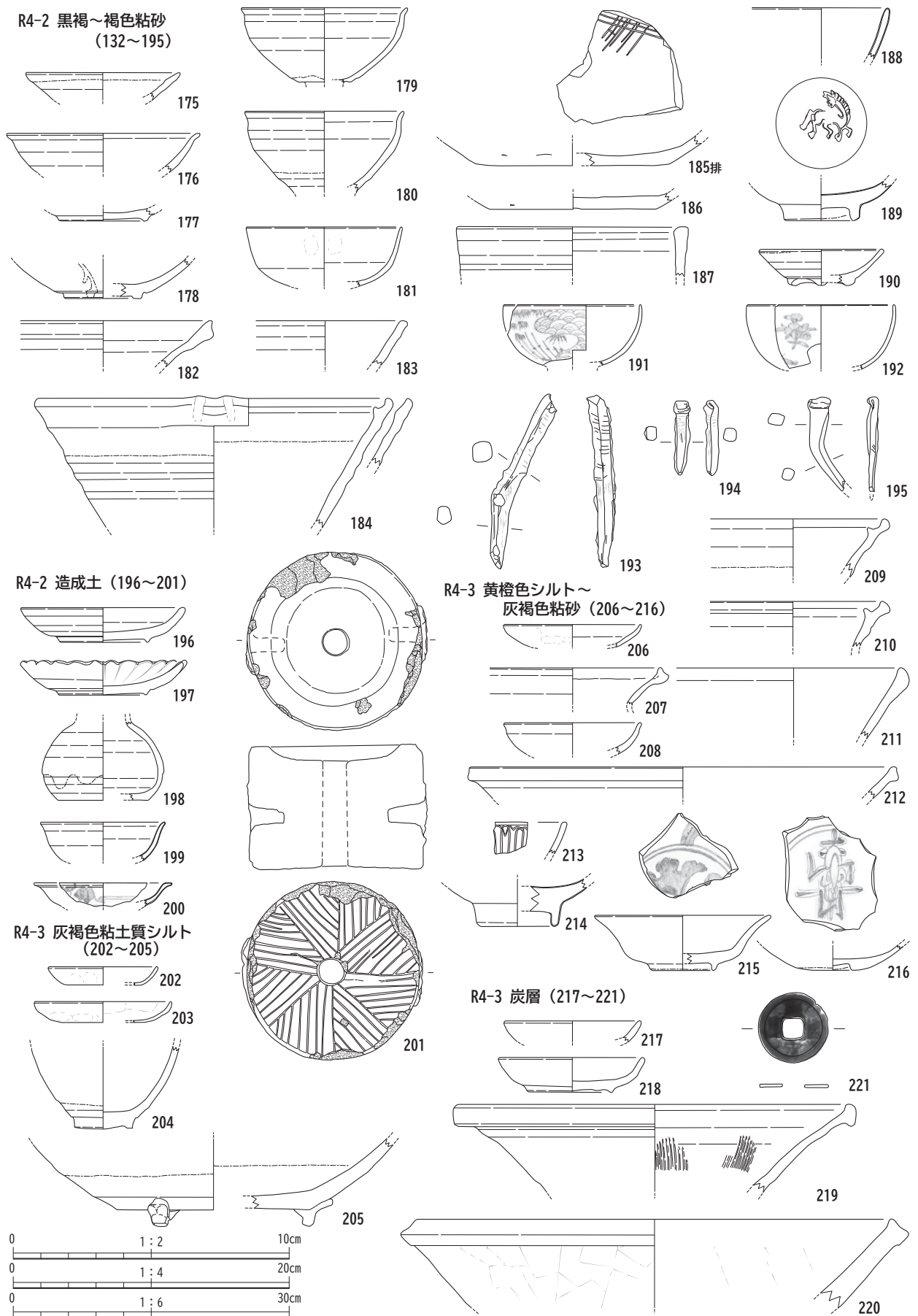
R4-1 灰褐色粘砂 (110~131)



R4-2 黒褐~褐色粘砂 (132~195)

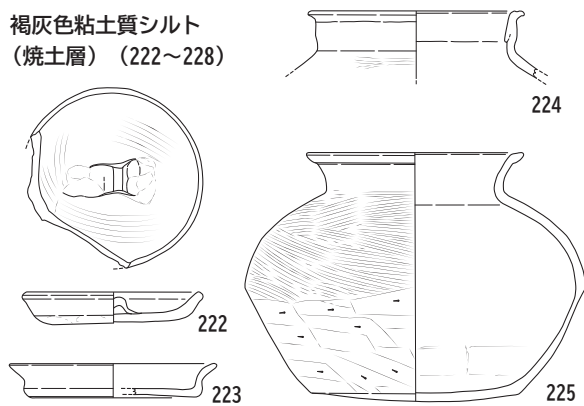


第11図 出土遺物実測図3 (1:4)

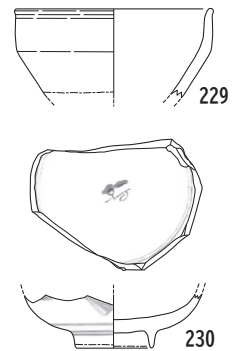


第 12 図 出土遺物実測図 4 (193～195・221 は 1:2、201 は 1:6、その他 1:4)

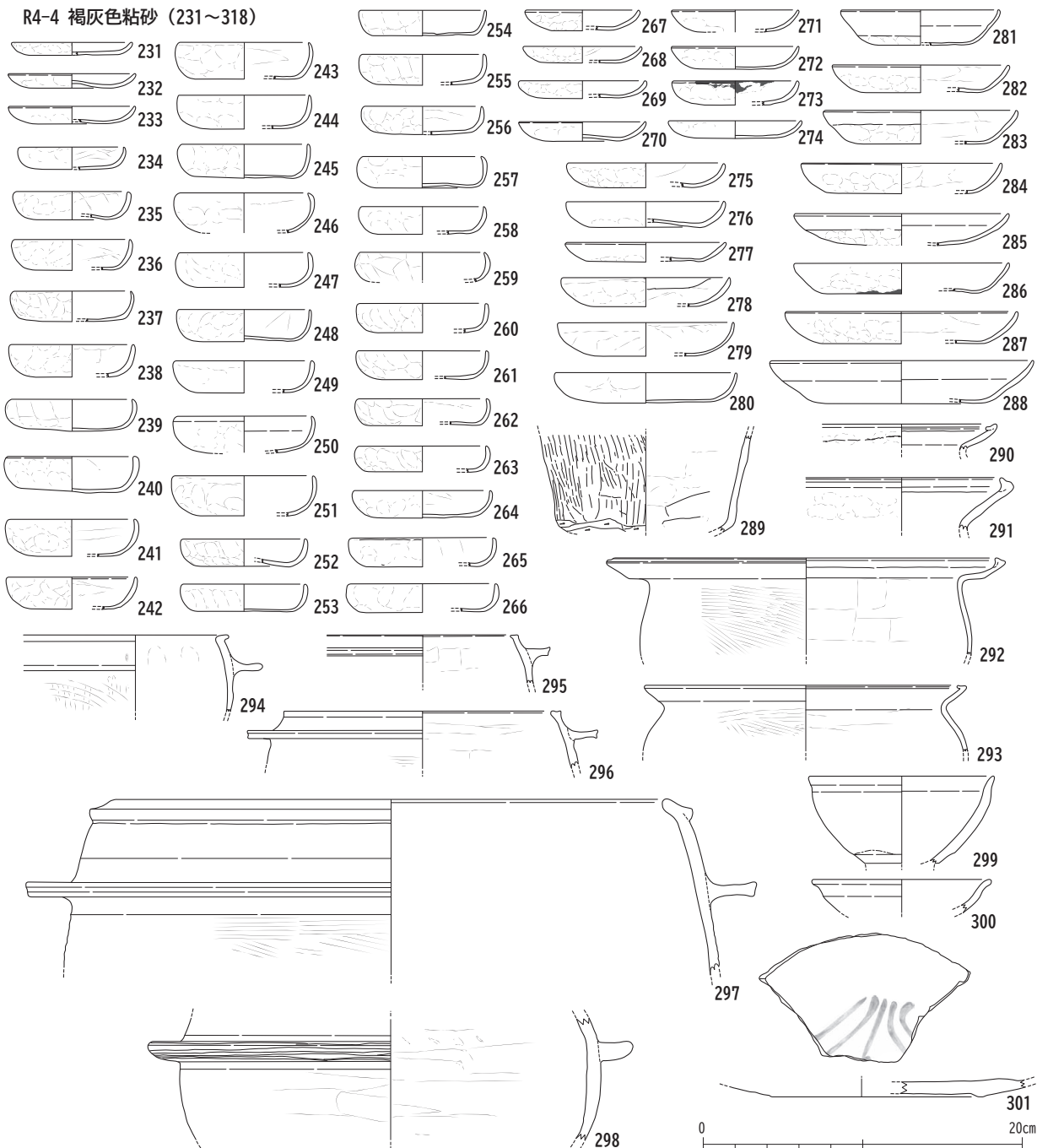
R4-3 褐灰色粘土質シルト
(焼土層) (222~228)



R4-3 褐色粘土質シルト
(229~230)



R4-4 褐灰色粘砂 (231~318)



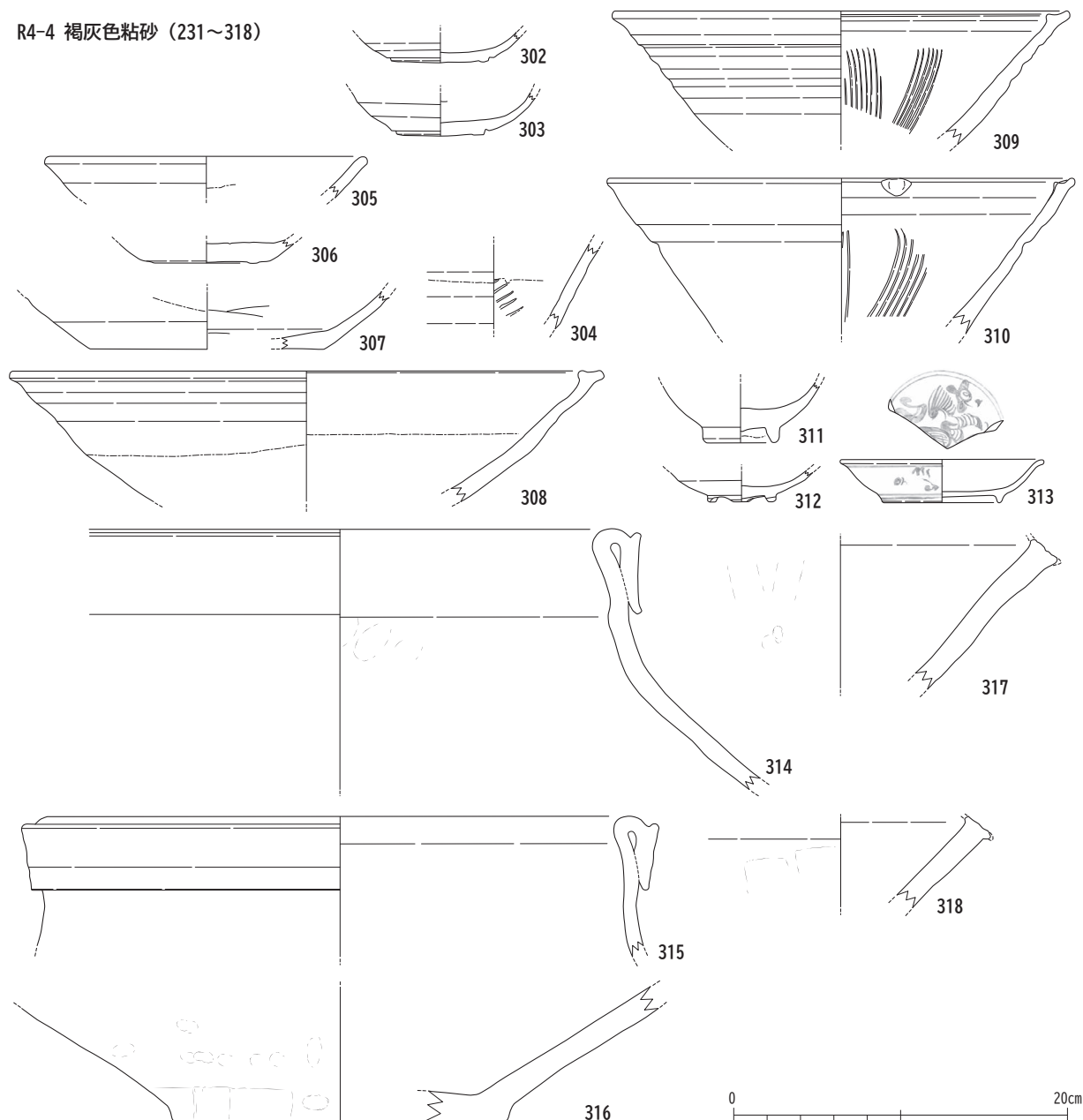
第13図 出土遺物実測図5 (1:4)

で、665 が端部を外方に折り返しヨコナデで調整している。666～667は茶釜蓋、668～669は茶釜である。668は小形品である。670・671は十能である。いずれも内外面ともにススが付着している。

673～684は、瀬戸美濃産陶器である。673・674は志野丸皿である。口径に比して器高が低く、高台外部の削出しが明瞭な673とケズリの単位がそれほど明瞭でない674がある。登窯第3～4小期頃か。675は鉄絵皿である。腰部で上方に立ち上がり、口縁部は外方に広がる形状である。見込みに蘭竹文の鉄絵を施す。外方に広がる口縁部内面に銅緑釉を、

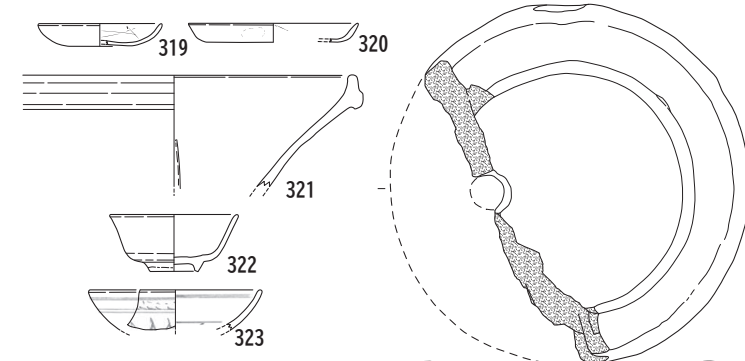
見込み部及び外面上半に灰釉をかけ分けている。美濃窯連房Ⅱ期に相当する。676は瀬戸美濃産卸皿である。底部は糸切り痕があり、部分的に灰釉の釉垂れがみられる。677～679は鉢である。677・678は口縁部が大きく外方に広がる形状である。灰色の緻密な胎土で透明釉がかかる。釉は貫入が多く入る。679はいわゆる向付で、志野釉は灰色がかっている。680～682は円柱形を呈し、外面は底部付近まで、内面は口縁部付近まで鉄釉がかかる。半胴であろうか。683・684は茶入である。肩が張る形状で、肩部径は5～6cmである。外面に鉄釉がかかる。美濃窯

R4-4 褐灰色粘砂 (231～318)

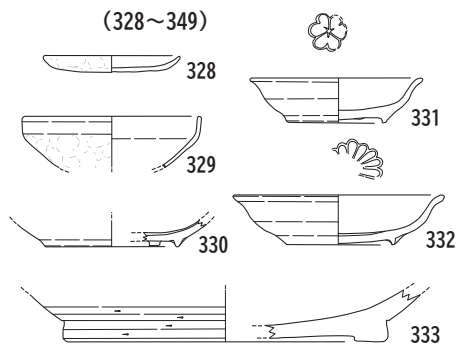


第14図 出土遺物実測図6 (1:4)

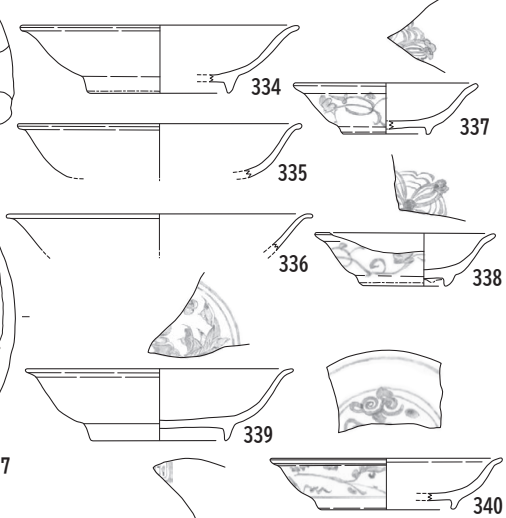
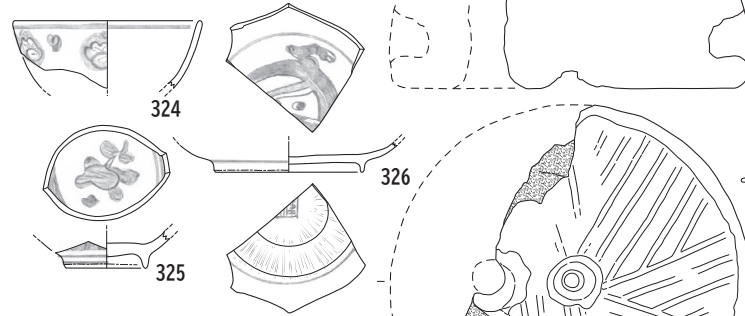
R4-4 灰黄褐色粘土質シルト (319~323) R4-4 褐色粘土質シルト (327)



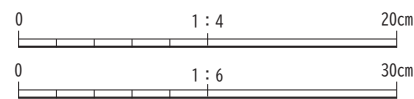
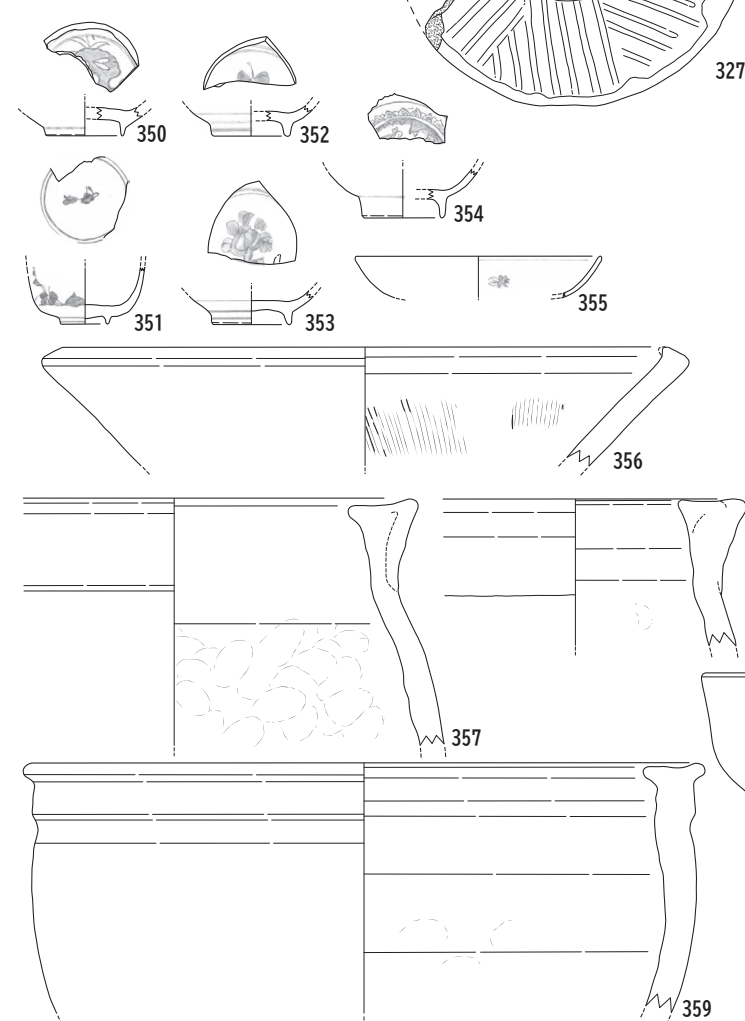
R4-4 焼土層
(328~349)



R4-4 灰黄褐色シルト (324~326)



R4-4 炭層 (350~359)



第15図 出土遺物実測図7 (327は1:6、その他1:4)

連房Ⅱ期に相当する。

685・686は常滑産陶器である。685は捏鉢とみられるが、器高が低く歪んでいる。686は甕である。口縁部は外側に折り返し、ヨコナデにより密着させる。肩部は張らず12型式に収まるものであろう。

687は肥前産磁器端反皿である。(原田)

688は工具柄の冠(かつら)と考えられる、幅0.8cmの薄板を卵形に鍛接した製品である。刀子鞘の鍍金具かとも考えたが、鍛接端がわずかに喰い違い丁寧な造作ではないことから、工具部材と考えた。689は和釘である。釘頭は頭巻とし、断面は略方形、脚先先端をわずかに欠損する。690は鑄鉄片である。厚さ0.35cmで、外面に2箇所の剥離箇所がある。(大川)

691は砥石である。擦痕が2面、認められる。
造成土層(692) 692は、瀬戸美濃産磁器碗である。外面には青海波と鳥が描かれるか。

(4) No.4 調査坑(第20図)

暗褐色粘質砂層(693～699) 693～696は南伊勢系土師器である。693・694は近世皿D形態、695は近世皿X形態である。693は油煙痕が認められる。696は鍋または焙烙である。

697は瀬戸美濃産陶器丸碗である。内外面に灰釉がかかる。

698は産地不明陶器である。形状から瓶ないしは小壺とみられる。外面に薄く鉄釉をかける。底部外面は糸切後丁寧にナデ調整を施し、「ニ」様の線刻が認められる。外面は全体的にススが付着している。

699は常滑産陶器捏鉢である。赤物で、内面は磨耗している。

(5) No.6 調査坑(第20図)

S K 2(700～707) 700～705は南伊勢系土師器である。700～703は皿で、700・701がB形態、702がC形態、703がD形態である。703は口縁部に油煙痕が認められる。概ねIVb～IVc期頃のものか。704・705は鍋である。口縁端部を内側に折り込み、断面三角形状となるもので、第4段階である。(原田)

706・707は和釘脚先片で、706は1.1cm、707は1.8cm残存する。いずれも断面は略方形である。(大川)

(6) No.7 調査坑(第20図)

暗灰褐色砂礫層(708) 常滑産陶器甕である。11型式に比定される。

(7) No.8 調査坑(第20図)

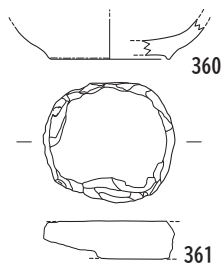
褐色粘質土層(709) 山茶碗である。渥美窯2a型式に収まるものである。

暗褐色礫層(710～714) 710～713は南伊勢系土師器皿である。いずれもD形態で、口径は710～712が10cm前後、713が13cm代である。712は油煙痕が認められる。これらの土師器は概ね16世紀代の所産とみられる。

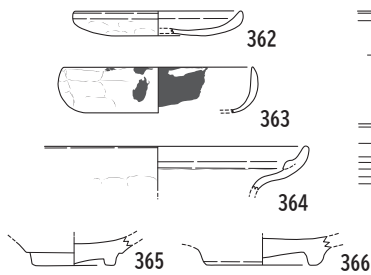
714は板材である。側面に鋸引による段差や鋸引痕が認められる。樹種はマツ属複雑管束亜属である。
暗褐色粘質土層(715～720) 715～720は南伊勢系土師器である。715～718は皿である。715～718が近世皿C、719が近世皿Dである。口径は、715～717が7cm代、718・719が9cm代である。717・719は、油煙痕が認められる。720は焙烙である。

(原田)

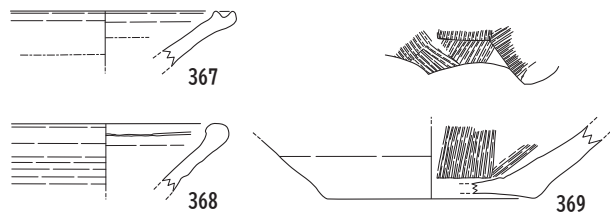
R4-6 暗灰色砂礫（木片混）
（360～361）



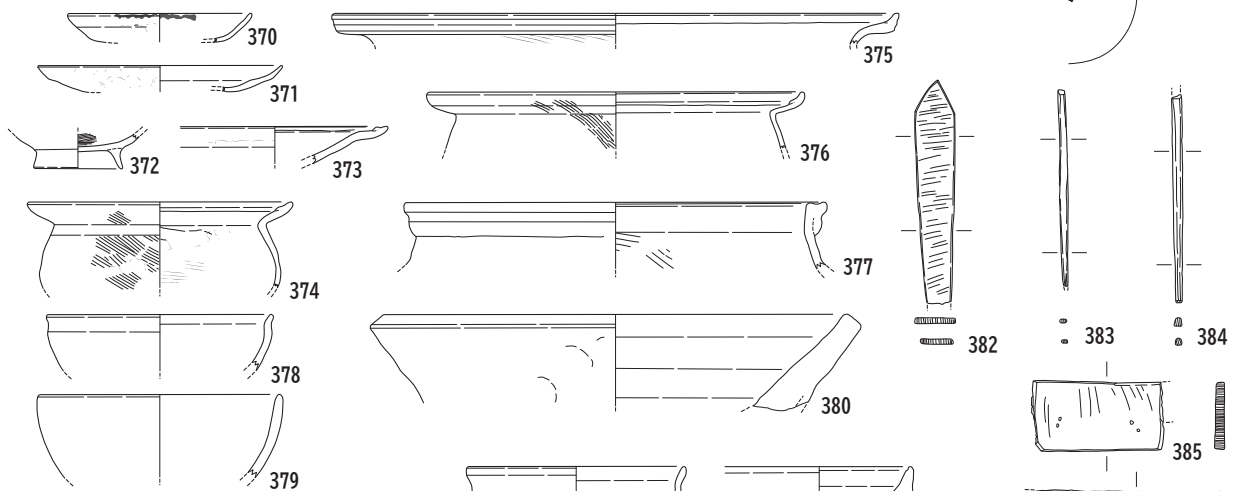
R4-7 暗褐色粘質土（炭混）
（362～366）



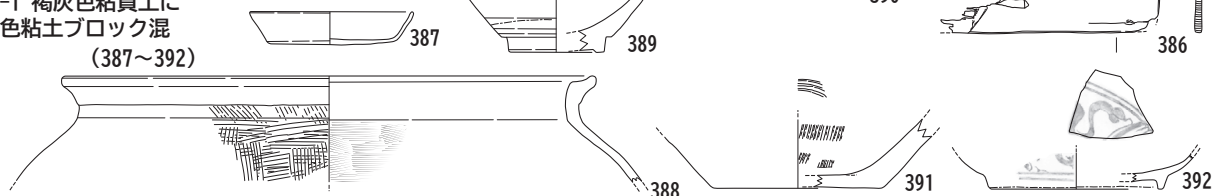
R4-7 灰褐色粘質土（礫混）
（367～369）



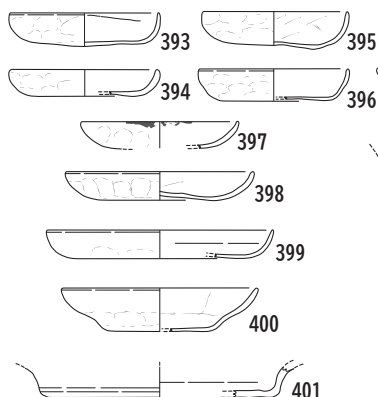
R5-1 暗褐色粘砂（370～386）



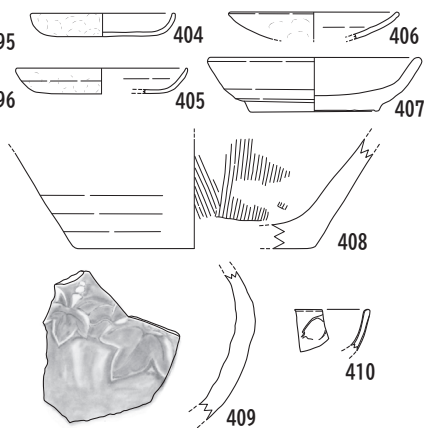
R5-1 褐灰色粘質土に
灰色粘土ブロック混
（387～392）



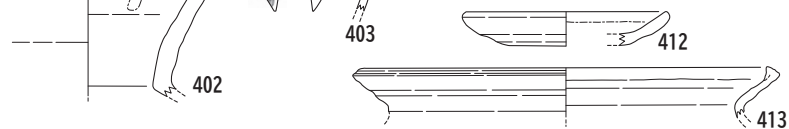
R5-2 暗緑灰色砂礫（393～403）



R5-2 褐色土（盛土）（404～411）

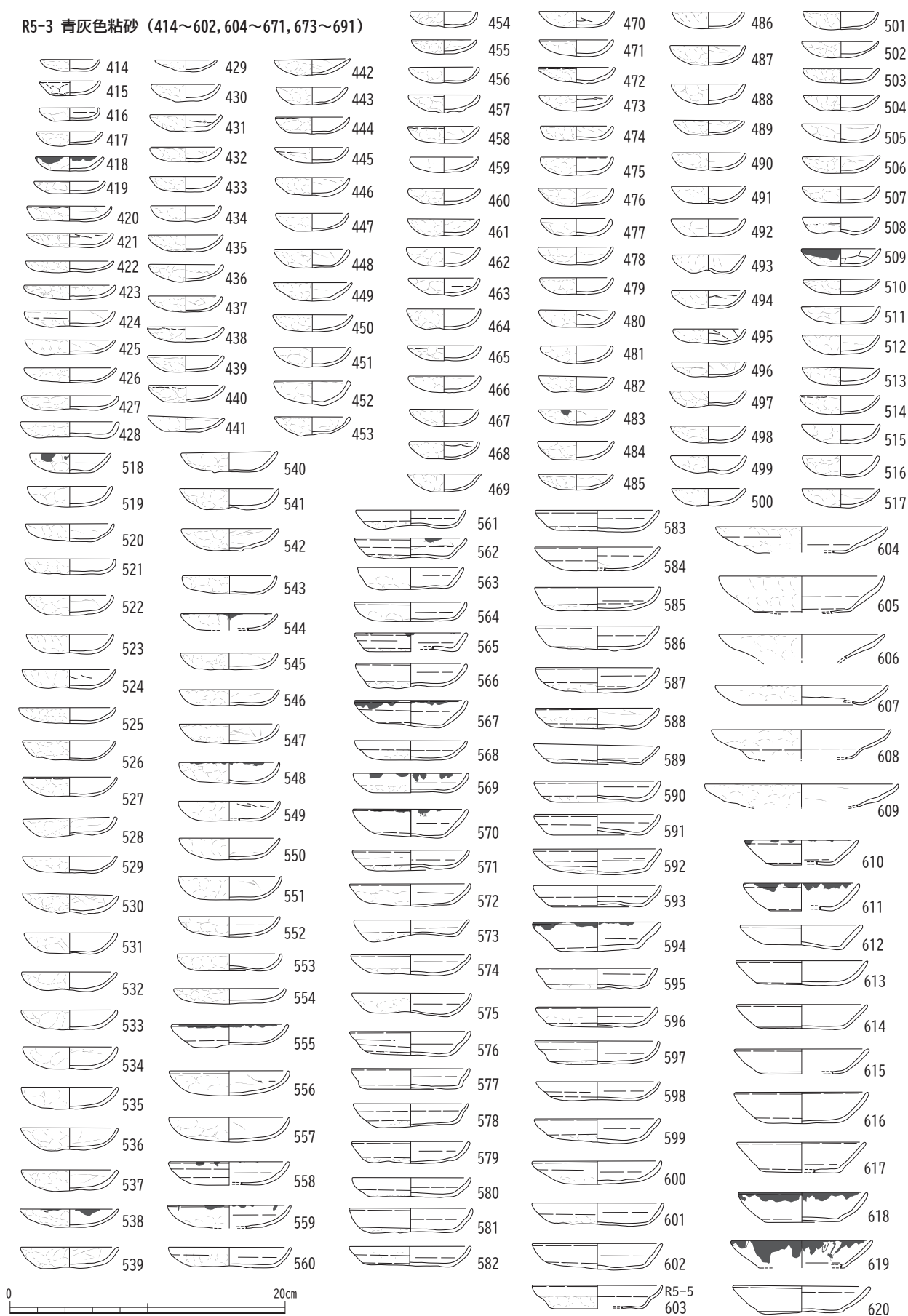


R5-2 埋戻し土（412～413）



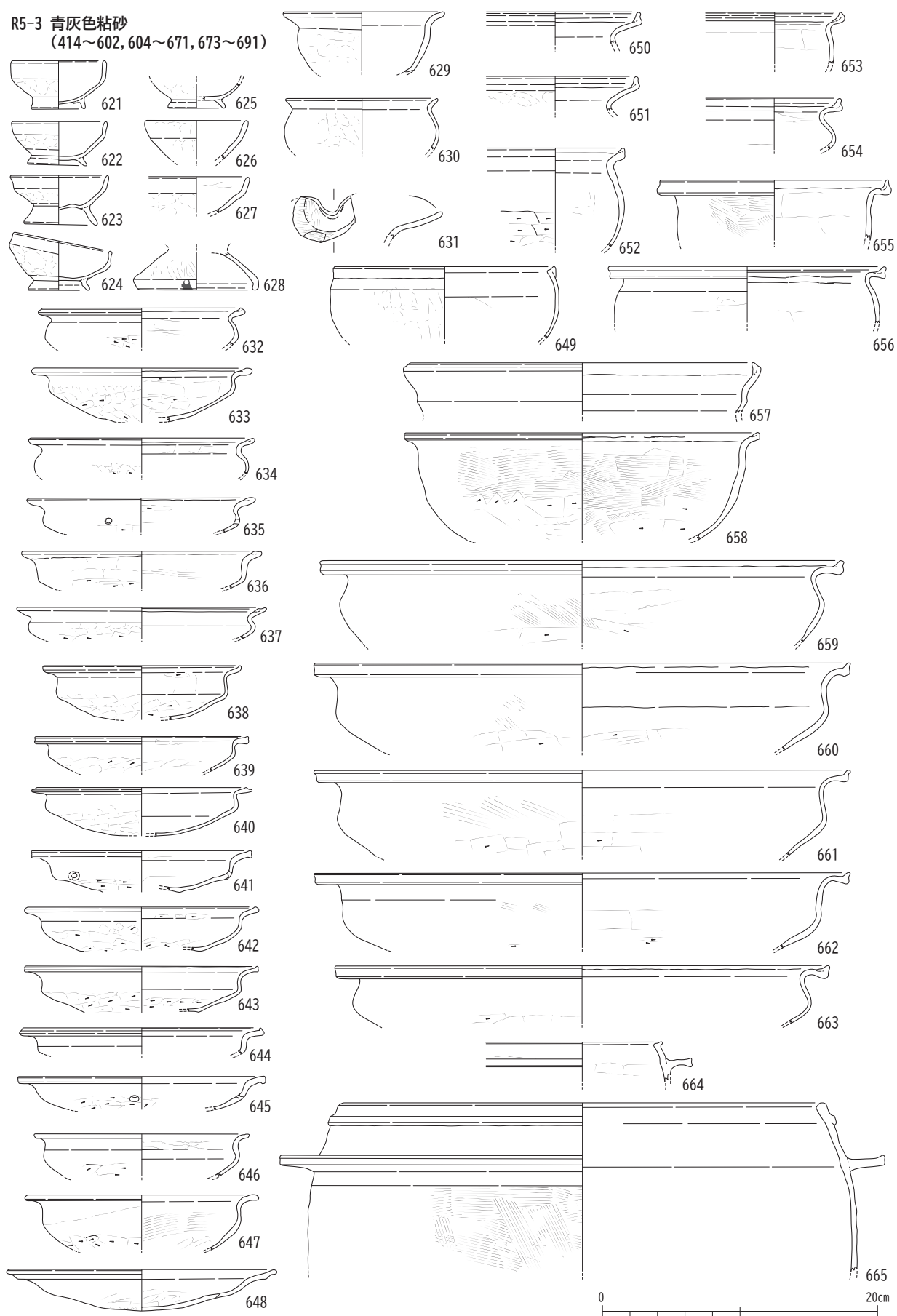
第 16 図 出土遺物実測図 8（1：4）

R5-3 青灰色粘砂 (414~602, 604~671, 673~691)



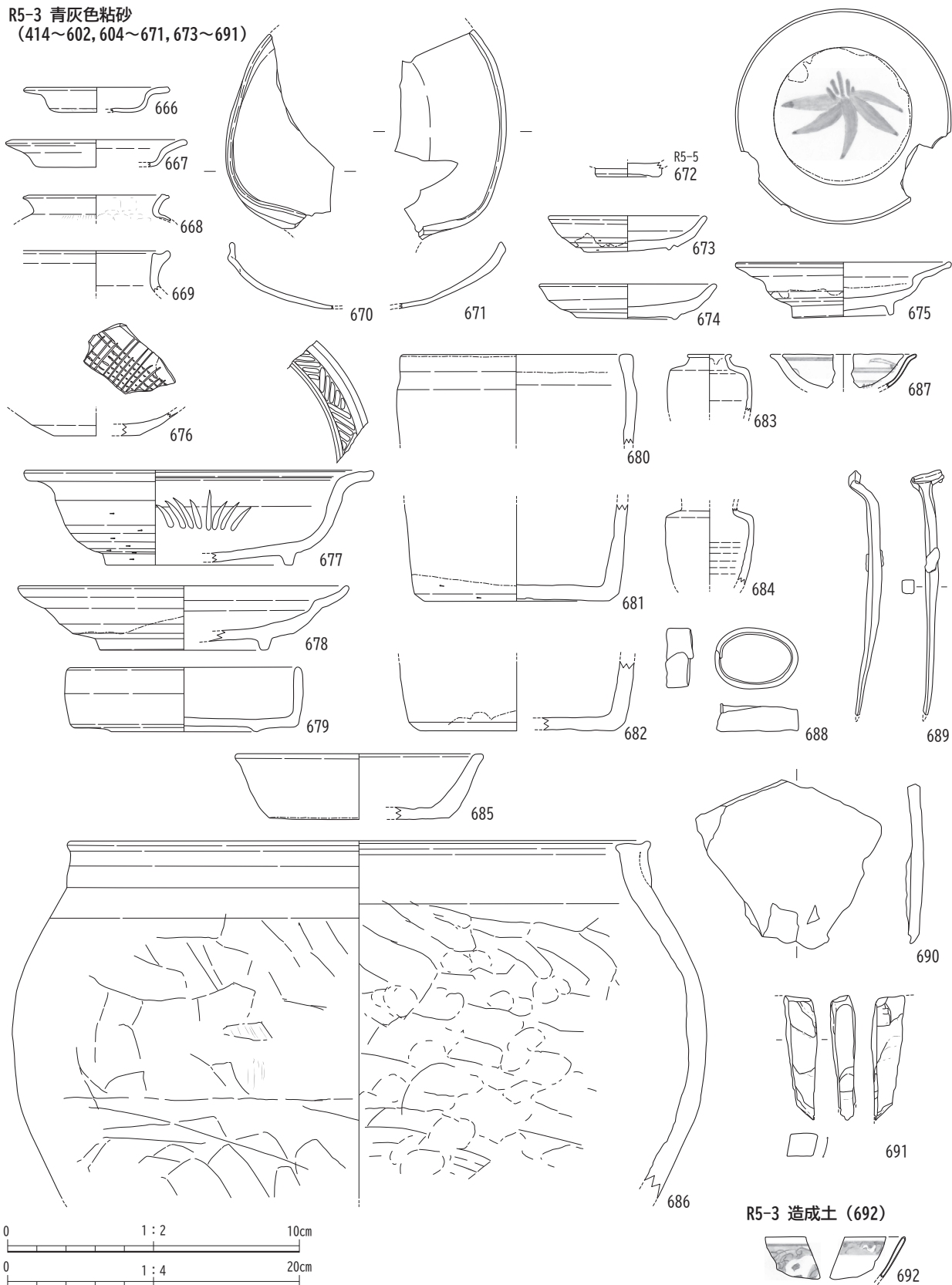
第 17 图 出土遺物実測図9 (1: 4)

R5-3 青灰色粘砂
(414~602, 604~671, 673~691)



第 18 図 出土遺物実測図 10 (1 : 4)

R5-3 青灰色粘砂
(414~602, 604~671, 673~691)



第 19 図 出土遺物実測図 11 (688 ~ 690 1 : 2、その他 1 : 4)

【参考文献】

山茶碗 安井俊則 2012「第1章総論 第2節渥美窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県
 中世土師器（供膳具） 伊藤裕偉 2008「中北勢地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
 伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
 森川常厚 2008「伊賀地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
 中世土師器（煮炊具） 伊藤裕偉 2008「中北勢地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
 伊藤裕偉 2008「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2 三重県
 伊藤裕偉 1996「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
 近世土師器（供膳具・煮炊具） 三重県埋蔵文化財センター 2015「VI-4 近世土師器の形態と変遷」『高河原遺跡発掘調査報告』
 古瀬戸・瀬戸美濃産陶磁器（供膳具・貯蔵具等） 多治見市教育委員会 1993「第9章江戸時代・明治時代前半代の美濃窯編年と製造品

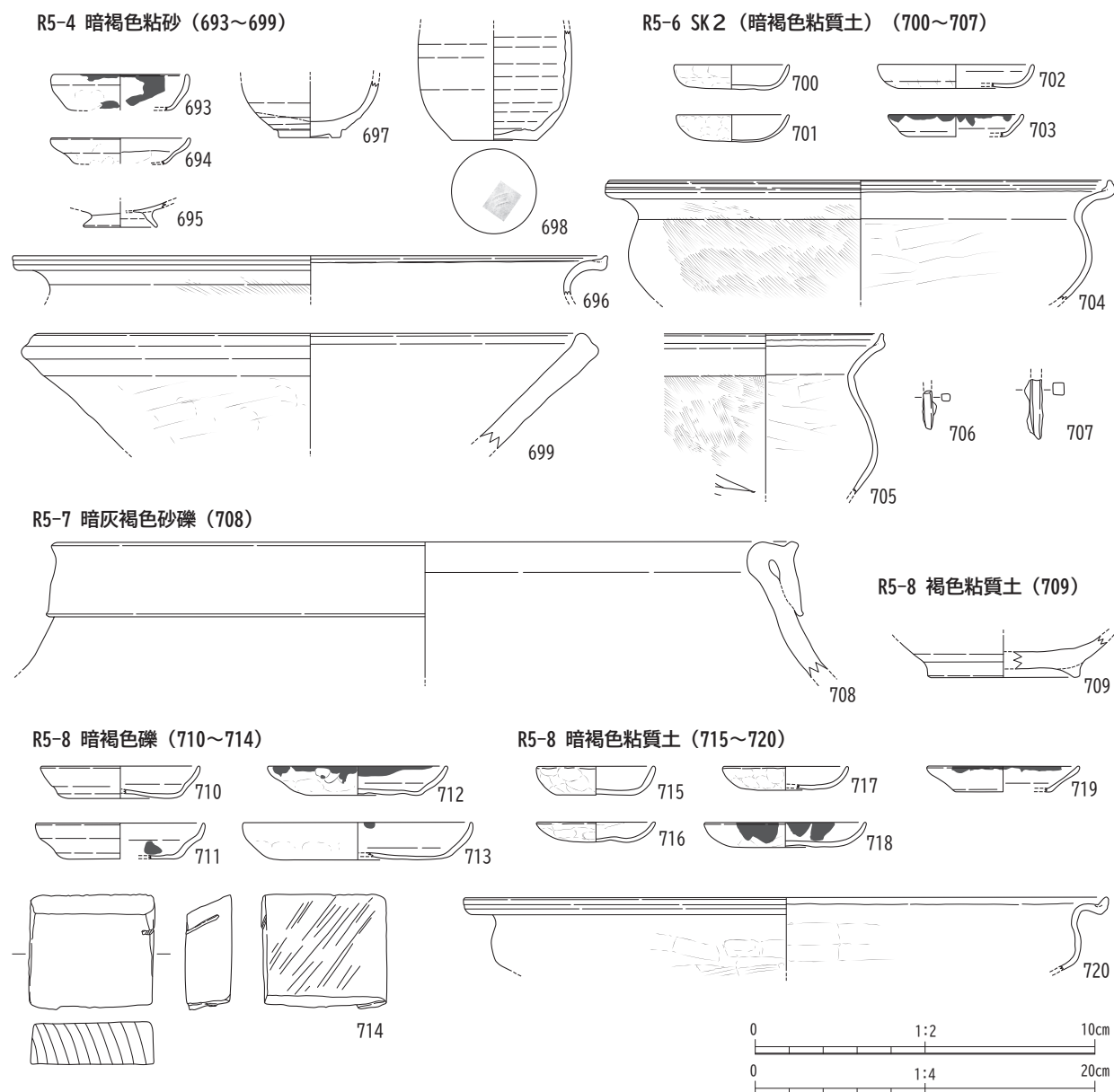
種」『多治見の古窯第3号 美濃窯の焼物』特集写真で見える美濃焼の歴史

藤澤良祐 2007「第1章総論 第3節古瀬戸生産の成立と展開」『第1章総論 第4節瀬戸大窯の時代』「第1章総論 第5節尾張藩政下の瀬戸窯業」『愛知県史』別編窯業2 中世・近世 瀬戸系 愛知県

常滑産陶器（貯蔵具等） 中野晴久 2012「第1章総論 第3節常滑窯」『愛知県史』別編 中世・近世 常滑系 愛知県

白磁・青磁・青花（供膳具） 大橋康二 2017「日本などにおいての出土の明清の中国磁器（染付中心に）」『日本における明清の中国磁器』近世陶磁研究会

續伸一郎 2022「第7章貿易陶磁器 第2節中世後期の貿易陶磁器」『新版概説中世の土器・陶磁器』日本中世土器研究会編 真陽社
 肥前産磁器（供膳具） 野上建紀 2000「磁器の編年（色絵以外）1. 碗・小坏・皿・紅皿・紅猪口」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会 10周年記念 九州近世陶磁学会



第20図 出土遺物実測図12（706～707 1：2、その他1：4）

第1表 遺物観察表1

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
1	001-01	土師器	皿	R3-1	黒褐色粘土	□11.2 高1.8	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/1 灰白	□2/12	南伊勢系
2	001-05	陶器	丸皿	R3-1	黒褐色粘土	□9.4 高1.8	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（長石釉） 内：ロクロナデ、施釉（長石釉）	密	2.5Y8/3 淡黄 2.5Y8/1 灰白/釉	□10/12	瀬戸美濃産（志野）
3	001-06	磁器 （青磁）	皿	R3-1	黒褐色粘土	台6.4	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	7.5YR8/2 灰白 5G7/1 明オリブ灰・ 7.5Y6/2 灰オリブ/釉	台4/12	中国産 量付無釉
4	001-04	土師器	皿	R3-1	灰色粘土（礫混）	□7.0 高1.3	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
5	001-02	陶器	椀皿	R3-1	灰色粘土（礫混）	□11.1	外：ロクロナデ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	10YR8/2 灰白 5YR4/1 褐灰/釉	□2/12	瀬戸美濃産
6	001-03	磁器	碗	R3-1	黄褐色粘質土（礫混）	□18.4 高5.9 台8.7	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	7.5YR8/1 灰白 DIC-N842 青磁・DIC-N813 千歳茶/釉	□1/12	産地不明（国産） 量付無釉 内面松葉椿絵付
7	007-01	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□6.8 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
8	007-07	土師器	小皿	R3-2	黒褐色粘質土	□7.8 高1.0	外：工具ナデ、ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
9	006-10	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□8.6 高1.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
10	004-06	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□7.6 高2.2	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にがい黄橙	□3/12	南伊勢系
11	005-04	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□8.1 高2.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/1 灰白	□3/12	南伊勢系
12	005-05	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□8.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
13	004-05	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□6.8 高2.2	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y8/1 灰白	□2/12	南伊勢系
14	005-03	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□8.6 高2.1	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にがい黄橙	□3/12	南伊勢系
15	006-05	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑2	□9.1 高1.9	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
16	005-02	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□9.2 高1.9	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
17	007-03	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□9.6 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
18	007-02	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□9.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y8/1 灰白	□1/12	南伊勢系
19	006-04	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑2	□9.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にがい黄橙	□1/12	南伊勢系
20	007-06	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土	□7.8	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□1/12	南伊勢系
21	006-08	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□10.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
22	006-03	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑2	□10.8 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
23	006-09	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□10.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
24	006-02	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑2	□10.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
25	006-07	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□11.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
26	006-01	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑2	□10.0 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
27	005-01	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□10.4	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/1 灰白	□1/12	南伊勢系
28	004-03	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□10.8 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
29	004-08	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□11.0 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
30	004-04	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□11.0 高1.9	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/1 灰白	□1/12	南伊勢系
31	004-07	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□11.1	外：ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にがい黄橙	□2/12	南伊勢系
32	007-05	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土	□12.8	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
33	006-06	土師器	皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□13.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
34	007-04	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑3	□不明	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	小片	南伊勢系
35	008-02	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白 7.5YR7/4 にがい橙	小片	南伊勢系 外面スス付着
36	007-08	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	小片	南伊勢系
37	008-01	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土	□不明	外：工具ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR5/4 にがい赤褐 5YR6/4 にがい橙	小片	南伊勢系 体部外面煤付着
38	004-02	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□26.1	外：ハケメ（6本/1.7cm）、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	10YR6/3 にがい黄橙	□1/12	南伊勢系 口縁部焼成後穿孔1箇所、体部～口縁外面煤付着
39	004-01	土師器	鍋	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□31.2	外：オサエ、ハケメ（8本/1.7cm）、ヨコナデ 内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/4 にがい黄橙	□2/12	南伊勢系 体部外面煤付着
40	005-06	陶器	天目茶碗	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□12.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	7.5YR6/4 にがい橙 5YR3/2 暗赤褐/釉	□2/12	瀬戸美濃産 外面下半無釉
41	008-04	陶器	反り皿	R3-2	黒褐色粘質土	□10.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	密	2.5Y8/2 灰白 5Y6/4 オリブ黄/釉	□1/12	瀬戸美濃産
42	005-07	陶器	反り皿	R3-2	黒褐色粘質土 排水坑1	□15.0 高3.7 台7.0	外：ロクロナデ、指オサエ、施釉（長石釉） 内：ロクロナデ、指オサエ、施釉（長石釉）	密	N9/0 白 5Y7/1 灰白/釉	□4/12 台6/12	瀬戸美濃産（志野） 釉は貫入多い
43	008-03	陶器	壺か	R3-2	黒褐色粘質土	□不明	外：ロクロナデ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	10YR8/2 灰白 5YR2/2 黒褐/釉	小片	瀬戸美濃産
44	003-04	土師器	小皿	R3-2	黄土	□7.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
45	003-01	土師器	鍋	R3-2	造成土	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にがい橙	小片	南伊勢系
46	003-03	陶器	丸皿	R3-2	造成土	□11.3 高2.0 台7.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（長石釉） 内：ロクロナデ、施釉（長石釉）	密	2.5Y8/2 灰白 2.5Y8/2 灰白/釉	□2/12	瀬戸美濃産（志野） 底部に重ね焼痕
47	003-02	陶器	天目茶碗	R3-2	造成土	□12.6	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	10YR8/2 灰白 10YR3/1 黒褐/釉	□1/12	瀬戸美濃産 外面下半無釉
48	002-01	陶器	播鉢	R3-2	造成土	□35.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、播目（10本/3.7cm）、施釉（鉄釉）	密	5YR4/2 灰褐	□1/12	瀬戸美濃産
49	001-07	磁器 （白磁）	皿	R3-2	造成土	□9.5 高2.4 台4.4	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	2.5Y8/2 灰白	□3/12 台6/12	中国産 量付無釉 内面重ね焼痕

第2表 遺物観察表2

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
50	002-02	磁器	輪花皿	R3-2	造成土	□13.7 高2.7 台5.6	外：型押成形、ケズリ、施釉 内：型押成形、施釉	密	10YR8/2 灰白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	□4/12 台：完存	肥前産 輪花は六方 量付無釉 内面見込に絵付
51	002-03	磁器	輪花皿	R3-2	造成土	□13.5 高2.8 台5.2	外：型押成形、ケズリ、施釉 内：型押成形、施釉	密	2.5Y8/1 灰白 7.5Y8/1 灰白/釉	□1/12 台：完存	肥前産 輪花は六方か 量付無釉 内面見込みに絵付
52	002-04	土師質	炉壁？	R3-2	造成土	—	外：— 内：—	密	5YR6/4 にぶい橙	小片	胎土にスリ混る
53	009-01	磁器 (白磁)	端反皿	R3-2	黄褐色粘土	□20.2 高4.1 台12.0	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□1/12 台2/12	産地不明 量付無釉
54	009-02	磁器 (染付)	丸皿	R3-2	黄褐色粘土	□12.4	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□1/12	肥前産 内面絵付
55	008-05	磁器 (染付)	丸皿	R3-2	黄褐色粘土	□12.8 高3.2 台4.6	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10GY8/1 明緑灰/釉	□4/12 台6/12	肥前産 量付無釉 内面草花文
56	009-03	磁器 (染付)	菊花皿	R3-2	黄褐色粘土	□15.0	外：型押成形、施釉 内：型押成形、施釉	密	N9/0 白	□1/12	肥前産か 外面刷文
57	005-08	土師器	皿	R3-2	廃土	□6.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
58	005-09	土師器	皿	R3-2	廃土	□8.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
59	003-05	土師器	皿	R3-2	廃土	□7.5 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
60	003-09	土師器	皿	R3-2	廃土	□8.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
61	003-06	土師器	皿	R3-2	廃土	□8.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
62	003-07	土師器	皿	R3-2	廃土	□8.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
63	003-08	土師器	皿	R3-2	廃土	□9.2	外：ナデ・オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
64	005-10	磁器 (青花)	皿	R3-2	廃土	台6.0	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 7.5GY8/1 明緑灰 /絵付	台2/12	中国産 量付無釉
65	011-05	土師器	羽釜	R3-3	暗褐色粘土 (木片混)	□30.6	外：ハケメ (5本/1.1cm)、貼付ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y6/1 黄灰	□2/12	南伊勢系
66	013-04	土師器	小皿	R3-3	黒褐色粘質土	□6.8 高0.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/1 灰白	□3/12	南伊勢系
67	013-05	土師器	小皿	R3-3	黒褐色粘質土	□6.9 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y7/2 灰黄	□8/12	南伊勢系
68	009-05	土師器	小皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□6.9 高0.8	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
69	012-10	土師器	小皿	R3-3	黒褐色粘質土	□7.3 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□10/12	南伊勢系
70	011-03	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□7.0 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□3/12	南伊勢系
71	010-02	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□7.0 高2.0	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
72	012-05	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□7.5 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y7/2 灰黄	□4/12	南伊勢系
73	012-07	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□7.5 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y8/2 灰白	□9/12	南伊勢系
74	010-07	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□8.4 高2.1	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
75	012-04	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□8.2 高2.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y7/1 灰白	□6/12	南伊勢系
76	012-08	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□8.0 高2.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y7/1 灰白	□7/12	南伊勢系
77	012-09	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□8.3 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y8/1 灰白	□8/12	南伊勢系
78	010-06	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.0 高2.0	外：オサエ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
79	010-05	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
80	011-02	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□8.0 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR6/2 灰褐	□1/12	南伊勢系 スス付着
81	011-04	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.2 高1.8	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系
82	010-08	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.0	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□2/12	南伊勢系
83	015-04	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□8.4 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
84	009-06	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□8.3 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/4 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
85	010-03	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.6	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR6/2 灰黄褐	□2/12	南伊勢系
86	012-03	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□10.1 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y7/1 灰白	□4/12	南伊勢系
87	012-02	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□10.1 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
88	015-01	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□10.6 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□2/12	南伊勢系
89	012-01	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□10.5 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y8/2 灰白	□6/12	南伊勢系
90	015-02	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□11.5 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	2.5Y8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
91	010-04	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□11.1	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y8/3 淡黄	□1/12	南伊勢系
92	009-08	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□11.0	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□3/12	南伊勢系
93	012-06	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□11.5 高2.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y7/2 灰黄	□2/12	南伊勢系
94	010-01	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□9.3 高1.1	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□7/12	南伊勢系
95	011-01	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□10.6 高2.7	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5Y3/1 オリーブ黒	□1/12	南伊勢系
96	009-07	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□10.8	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□2/12	南伊勢系
97	013-03	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□11.8 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/1 灰白	□2/12	南伊勢系
98	015-03	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□12.6 高2.3	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR6/2 灰黄褐	□1/12	南伊勢系
99	013-02	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□12.4 高2.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5Y8/1 灰白	□3/12	南伊勢系

第3表 遺物観察表3

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
100	013-01	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土	□13.2 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
101	015-05	土師器	皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□14.2 高2.2	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/1 灰白	□2/12	南伊勢系
102	015-06	土師器	鍋	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□20.0	外：ヨコナデ、ハクメ (4～5本/2.3cm)、ケズリ 内：ヨコナデ、ナデ、ケズリ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
103	009-04	陶器	緑釉小皿	R3-3	黒褐色粘質土 (貝殻混)	□10.8 高2.4 底5.7	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	5Y7/1 灰白 7.5YR3/2 黒褐/釉	□4/12 底5/12	瀬戸美濃産 (古瀬戸) 糸切痕
104	013-06	陶器	天目茶碗	R3-3	造成土	台3.8	外：ロクロズリ、施釉 (錆釉・鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	2.5Y8/2 灰白 5YR5/4 にぶい赤褐・ 2.5YR2/1 赤黒/釉	台12/12	瀬戸美濃産 外面下半錆釉
105	014-04	土師器	皿	R3-4	灰褐色粘質土 (糠混)	□9.0 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
106	014-03	土師器	皿	R3-4	造成土	□10.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/6 橙	□1/12	南伊勢系
107	014-02	磁器 (白磁)	皿	R3-4	造成土	台5.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 2.5G/8/1 灰白/釉	台11/12	産地不明 見込部輪弁
108	013-07	陶器	播鉢	R3-4	造成土	底9.0	外：ロクロズリ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、播目 (15本/2.5cm)、施釉 (鉄釉)	密	2.5Y8/2 灰白 5YR3/2 褐赤褐/釉	底8/12	瀬戸美濃産 糸切痕
109	014-01	陶器	水甕か	R3-4	造成土	台22.8	外：ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉・銅緑釉)	密	2.5Y8/2 灰白 7.5Y8/2 灰白・緑色/釉	台1/12	瀬戸美濃産 内面見込部に重焼痕
110	016-04	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□8.0 高0.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□2/12	南伊勢系
111	017-07	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□7.6 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/13	南伊勢系
112	017-06	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□7.7 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□4/13	南伊勢系
113	018-06	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□8.2 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR7/3 にぶい橙	□1/12	南伊勢系
114	016-07	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□10.0 高1.3	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系 内面工具痕
115	016-05	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□10.6 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系 内面工具痕
116	018-05	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□11.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
117	016-06	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□10.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
118	016-03	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□12.0 高2.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR4/2 灰褐 7.5YR8/4 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
119	016-02	土師器	皿	R4-1	灰褐色粘砂	□14.2	外：オサエ、ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR4/2 灰褐 7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
120	017-05	土師器	台付皿	R4-1	灰褐色粘砂	台5.0	外：ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	台5/12	南伊勢系 貼付高台
121	018-04	土師器	台付皿	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	台4.6	外：ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	台11/12	南伊勢系 貼付高台
122	018-08	土師器	鍋	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	小片	南伊勢系
123	018-07	土師器	鍋	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
124	017-01	土師器	鍋	R4-1	灰褐色粘砂	□33.8	外：ハクメ (7～9本/cm)、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙 5YR4/1 褐灰	□1/12	南伊勢系 内外面スス付着 内面コグ付着
125	017-03	土師器	茶釜	R4-1	灰褐色粘砂	□15.0	外：ハクメ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系 外面一部スス付着
126	017-02	土師器	茶釜	R4-1	灰褐色粘砂	□15.0	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系 外面一部スス付着
127	017-04	土師器	茶釜	R4-1	灰褐色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	5YR5/2 灰褐 7.5YR6/3 にぶい褐	□1/12	南伊勢系か 外面一部スス付着
128	018-01	磁器 (青磁)	碗	R4-1	灰褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N7/0 灰白 2.5G/7/1 明オリープ灰/釉	小片	中国産 細蓮弁文
129	018-03	陶器	皿	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□不明	外：ロクロナデ、施釉 (透明釉) 内：ロクロナデ、施釉 (透明釉)	密	2.5Y8/1 灰白 2.5Y8/3 淡黄/釉	小片	瀬戸美濃産 内面鉄釉と灰釉で同心円文状に 絵付け
130	018-02	磁器 (染付)	皿	R4-1	灰褐色粘砂 排水坑1	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 5G6/1 緑灰/釉	小片	産地不明 器面・断面に融着物あり 絵付け は不明瞭
131	016-01	陶器	控鉢	R4-1	灰褐色粘砂	底14.4	外：オサエ・ナデ 内：回転ナデ	やや密	10R4/2 灰赤	底3/12	常滑産 内面及び底部外面摩耗
132	026-10	土師器	小皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□6.6 高0.7	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□7/12	南伊勢系
133	026-02	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.2 高0.8	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
134	027-06	土師器	小皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.6 高1.1	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
135	027-03	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.6 高1.9	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/4 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
136	027-10	土師器	小皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.6 高1.9	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系
137	026-08	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.6 高2.0	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
138	027-02	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.7 高1.7	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□5/12	南伊勢系 内面工具痕
139	026-01	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.0 高1.8	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□8/12	南伊勢系
140	026-06	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.4 高2.0	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
141	028-03	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.2 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/6 橙	□3/12	南伊勢系
142	028-04	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□7.4 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系 内面工具痕
143	026-05	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.0 高1.4	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□5/12	南伊勢系 歪み大
144	026-11	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.8 高1.8	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/6 橙	□4/12	南伊勢系
145	026-12	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.5 高1.9	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
146	027-07	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.2 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系 内面工具痕
147	027-05	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.7 高1.2	外：ナデ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
148	023-05	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.8 高1.0	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙・ 5YR7/4 にぶい橙 5YR6/1 褐灰	□5/12	南伊勢系 内外面一部スス付着 歪み大

第4表 遺物観察表4

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
149	027-11	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□9.2 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
150	027-09	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□10.3 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
151	021-03	土師器	皿	R4-2	排水坑1	□10.0 高1.3	外：ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系 摩滅
152	026-07	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.4 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系
153	028-02	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.0 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
154	027-01	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.5 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系 歪み大
155	023-06	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□9.0 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□11/12	南伊勢系
156	026-03	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□9.2 高1.6	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□5/12	南伊勢系 板状圧痕 歪み大
157	027-04	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□10.2 高1.7	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□5/12	南伊勢系 歪み大
158	026-09	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□10.0 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
159	027-08	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.0	外：オサエ・ヨコナデ 内：ナデ・ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
160	028-01	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.2 高2.1	外：オサエ・ヨコナデ 内：ナデ・ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系 内面工具痕 油煙痕
161	027-12	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□12.0 高2.0	外：オサエ 内：ナデ・ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系
162	026-04	土師器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□12.0 高2.0	外：オサエ 内：ナデ・ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系 歪み大
163	024-04	土師器	碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	台4.7	外：ケズリ・工具ナデ 内：ミガキ・ケズリ	密	4/0 灰・10YR6/1 褐灰・ 2.5Y5/1 黄灰	台12/12	南伊勢系か 内外面スス付着
164	024-03	土師器	鍋	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□19.2	外：ハケメ (5本/cm)・ケズリ・ヨコナデ 内：工具ナデ・ヨコナデ	密	10YR8/4 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
165	020-03	土師器	鍋	R4-2	排水坑3	□18.0	外：ハケメ (4本/5cm)・ヨコナデ 内：工具ナデ・ナデ・ヨコナデ	密	10YR8/4 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
166	020-02	土師器	鍋	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□29.0	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
167	023-02	土師器	鍋	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□31.0	外：オサエ・ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	7.5YR6/2 灰褐 10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系 外面一部スス付着
168	023-01	土師器	鍋	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□34.0	外：ハケメ (4～5本/cm)・ヨコナデ 内：工具ナデ・ヨコナデ	密	7.5YR5/2 灰褐 10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
169	023-03	土師器	鍋	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□38.0	外：ヨコナデ 内：工具ナデ・ヨコナデ	密	7.5YR6/2 灰褐 7.5YR7/4 にぶい橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
170	020-01	土師器	羽釜	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□34.0	外：オサエ・ナデ・ヨコナデ 内：ナデ・ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系
171	023-04	土師器	羽釜か	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□24.0	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/1 褐灰	□1/12	南伊勢系 内面スス付着
172	024-01	土師器	茶釜	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.8	外：ナデ・ヨコナデ 内：ナデ・ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
173	024-09	土師器	不明 片口鉢か	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□18.0	外：ハケメ (5本/cm)・ヨコナデ 内：ヨコナデ・ケズリ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 片口か
174	024-02	土師器	不明 鉢か	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□17.6	外：ハケメ (6本/cm)・ヨコナデ 内：工具ナデ・ヨコナデ	密	10YR5/2 灰黄褐 10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系 外面スス付着
175	025-02	陶器	縁輪小皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.2	外：ロクロナデ・施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	10YR8/3 浅黄橙 5Y6/3 オリーブ黄/釉	□1/12	古瀬戸
176	024-06	陶器	碗反皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□14.0	外：ロクロナデ・施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	2.5YR/1 灰白 5Y6/3 オリーブ黄/釉	□1/12	瀬戸美濃産
177	025-06	陶器	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	台6.5	外：ロクロケズリ・施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ・施釉 (長石釉)	密	10YR8/2 灰白 2.5YR/1 灰白/釉	台3/12	瀬戸美濃産 (志野)
178	024-07	陶器	浅碗か	R4-2	黒褐～褐色粘砂	台5.4	外：ロクロナデ・ロクロケズリ 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	10YR8/1 灰白 5Y6/3 オリーブ黄/釉	台3/12	古瀬戸 削出し高台 トチン痕あり
179	019-02	陶器	天目茶碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□12.0	外：ロクロナデ・施釉 (鉄釉・鎗釉) 内：ロクロナデ・施釉 (鉄釉)	密	5YR5/3 にぶい赤褐 5YR4/3 にぶい赤褐・ N1.5/0 黒/釉	□2/12	瀬戸美濃産
180	019-03	陶器	天目茶碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.5	外：ロクロナデ・施釉 (鉄釉・鎗釉) 内：ロクロナデ・施釉 (鉄釉)	密	2.5YR3/3 暗赤褐 5YR4/3 にぶい赤褐・ N1.5/0 黒/釉	□4/12	瀬戸美濃産
181	019-06	陶器	拳骨碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□11.2	外：ロクロナデ・オサエ・施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ・施釉 (鉄釉)	密	2.5Y6/3 にぶい黄 2.5YR/1 灰白・5YR3/4 暗 赤褐/釉	□2/12	美濃産
182	024-05	陶器	擂鉢	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ・施釉 (鎗釉) 内：ロクロナデ・施釉 (鎗釉)	密	7.5YR7/3 にぶい橙 N5/0 灰	小片	瀬戸美濃産
183	025-07	陶器	鉢	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ・施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	2.5Y7/1 灰白 2.5Y6/3 にぶい黄・ 2.5YR/1 灰白/釉	小片	古瀬戸 直縁大皿
184	025-04	陶器	鉢	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□26.0	外：ロクロナデ・施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	10YR8/2 灰白 7.5YR6/4 にぶい橙・ 7.5YR/1 灰白 /釉	□2/12	古瀬戸 卸目付大皿か 片口
185	021-01	陶器	鉢	R4-2	排水坑1	底14.0	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ・卸目	密	10YR8/4 浅黄橙 10YR8/2 灰白	底1/12	古瀬戸 卸目付大皿
186	025-05	陶器	鉢	R4-2	黒褐～褐色粘砂	底12.0	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ・施釉 (灰釉)	密	10YR8/3 浅黄橙 9/0 白 /釉	底3/12	古瀬戸
187	019-01	陶器	半胴	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□16.8	外：ロクロナデ・施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	10YR6/1 褐灰 7.5YR4/3 褐/釉	□2/12	瀬戸美濃産 口縁端部摩耗
188	025-01	磁器 (青磁)	碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ・施釉 内：ロクロナデ・施釉	密	10YR7/1 灰白 2.5Y5/3 黄褐/釉	小片	中国産
189	025-03	磁器 (青磁)	碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	台4.5	外：ロクロナデ・ロクロケズリ・施釉 内：ロクロナデ・施釉	密	10YR7/1 灰白 5G6/1 オリーブ灰/釉	台12/12	中国産 見込に馬
190	024-08	磁器 (白磁)	皿	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□8.6 高2.6	外：ロクロナデ・ロクロケズリ 内：ロクロナデ・施釉	密	10YR8/1 灰白	□3/12	中国産 割高台
191	019-05	磁器 (染付)	丸碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□9.8	外：ロクロナデ・施釉 内：ロクロナデ・施釉	密	N8/0 灰白 7.5G8/1 明緑灰/釉	□3/12	肥前産 外面青海波に竹文
192	019-04	磁器 (染付)	丸碗	R4-2	黒褐～褐色粘砂	□10.8	外：ロクロナデ・施釉 内：ロクロナデ・施釉	密	N9/0 白 N9/0 白/釉	□2/12	肥前産 外面花文
193	i01-01	鉄製品	和釘	R4-2	黒褐～褐色粘砂	長6.8 厚1.4					2023-Y-06-1
194	i01-03	鉄製品	和釘	R4-2	黒褐～褐色粘砂	長2.7 厚0.5					2023-Y-06-3
195	i01-02	鉄製品	和釘	R4-2	黒褐～褐色粘砂	長3.4 厚0.5				脚先欠	2023-Y-06-2
196	021-06	陶器	丸皿	R4-2	造成土	□12.0 高2.5	外：ロクロナデ・ロクロケズリ・施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ・施釉 (長石釉)	密	2.5YR/2 灰白 2.5YR/2 灰白/釉	□4/12	瀬戸美濃産 (志野)
197	021-02	陶器	菊皿	R4-2	造成土	□12.1 高2.5	外：ロクロナデ・ロクロケズリ・施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ (長石釉)	密	10YR8/3 浅黄橙 2.5YR/1 灰白/釉	□7/12	瀬戸美濃産 (志野)

第5表 遺物観察表5

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
198	020-04	陶器	茶入か	R4-2	造成土	底6.6	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉・錆釉） 内：ロクロナデ	密	5Y3/2 暗赤褐 N1.5/0 黒/釉	底5/12	瀬戸美濃産
199	021-04	磁器 （白磁）	端反皿	R4-2	造成土	□9.0	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	2.5GY8/1 灰白	□4/12	中国産
200	021-05	磁器 （青花）	端反皿	R4-2	造成土	□10.0	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10GY8/1 明緑灰/釉	□1/12	中国産 外面絵付
201	022-01	石製品	茶臼	R4-2	造成土	径19.3 高13.3	横打仕込み引手2箇所あり 磨面8分面				上臼 重さ8kg 磨面摩耗
202	032-04	土師器	皿	R4-3	灰褐色粘土質シルト	□8.0 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
203	032-03	土師器	皿	R4-3	灰褐色粘土質シルト	□10.0 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
204	032-02	陶器	天目茶碗	R4-3	灰褐色粘土質シルト	台4.2	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉・錆釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	10YR8/2 灰白 N1.5/0 黒/釉	台12/12	瀬戸美濃産
205	032-01	陶器	鉢	R4-3	灰褐色粘土質シルト	底14.0	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	密	N8/0 灰白 10YR5/4 にぶい黄褐/釉	底3/12	古瀬戸 直縁大皿又は折縁深皿か 三足貼り付け（1箇所残）
206	029-04	土師器	皿	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□9.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
207	030-02	土師器	鍋	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	5YR7/3 にぶい橙	小片	南伊勢系
208	031-04	陶器	丸皿	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□10.0	外：ロクロナデ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	密	N8/0 灰白 7.5Y7/2 灰白/釉	□1/12	瀬戸美濃産
209	030-05	陶器	鉢	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	やや密	2.5Y8/1 灰白 5YR2/2 灰白/釉	小片	古瀬戸 折縁深皿又は御目付大皿か
210	030-04	陶器	鉢	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	やや密	2.5Y8/2 灰白	小片	古瀬戸 折縁深皿又は御目付大皿か
211	030-03	陶器	播鉢	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉（錆釉） 内：ロクロナデ、施釉（錆釉）	密	7.5YR8/3 浅黄橙 5RP4/1 暗紫灰/釉	小片	古瀬戸
212	030-01	陶器	播鉢	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□31.0	外：ロクロナデ、施釉（錆釉） 内：ロクロナデ、施釉（錆釉）	密	10YR8/2 灰白 5RP3/1 暗紫灰/釉	□1/12	瀬戸美濃産 口縁端部摩耗
213	031-05	磁器 （青磁）	碗	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10YR5/4 にぶい黄褐/釉	小片	中国産 細蓮弁文
214	031-03	磁器 （青磁）	碗	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	台6.0	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10Y5/2 オリーブ灰/釉	台3/12	中国産 削出高台
215	031-02	磁器 （青花）	端反皿	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	台4.8 高4.0	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉	密	N8/0 灰白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	底4/12	中国産 見込み草花文 削出高台 畳付無釉
216	031-01	磁器 （青花）	皿	R4-3	黄褐色シルト～灰褐色粘砂	底2.8	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10GY8/1 明緑灰/釉	底12/12	中国産 見込に擬人化した「喜」か 碁筭底
217	028-07	陶器	皿	R4-3	炭層	□9.8	外：ロクロナデ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	密	2.5Y8/1 灰白 5Y8/2 灰白/釉	□1/12	瀬戸美濃産
218	028-06	陶器	丸皿	R4-3	炭層	□10.3 高2.5	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（灰釉） 内：ロクロナデ、施釉（灰釉）	やや密	10YR8/1 灰白 2.5Y6/4 にぶい黄/釉	□11/12	瀬戸美濃産
219	028-05	陶器	播鉢	R4-3	炭層	□28.6	外：ロクロナデ、描目（4本/cm）、施釉（錆釉） 内：ロクロナデ、施釉（錆釉）	密	7.5YR8/3 浅黄橙 5RP3/1 暗紫灰/釉	□2/12	瀬戸美濃産 内面摩耗
220	029-01	陶器	捏鉢	R4-3	炭層	□36.8	外：ナデ、工具ナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/6 橙 2.5YR7/6 橙	□2/12	常滑産（赤物） 内面僅かに摩耗
221	101-04	青銅製品	銭貨	R4-3	炭層	径2.5 厚0.1					2023-Y-06-4 皇宋通寶
222	032-05	土師器	茶釜蓋	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□9.5 高1.7	外：オサエ、工具ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、挽み貼付	やや密	2.5YR6/6 橙	□8/12	中北勢系か
223	032-06	土師器	茶釜蓋	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□11.0 高1.8	外：ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	5YR6/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系 挽み剥離か
224	033-02	土師器	茶釜	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□11.4	外：ハケメ（3本/cm）、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/6 橙	□5/12	南伊勢系
225	033-01	土師器	茶釜	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□11.5 高13.2	外：ハケメ（7～8本/cm）、ズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/6 橙 7.5YR8/3 浅黄橙 7.5YR5/3 にぶい褐	□10/12	南伊勢系
226	033-03	土師器	茶釜	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□11.0	外：ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系か 内面工具痕
227	033-04	土師器	茶釜	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	底12.0	外：ズリ、ナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/3 浅黄橙	底3/12	南伊勢系か
228	033-05	磁器 （青花）	折縁皿	R4-3	褐灰色粘土質シルト（焼土層）	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	小片	中国産 草花文
229	029-02	陶器	天目茶碗	R4-3	褐色粘土質シルト	□10.5	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉（鉄釉） 内：ロクロナデ、施釉（鉄釉）	密	2.5YR2/2 灰白 5YR2/2 黒褐/釉	□2/12	瀬戸美濃産
230	029-03	磁器 （染付）	碗	R4-3	褐色粘土質シルト	台4.1	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	台11/12	瀬戸美濃産 見込花文
231	055-03	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.6 高0.8	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
232	052-11	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高0.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□2/12	南伊勢系
233	052-06	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□2/12	南伊勢系
234	054-01	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□6.8 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
235	054-02	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.4 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
236	054-04	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.6 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
237	051-03	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.7 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR6/6 橙	□4/12	南伊勢系
238	054-03	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.8 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
239	052-04	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.1 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	□9/12	南伊勢系
240	052-03	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.2 高2.3	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□10/12	南伊勢系 内面工具痕
241	054-05	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.4 高2.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□5/12	南伊勢系

第6表 遺物観察表6

番号	実測 番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
242	050-09	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.2 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
243	055-01	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.4 高2.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
244	053-04	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.4 高2.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□5/12	南伊勢系
245	052-02	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□9.1 高2.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□11/12	南伊勢系
246	051-06	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.7 高2.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白 10YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
247	054-06	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.6 高2.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
248	055-02	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.4 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□5/12	南伊勢系
249	054-10	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.8 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白色 10YR7/4 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系
250	054-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.9 高2.3	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/4 浅黄橙	□6/12	南伊勢系
251	051-05	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□9.0 高2.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
252	053-08	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□3/12	南伊勢系
253	053-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
254	053-05	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
255	053-09	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
256	051-01	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.6 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□5/12	南伊勢系
257	052-08	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.1 高2.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
258	053-03	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
259	052-10	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.2	外：オサエ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
260	050-10	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.2 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
261	051-04	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.3 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/4 浅黄橙	□7/12	南伊勢系
262	051-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.3 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR6/3 にぶい黄橙	□6/12	南伊勢系
263	051-02	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
264	050-08	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.8 高1.7	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
265	054-08	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□9.2 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
266	054-09	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□9.4 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
267	050-03	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.2 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
268	050-02	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.5 高1.0	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
269	055-05	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
270	053-02	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□3/12	南伊勢系
271	053-01	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□3/12	南伊勢系
272	052-05	土師器	小皿	R4-4	褐灰色粘砂	□7.9 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□4/12	南伊勢系 壺み大
273	055-04	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.0 高1.5	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y7/2 灰黄 2.5Y5/2 暗灰黄	□2/12	南伊勢系 端部に薄くスス付着
274	053-10	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□8.2 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
275	055-06	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□10.0 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
276	053-06	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□10.0 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR6/1 褐灰 7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系
277	050-01	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□10.5 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR2/1 黒 N2/0 黒	□2/12	南伊勢系 内外面共にスス付着
278	055-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□10.6 高1.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
279	055-08	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□11.1 高2.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
280	052-01	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□11.4 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□11/12	南伊勢系
281	052-09	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□10.0 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
282	050-04	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□11.1 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
283	055-09	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□12.2 高2.1	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
284	050-05	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□12.6 高1.9	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
285	050-06	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□13.5 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
286	055-10	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□13.5 高1.9	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系 外面被熱
287	050-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□14.6 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
288	052-07	土師器	皿	R4-4	褐灰色粘砂	□16.6 高2.7	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
289	051-08	土師器	鉢か	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：工具ナデ、ケズリ 内：ナデ	密	2.5YR6/4 にぶい橙	2/12	南伊勢系か
290	049-04	土師器	鍋	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	小片	南伊勢系 外面スス付着
291	049-05	土師器	鍋	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	小片	南伊勢系 外面スス付着
292	046-02	土師器	鍋	R4-4	褐灰色粘砂	□25.0	外：ハケメ(6本/㎝)、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR8/3 淡橙	□2/12	南伊勢系

第7表 遺物観察表7

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
293	049-03	土師器	鍋	R4-4	褐灰色粘砂	□20.2	外：ハケメ (5本/㎝)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白 10YR6/2 灰黄褐	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
294	044-02	土師器	羽釜	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：ナデ、ハケメ (4本/㎝) 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	小片	中北勢系 外面スス付着
295	044-03	土師器	羽釜	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/1 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
296	049-02	土師器	羽釜	R4-4	褐灰色粘砂	□17.4	外：ハケメ (3本/0.6㎝)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/4 にがい黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
297	044-01	土師器	羽釜	R4-4	褐灰色粘砂	□34.4	外：ナデ、ハケメ (4本/㎝) 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
298	049-01	瓦質土器	羽釜	R4-4	褐灰色粘砂	鐔30.4	外：ミガキ、ケズリ 内：工具ナデ	密	5YR7/6 橙	鐔1/12	産地不明 外面スス付着
299	048-02	陶器	天目茶碗	R4-4	褐灰色粘砂	□11.6	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 (鉄釉・錆釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	10YR8/1 灰白 5YR2/1 黒褐/釉	□1/12	瀬戸美濃産
300	041-01	陶器	端反皿	R4-4	褐灰色粘砂	□11.2	外：ロクロナデ、施釉 (透明釉) 内：ロクロナデ、施釉 (透明釉)	密	2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/2 灰黄/釉	□2/12	瀬戸美濃産
301	041-07	陶器	向付か	R4-4	褐灰色粘砂	底13.3	外：ロクロケズリ、施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ、施釉 (長石釉)	密	10YR8/2 灰白	底3/12	瀬戸美濃産 (志野) 見込み鉄絵
302	047-03	陶器	小鉢か	R4-4	褐灰色粘砂	底5.8	外：ロクロケズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	2.5Y8/2 灰白	底7/12	古瀬戸 内面摩耗
303	047-02	陶器	小鉢か	R4-4	褐灰色粘砂	底5.2	外：ロクロケズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	N8/0 灰白	底8/12	古瀬戸 内面摩耗
304	042-03	陶器	鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、却目、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	7.5YR7/4 にがい橙 2.5Y5/4 黄褐/釉	小片	古瀬戸 却目付大皿
305	041-02	陶器	鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□19.4	外：ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	10YR8/2 灰白 2.5Y7/2 灰黄/釉	□1/12	古瀬戸 直縁大皿か
306	041-06	陶器	鉢	R4-4	褐灰色粘砂	底7.5	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	底5/12	瀬戸美濃産 糸切痕
307	042-02	陶器	鉢	R4-4	褐灰色粘砂	底14.0	外：ロクロケズリ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	10YR8/2 灰白 10YR6/4 にがい黄橙/釉	底2/12	古瀬戸か 内面摩耗
308	047-01	陶器	鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□35.6	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	やや密	N8/0 灰白 7.5Y5/3 灰オリーブ/釉	□2/12	古瀬戸 却目付大皿か
309	041-05	陶器	播鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□27.4	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、播目 (8本/2.2㎝)、施釉 (鉄釉)	密	N7/0 灰白 2.5Y4/2 灰赤/釉	□1/12	瀬戸美濃産
310	042-01	陶器	播鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□28.0	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、播目 (7本/2.5㎝)、施釉 (鉄釉)	密	10YR8/2 灰白 5YR4/3 にがい赤褐/釉	□2/12	瀬戸美濃産 片口1箇所
311	041-04	磁器 (青磁)	碗	R4-4	褐灰色粘砂	台4.6	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	10YR7/1 灰白 2.5G6/1 オリーブ灰/釉	台12/12	中国産 高台内部無釉
312	041-03	磁器 (白磁)	皿	R4-4	褐灰色粘砂	台4.1	外：ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	2.5Y8/2 灰白	台12/12	中国産 割高台 重焼痕
313	042-04	磁器 (青花)	端反皿	R4-4	褐灰色粘砂	□12.2 高2.6	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10YR8/1 明緑灰/釉	□1/12 底5/12	中国産 見込玉取獅子文 外面唐草文
314	048-01	陶器	甕	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：回転ナデ 内：回転ナデ、オサエ、ナデ	やや密	N5/0 灰 5YR3/2 暗赤褐	小片	常滑産 (真焼)
315	045-01	陶器	甕	R4-4	褐灰色粘砂	□38.2	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	5YR6/6 橙 2.5YR5/1 赤灰	□2/12	常滑産
316	045-02	陶器	甕	R4-4	褐灰色粘砂	底20.2	外：工具ナデ、オサエ、ナデ 内：ナデ	やや密	2.5YR6/6 橙	底2/12	常滑産 (赤物)
317	046-01	陶器	捏鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：オサエ、ナデ 内：ナデ	やや密	10R6/6 赤橙	小片	常滑産 (赤物) 内面摩耗
318	046-03	陶器	捏鉢	R4-4	褐灰色粘砂	□不明	外：工具ナデ 内：ナデ	やや密	10R5/6 赤	小片	常滑産 (赤物) 内面摩耗
319	035-04	土師器	皿	R4-4	灰黄褐色粘土質シルト (整地層)	□6.6 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□3/12	南伊勢系 内面工具痕
320	035-03	土師器	皿	R4-4	灰黄褐色粘土質シルト (整地層)	□9.0 高1.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/3 淡橙	□3/12	南伊勢系 内面工具痕
321	035-02	陶器	播鉢	R4-4	灰黄褐色粘土質シルト (整地層)	□不明	外：ロクロナデ、播目、施釉 (錆釉) 内：ロクロナデ、施釉 (錆釉)	密	10YR8/2 灰白 5P3/1 暗紫灰/釉	小片	瀬戸美濃産
322	035-01	磁器 (白磁)	杯	R4-4	灰黄褐色粘土質シルト (整地層)	□6.8 高3.0	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 10YR8/1 灰白	□5/12	中国産 削出高台 畳付無釉 見込に蛇の目釉刺ぎ
323	034-04	磁器 (青花)	皿	R4-4	灰黄褐色粘土質シルト (整地層)	□9.2	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	□2/12	中国産 外面淡青文・芭蕉葉文
324	034-02	磁器 (青花)	丸碗	R4-4	灰黄褐色シルト (整地層)	□10.0	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	□3/12	中国産か 外面に梅花文
325	034-03	磁器 (青花)	碗	R4-4	灰黄褐色シルト (整地層)	台4.4	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	□3/12	中国産 削出高台 畳付無釉・砂付着 見込に花文
326	034-01	磁器 (染付)	皿	R4-4	灰黄褐色シルト (整地層)	台7.9	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白	台3/12	肥前産か 削出高台 畳付無釉 高台内放射状跑痕 見込みに人物、底部外面に角福か
327	037-01	石製品	臼	R4-4	褐色粘土質シルト (整地層)	径28.5 高9.3	横打仕込み引手2箇所あり 磨面6分面か				上臼 重さ10.5kg
328	036-01	土師器	皿	R4-4	焼土層	□7.2 高0.9	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□4/12	南伊勢系
329	036-02	土師器	台付皿	R4-4	焼土層	□9.5	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR7/3 にがい橙	□3/12	南伊勢系
330	040-08	陶器	皿	R4-4	焼土層	台7.2	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/2 灰白 7.5Y6/2 灰オリーブ/釉	台3/12	瀬戸美濃産 輪トチン痕
331	036-06	陶器	端反皿	R4-4	焼土層	□9.2 高2.4	外：ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/1 灰白 5Y7/4 浅黄/釉	□9/12	瀬戸美濃産 見込梅花文 トチン痕
332	036-05	陶器	端反皿	R4-4	焼土層	□11.0 高2.6	外：ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/1 灰白 5Y7/2 灰白/釉	□2/12	瀬戸美濃産 見込菊花文 トチン痕
333	036-03	陶器	鉢	R4-4	焼土層	台17.2	外：ロクロケズリ 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/3 浅黄	台3/12	瀬戸美濃産 縁鉢か 削出高台 内面摩耗
334	040-04	磁器 (白磁)	端反皿	R4-4	焼土層	□14.8 高3.6	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□1/12	中国産 畳付無釉
335	040-06	磁器 (白磁)	端反皿	R4-4	焼土層	□15.1	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□2/12	中国産か
336	040-07	磁器 (白磁)	端反皿	R4-4	焼土層	□16.2	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□1/12	中国産か
337	039-01	磁器 (青花)	端反皿	R4-4	焼土層	□9.8 高2.7	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10BG7/1 明青灰/釉	□2/12	中国産 畳付無釉・砂付着 見込十字花文 外面花唐草文
338	039-02	磁器 (青花)	端反皿	R4-4	焼土層	□9.6 高2.8	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10BG7/1 明青灰/釉	□1/12	中国産 畳付無釉 見込十字花文 外面花唐草文
339	039-06	磁器 (青花)	端反皿	R4-4	焼土層	□14.2 高3.8	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□2/12	中国産 畳付無釉 見込牡丹唐草文 外面底部二重角福か
340	039-04	磁器 (青花)	端反皿	R4-4	焼土層	□12.3 高2.7	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 5BG7/1 明青灰/釉	□2/12	中国産 畳付～高台内部無釉 見込草花文か・外面花唐草文

第8表 遺物観察表8

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(㎝)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
341	040-05	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	台8.6	外：ロクロナデ、ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	台5/12	中国産 量付無釉 見込牡丹唐草文
342	039-07	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	台5.1	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 58G7/1 明青灰/釉	台4/12	中国産 量付無釉 見込十字花文
343	039-03	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	底3.2	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	5Y8/1 灰白 2.5GY7/1 明オリープ灰/釉	底4/12	中国産 暮菊底 見込花文
344	040-03	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	□10.6	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10GY8/1 明緑灰/釉	□4/12	中国産 外面波濤文・芭蕉葉文
345	040-02	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	□10.6	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10GY8/1 明緑灰/釉	□2/12	中国産 外面波濤文・芭蕉葉文
346	040-01	磁器 (青花)	皿	R4-4	焼土層	□10.2	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 2.5GY7/1 明オリープ灰/釉	□4/12	中国産 外面波濤文・芭蕉葉文
347	039-05	磁器 (染付)	猪口	R4-4	焼土層	□7.2	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	□2/12	肥前産 外面山水文
348	036-07	石製品	砥石	R4-4	焼土層	残長7.3 厚3.8					重さ49g 3面使用
349	036-04	瓦質土器	鉢	R4-4	焼土層	□28.2	外：ミガキ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	N2/0 黒	□1/12	産地不明 外面1箇所剥離か
350	042-05	磁器 (青花)	碗	R4-4	炭層(近世)	台4.2	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10GY8/1 明緑灰/釉	台3/12	中国産か 見込花文
351	038-04	磁器 (青花)	丸碗	R4-4	炭層(近世)	台2.5	外：ロクロズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10GY8/1 明緑灰/釉	台12/12	中国産 量付無釉 見込花文 外面草花文
352	042-06	磁器 (青花)	碗	R4-4	炭層(近世)	台4.2	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	台5/12	中国産 見込花文
353	038-03	磁器 (青花)	碗	R4-4	炭層(近世)	台4.2	外：ロクロズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 10GY8/1 明緑灰/釉	台8/12	中国産 量付無釉・砂付着 見込花文
354	038-02	磁器 (青花)	碗	R4-4	炭層(近世)	台4.4	外：ロクロズリ、ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白	台3/12	中国産 量付無釉 見込み人物文
355	042-07	磁器 (青花)	皿	R4-4	炭層(近世)	□13.0	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N9/0 白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	□2/12	中国産か 内面花文
356	043-02	陶器	描鉢	R4-4	炭層(近世)	□32.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ、描目(4〜5本/㎝)	密	2.5YR6/6 橙 10YR6/1 褐灰	□1/12	常滑産(赤物) 内面摩耗
357	038-01	陶器	壺	R4-4	炭層(近世)	□不明	外：工具ナデ、ヨコナデ 内：オサエ、ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙 7.5YR4/2 灰褐	小片	常滑産(赤物か) 口縁端部打欠、摩耗あり
358	042-08	陶器	壺	R4-4	炭層(近世)	□不明	外：回転ナデ 内：回転ナデ、オサエ、ナデ	密	2.5Y6/1 黄灰 7.5YR8/4 浅黄橙	小片	常滑産
359	043-01	陶器	壺	R4-4	炭層(近世)	□35.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ、オサエ	密	5YR7/6 橙	□2/12	常滑産
360	057-02	陶器	皿	R4-6	暗灰色粘質土 (木片混)	底6.4	外：ロクロズリ、ロクロナデ 内：ロクロナデ、施釉(灰釉)	密	N8/0 灰白 10Y7/2 灰白/釉	台1/12	瀬戸美濃産
361	057-01	陶器	加工円盤	R4-6	暗灰色粘質土 (木片混)	径6.9 厚2.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	N5/0 灰 2.5YR7/6 橙		常滑産 描鉢か 周縁打欠後擦る
362	057-06	土師器	皿	R4-7	暗褐色粘質土 (炭混) 西半	□8.8 高1.3	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	中北勢系か
363	057-05	土師器	皿	R4-7	暗褐色粘質土 (炭混) 西半	□10.0 高2.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR7/1 灰白 7.5YR6/2 灰褐	□2/12	南伊勢系 内面黒変
364	057-04	土師器	鍋	R4-7	暗褐色粘質土 (炭混) 西半	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	5YR2/1 黒褐 7.5YR8/2 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
365	056-02	陶器	碗	R4-7	暗褐色粘質土 (炭混) 西半	台4.4	外：ロクロズリ 内：ロクロナデ、施釉(灰釉)	密	2.5Y8/1 灰白 7.5Y5/3 灰オリープ/釉	台12/12	古瀬戸 平碗か
366	056-03	磁器 (青磁)	碗	R4-7	暗褐色粘質土 (炭混) 西半	台6.2	外：ロクロズリ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	5Y8/1 灰白 2.5GY6/1 オリープ灰/釉	台5/12	中国産 高台内側蛇の目輪割ぎ 釉は貫入多い
367	056-01	陶器	鉢	R4-7	灰褐色粘質土 (炭混) 西半	□不明	外：ロクロナデ、施釉(灰釉) 内：ロクロナデ、施釉(灰釉)	密	2.5Y8/2 灰白 5Y8/3 淡黄/釉	小片	古瀬戸 折縁深皿又は却目付大皿か
368	056-04	陶器	描鉢	R4-7	灰褐色粘質土 (炭混) 西半	□不明	外：ロクロナデ、施釉(鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉(鉄釉)	密	2.5Y8/2 灰白 5YR3/2 暗赤褐/釉	小片	瀬戸美濃産
369	057-03	陶器	描鉢	R4-7	灰褐色粘質土	底11.0	外：ロクロナデ、施釉(鉄釉) 内：ロクロナデ、描目(13本/3㎝)、施釉(鉄釉)	密	N8/0 灰白 10Y7/2 灰白/釉	底1/12	瀬戸美濃産 底部糸切痕 内面摩耗
370	060-01	土師器	皿	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□9.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□1/12	南伊勢系 油煙痕あり
371	059-08	土師器	皿	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□13.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/1 灰白	□1/12	
372	060-02	土師器	台付皿	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	台4.7	外：ナデ・貼付ナデ 内：工具ナデ	密	2.5Y6/2 灰黄 7.5YR4/1 褐灰	台11/12	南伊勢系
373	059-07	土師器	焙烙か	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□不明	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/1 灰白	小片	南伊勢系
374	059-04	土師器	鍋	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□14.0	外：オサエ、ハクメ(8本/1.4㎝)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系
375	059-01	土師器	鍋	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□30.0	外：ハクメ(3〜4本/㎝)、ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR6/2 灰黄褐	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
376	059-03	土師器	鍋	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□20.0	外：ハクメ(7本/㎝)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/1 灰白	□1/12	南伊勢系
377	059-02	土師器	茶釜	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□22.4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	2.5Y6/1 黄灰	□1/12	南伊勢系
378	059-06	陶器	天目茶碗	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□12.0	外：ロクロナデ、施釉(鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉(鉄釉)	密	10YR7/1 灰白 5YR4/4 にぶい赤褐/釉	□1/12	瀬戸美濃産
379	059-05	陶器	丸碗	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□13.0	外：ロクロナデ、施釉(鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉(鉄釉)	密	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR2/2 黒褐/釉	□1/12	瀬戸美濃産
380	058-07	陶器	鉢	R5-1	暗褐色粘砂(礫、 木片多く混)	□24.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	2.5YR6/4 にぶい橙	□1/12	常滑産 歪み大
381	w01-01	木製品 (漆器)	皿	R5-1	暗褐色粘砂	台8.0	割物 底部外面は黒漆、その他は赤漆			台3/12	2024-Ko-01-1 樹種：ケヤキ 底部外面に赤字で「一」か
382	w01-06	木製品	札か	R5-1	暗褐色粘砂	長11.7 幅2.0	表面を丁寧に削って整形				2024-Ko-01-6 樹種：ヒノキ 削痕あり
383	w01-05	木製品	箸か	R5-1	暗褐色粘砂	長10.5 幅0.5	棒状の周囲を削って整形				2024-Ko-01-5 樹種：ヒノキ
384	w01-04	木製品	箸	R5-1	暗褐色粘砂	長11.0 幅0.4	棒状の周囲を削って整形				2024-Ko-01-4 樹種：ヒノキ
385	w01-02	木製品	板材	R5-1	暗褐色粘砂	長7.0 幅3.7	縁部に2個1対の小孔あり(2箇所)				2024-Ko-01-2 折敷部材か 樹種：ヒノキ
386	w01-03	木製品	板材	R5-1	暗褐色粘砂	長11.5 幅3.5					2024-Ko-01-3 折敷部材か 樹種：ヒノキ
387	058-01	土師器	皿	R5-1	褐灰色粘質土(準 大礫、木片多く混)	□8.7 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□9/12	南伊勢系

第9表 遺物観察表9

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
388	058-05	土師器	茶釜	R5-1	褐灰色粘質土 (學大礫、木片多く混)	□27.8	外：ヨコハケ、タテハケ (6本/cm)、ヨコナデ内：ハク後ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
389	058-02	陶器	天目茶碗	R5-1	褐灰色粘質土 (學大礫、木片多く混)	□11.8 高5.9	外：ロクロケズリ、ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	5YR7/4 にぶい橙 5YR2/3 極暗赤褐/釉	□4/12	瀬戸美濃産
390	058-04	陶器	播鉢	R5-1	褐灰色粘質土 (學大礫、木片多く混)	□不明	外：ロクロナデ、施釉 (錆釉) 内：ロクロナデ、施釉 (錆釉)	密	10YR8/2 灰白 N4/0 灰/釉	小片	瀬戸美濃産
391	058-03	陶器	播鉢	R5-1	褐灰色粘質土 (學大礫、木片多く混)	底9.0	外：ロクロナデ、底部糸切、施釉 (錆釉) 内：ロクロナデ、播目 (6本/cm)、施釉 (錆釉)	密	10YR8/2 灰白 5YR6/4 にぶい橙/釉	底4/12	瀬戸美濃産 内面摩耗
392	058-06	磁器 (青花)	皿	R5-1	褐灰色粘質土 (學大礫、木片多く混)	台9.0	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉	密	N9/0 白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	台1/12	中国産 墨付無釉 見込十字文か
393	061-04	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□7.8 高1.8	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR5/1 褐灰	□5/12	南伊勢系
394	062-04	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□8.0 高1.4	外：オサエ・ナデ内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□3/12	南伊勢系
395	061-08	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□7.8 高2.0	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□11/12	南伊勢系 内面工具痕
396	061-03	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□8.0 高1.7	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	N8/0 灰白	□4/12	南伊勢系
397	061-05	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□8.4	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR/1 灰白	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
398	061-02	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□10.0 高1.5	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
399	062-03	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□12.0 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
400	062-02	土師器	皿	R5-2	暗緑灰色砂礫	□10.4 高2.3	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
401	062-01	土師器	茶釜蓋	R5-2	暗緑灰色砂礫	底12.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR/2 灰白	底2/12	南伊勢系
402	061-07	陶器	花瓶か	R5-2	暗緑灰色砂礫	□不明	外：ロクロナデ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ	密	2.5Y8/1 灰白	小片	瀬戸美濃産
403	061-06	磁器 (青花)	碗	R5-2	暗緑灰色砂礫	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 7.5GY8/1 明緑灰/釉	小片	中国産 外面唐草文か
404	060-05	土師器	皿	R5-2	褐色土 (盛土)	□9.8	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
405	060-06	土師器	皿	R5-2	褐色土 (盛土)	□9.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
406	061-01	土師器	皿	R5-2	褐色土 (盛土)	□9.0	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
407	060-03	陶器	丸皿	R5-2	褐色土 (盛土)	□11.4 高2.9	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ、施釉 (長石釉)	密	2.5Y8/1 灰白 7.5YR8/4 浅黄橙/釉	□2/12	瀬戸美濃産 (志野) トチン痕あり
408	060-04	陶器	播鉢	R5-2	褐色土 (盛土)	底12.8	外：ロクロナデ、施釉 (錆釉) 内：ロクロナデ、スリメ (18本/3.3cm) 施釉 (錆釉)	密	7.5YR 8/4 浅黄橙 2.5YR5/4 にぶい赤褐/釉	底2/12	瀬戸美濃産 底部糸切痕 底部外縁・内面摩耗
409	060-07	陶器	瓶掛	R5-2	褐色土 (盛土)	□不明	外：ロクロナデ、貼花、施釉 (銅緑釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	10YR 8/2 灰白 D1C-N853 千歳緑/釉	小片	瀬戸美濃産
410	060-08	磁器 (青磁)	碗	R5-2	褐色土 (盛土)	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	5Y7/1 灰白 2.5GY6/1 オリーブ灰/釉	小片	中国産
411	i02-01	鉄製品	鋳鉄片	R5-2	褐色土 (造成土)	長23.0 厚0.23					古地金か 2024-Y-02-4
412	062-06	陶器	緑釉皿	R5-2	埋戻し	□11.0 高1.8	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	2.5Y8/2 灰白 N2/0 黒/釉	□2/12	古瀬戸 口縁端部摩耗
413	062-05	土師器	鍋	R5-2	埋戻し	□22.6	外：ナデ、ヨコナデ内：ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
414	087-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.3 高0.9	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR6/6 橙	□12/12	南伊勢系
415	065-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.4 高1.1	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
416	068-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.4 高1.0	外：オサエ・ナデ内：ナデ	やや密	2.5YR7/6 橙 5YR7/6 橙	□12/12	南伊勢系
417	066-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.8 高1.0	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□11/12	南伊勢系
418	076-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.0 高1.1	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
419	069-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高0.9	外：オサエ・ナデ内：ナデ	やや密	2.5Y7/1 灰白	□11/12	南伊勢系
420	073-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.2 高1.1	外：オサエ・ナデ内：工具ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
421	071-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.3 高1.1	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR8/3 淡橙	□9/12	南伊勢系
422	071-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.4 高0.8	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR8/3 淡橙	□6/12	南伊勢系
423	073-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.7 高1.1	外：オサエ・ナデ内：工具ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
424	073-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.6 高1.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ内：工具ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
425	089-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.6 高1.1	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙 5YR8/4 淡橙	□8/12	南伊勢系
426	071-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.7 高1.1	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□8/12	南伊勢系
427	086-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0 高1.1	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
428	072-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.2 高1.2	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□9/12	南伊勢系
429	065-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.5 高0.9	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
430	086-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.1 高1.3	外：オサエ・ナデ内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
431	066-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.2	外：オサエ内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□10/12	南伊勢系
432	067-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.1	外：オサエ内：工具ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
433	067-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.1	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
434	065-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.2	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
435	073-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.2	外：オサエ内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
436	086-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.3	外：オサエ・ナデ内：工具ナデ	密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 内面工具痕

第10表 遺物観察表 10

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
437	086-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□11/12	南伊勢系 内面工具痕
438	078-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
439	067-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
440	078-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙 10YR7/1 灰白	□12/12	南伊勢系
441	071-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□7/12	南伊勢系
442	066-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□9/12	南伊勢系 内面工具痕
443	085-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系
444	078-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□7/12	南伊勢系
445	068-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
446	089-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□8/12	南伊勢系
447	065-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
448	085-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.4	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□9/12	南伊勢系
449	071-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.7 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
450	086-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.8 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
451	068-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/4 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
452	069-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□9/12	南伊勢系
453	086-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□7/12	南伊勢系
454	067-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.0 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
455	070-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□4.8 高1.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
456	065-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.1 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
457	069-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	□12/13	南伊勢系 外面炭化物付着
458	066-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.1 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙 10YR6/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
459	069-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.0 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□12/12	南伊勢系
460	067-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
461	071-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面炭化物付着
462	069-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
463	069-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
464	072-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 外面一部炭化物付着
465	069-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
466	070-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
467	087-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.1 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
468	066-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
469	070-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
470	071-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系
471	069-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□11/12	南伊勢系
472	067-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系
473	065-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
474	070-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.1	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
475	070-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕 外面炭化物付着
476	087-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
477	087-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
478	069-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/3 淡橙	□12/12	南伊勢系
479	066-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
480	066-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
481	065-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□9/12	南伊勢系
482	086-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□12/12	南伊勢系
483	071-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
484	067-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.4	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
485	067-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.1	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
486	070-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
487	067-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.4	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕

第 11 表 遺物観察表 11

番号	実測 番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
488	068-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y8/1 灰白	□12/12	南伊勢系
489	073-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.2 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
490	078-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
491	068-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□12/12	南伊勢系
492	069-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□9/12	南伊勢系
493	070-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系
494	066-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
495	066-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.1	外：オサエ 内：工具ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□10/12	南伊勢系 内面工具痕
496	086-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
497	067-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
498	087-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
499	070-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
500	070-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.4 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系
501	072-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
502	066-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□11/12	南伊勢系
503	089-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□9/12	南伊勢系
504	070-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.5 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
505	069-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.7 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
506	067-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.7 高1.3	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系 内面工具痕
507	066-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
508	071-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
509	068-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.8 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
510	086-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/3 浅黄橙 10YR7/2 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系
511	069-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.3 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
512	070-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□12/12	南伊勢系
513	066-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.7 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□8/12	南伊勢系
514	087-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.8 高1.4	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
515	068-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.7 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□11/12	南伊勢系
516	067-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.6	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
517	070-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.6 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
518	068-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□5.9 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	2.5Y8/1 灰白 10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
519	068-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.2 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR7/2 明褐灰	□11/12	南伊勢系
520	071-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.4 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□11/12	南伊勢系 歪み大
521	086-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.6 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
522	072-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.4 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□11/12	南伊勢系
523	071-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.3 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□11/12	南伊勢系
524	071-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.3 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
525	089-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□9/12	南伊勢系
526	077-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.8 高1.4	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□6/12	南伊勢系
527	090-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
528	072-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	2.5Y7/3 浅黄	□12/12	南伊勢系
529	073-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/6 橙	□12/12	南伊勢系 内面圧痕
530	073-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙 10YR6/1 褐灰	□10/12	南伊勢系 内面工具痕
531	068-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.8 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系
532	072-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系
533	072-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□8/12	南伊勢系
534	068-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
535	068-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR7/2 明褐灰	□10/12	南伊勢系
536	072-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.7	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 外面炭化物付着
537	072-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.6	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
538	076-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.3	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり

第12表 遺物観察表 12

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量(cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
539	072-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.2 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
540	073-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 外面板状圧痕
541	073-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.2 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
542	073-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
543	072-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高1.3	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
544	089-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/3 にぶい橙	□3/12	南伊勢系 油煙痕あり
545	072-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
546	089-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.3 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/3 にぶい橙	□5/12	南伊勢系
547	077-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.3 高1.4	外：オサエ 内：工具ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□10/12	南伊勢系 内面工具痕
548	076-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.3 高1.6	外：オサエ 内：ナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
549	093-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂（排水 坑部分）	□7.4 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
550	089-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.4 高1.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□9/12	南伊勢系
551	088-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.5 高1.7	外：オサエ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□5/12	南伊勢系
552	074-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.4 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□8/12	南伊勢系
553	092-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂（排水 坑部分）	□7.6 高1.2	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□3/12	南伊勢系
554	092-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂（排水 坑部分）	□8.2 高1.1	外：オサエ 内：ナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系
555	076-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.6 高1.7	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR6/3 にぶい黄橙	□7/12	南伊勢系 油煙痕あり
556	075-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 内面工具痕
557	075-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
558	090-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR6/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系 油煙痕あり
559	089-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系 油煙痕あり
560	088-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.9 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙 N7/0 灰白	□8/12	南伊勢系
561	088-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.0 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□8/12	南伊勢系
562	076-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.2 高1.5	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙 7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
563	075-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.8 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白 2.5YR6/6 橙	□11/12	南伊勢系
564	074-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.2 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□10/12	南伊勢系
565	090-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.2 高1.4	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系 油煙痕あり
566	077-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.1 高1.8	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 歪み大
567	076-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.3 高2.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR6/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
568	089-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.2 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
569	089-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.4 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
570	076-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.4 高2.1	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
571	073-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.5 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR8/3 浅黄橙	□8/12	南伊勢系
572	075-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□9/12	南伊勢系
573	088-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.3 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□6/12	南伊勢系
574	074-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.7 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□10/12	南伊勢系
575	088-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.7 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
576	074-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR8/4 淡橙	□8/12	南伊勢系
577	075-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.7 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□9/12	南伊勢系
578	089-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.4 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□6/12	南伊勢系 外面底部板状圧痕
579	077-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.6 高1.6	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□6/12	南伊勢系
580	088-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.7 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR8/4 淡橙	□12/12	南伊勢系
581	077-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.6 高1.8	外：オサエ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
582	088-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.9 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/2 明褐色	□7/12	南伊勢系
583	075-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.0 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/1 灰白 5YR8/3 淡橙	□9/12	南伊勢系 外面底部工具痕
584	088-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.1 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/4 浅黄橙	□5/12	南伊勢系
585	074-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.2 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□11/12	南伊勢系
586	074-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.0 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□10/12	南伊勢系
587	074-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系
588	074-10	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.0 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙 5YR8/3 淡橙	□8/12	南伊勢系 内面工具痕
589	073-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.2 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/2 灰黄	□6/12	南伊勢系

第13表 遺物観察表 13

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
590	075-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.2 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□5/12	南伊勢系
591	074-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.2 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白 7.5YR8/2 灰白	□5/12	南伊勢系
592	074-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.5 高1.9	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR8/3 淡橙 N4/0 灰	□12/12	南伊勢系
593	080-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.4 高1.6	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR8/3 淡橙	□3/12	南伊勢系
594	076-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.4 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y6/2 灰黄	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
595	075-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.8 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□5/12	南伊勢系
596	074-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.9 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□5/12	南伊勢系
597	077-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.1 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系
598	080-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.0 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□6/12	南伊勢系
599	075-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.2 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR8/3 淡橙 10YR8/2 灰白	□9/12	南伊勢系
600	075-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.4 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/1 灰白 7.5YR8/2 灰白	□12/12	南伊勢系
601	080-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.6 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□6/12	南伊勢系
602	074-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.5 高1.9	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□12/12	南伊勢系
603	095-01	土師器	皿	R5-5	青灰色粘砂	□9.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
604	093-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□12.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系
605	093-05	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□12.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□3/12	南伊勢系
606	093-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□12.0	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	10YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
607	093-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□12.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系
608	080-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□13.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□3/12	南伊勢系
609	093-02	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□14.1	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系
610	090-03	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.2 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系 油煙痕あり
611	090-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.4 高2.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系 油煙痕あり
612	075-11	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□8.9 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/1 灰白 5YR8/4 淡橙	□12/12	南伊勢系
613	075-12	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.6 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR8/1 灰白 5YR8/2 灰白	□8/12	南伊勢系
614	077-04	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.5 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□6/12	南伊勢系
615	090-08	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.8 高1.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y7/1 灰白	□5/12	南伊勢系
616	090-09	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.8 高2.3	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
617	090-07	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.4 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□7/12	南伊勢系
618	076-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□9.4 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□12/12	南伊勢系 油煙痕あり
619	090-06	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□10.3	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系 油煙痕あり
620	077-01	土師器	皿	R5-3	青灰色粘砂	□10.0 高2.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：オサエ・ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙 N6/0 灰	□12/12	南伊勢系
621	085-04	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□6.9 高3.5	外：オサエ・ヨコナデ、貼付ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□5/12	南伊勢系 外面スス付着
622	078-07	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.3 高1.8	外：ヨコナデ、貼付ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 内面爪痕 貼付高台
623	078-05	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.1 高3.1	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ、貼付ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□12/12	南伊勢系 貼付高台
624	078-06	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.4 高4.2	外：オサエ・ヨコナデ、貼付ナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□8/12	南伊勢系 貼付高台 歪み大
625	085-05	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	台4.2	外：オサエ・貼付ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	台3/12	南伊勢系
626	089-04	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□7.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□4/12	南伊勢系 歪み大
627	085-06	土師器	台付皿	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：オサエ・ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	小片	南伊勢系
628	085-03	土師器	不明品	R5-3	青灰色粘砂	台8.8	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	台7/12	産地不明 油煙痕
629	079-08	土師器	鉢	R5-3	青灰色粘砂	□11.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□4/12	南伊勢系 口縁部スス付着
630	085-02	土師器	鉢か	R5-3	青灰色粘砂	□11.1	外：オサエ・ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□2/12	南伊勢系
631	082-06	土師器	鉢か	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ハケメ (5本/cm)、ナデ、貼付ナデ 内：ナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙	小片	南伊勢系 注口部
632	091-07	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□15.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□1/12	南伊勢系
633	080-02	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□16.0	外：オサエ・ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□4/12	南伊勢系
634	092-01	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□16.4	外：オサエ・ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/3 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系
635	083-04	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□16.6	外：ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	5YR7/3 にぶい橙	□2/12	南伊勢系 焼成後穿孔1箇所
636	083-01	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□17.4	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ハケメ (4本/cm)、ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
637	092-02	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□18.2	外：オサエ・ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR6/4 にぶい橙	□1/12	南伊勢系
638	080-04	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□14.4	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□3/12	南伊勢系
639	079-09	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□15.6	外：ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
640	080-07	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□16.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□4/12	南伊勢系

第 14 表 遺物観察表 14

番号	実測番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
641	083-03	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□16.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系 焼成後穿孔1箇所
642	080-03	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□17.0	外：ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	10YR7/1 灰白	□5/12	南伊勢系 底部一部被熱か
643	080-01	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□16.8	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系 底部一部被熱
644	092-03	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□17.8	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR6/3 にぶい褐	□1/12	南伊勢系 口縁部付近スス付着
645	083-02	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□18.0	外：ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	10YR7/3 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 焼成後穿孔1箇所
646	091-06	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□15.6	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR6/2 灰褐	□1/12	南伊勢系
647	083-05	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□17.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
648	080-06	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□19.6 高3.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系か スス付着
649	085-01	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□16.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR6/3 にぶい褐	□3/12	南伊勢系か
650	092-05	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
651	092-04	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	2.5Y8/2 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
652	091-05	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR8/1 灰白	小片	南伊勢系 外面スス付着
653	091-04	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	小片	南伊勢系 外面スス付着
654	091-02	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR4/3 褐	小片	南伊勢系 内面コゲ付着
655	083-06	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□16.6	外：ハケメ (7本/cm)、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	2.5YR7/6 橙 10R6/6 赤橙	□2/12	南伊勢系
656	091-01	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□20.2	外：ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR5/4 にぶい褐	□2/12	南伊勢系 外面スス付着
657	082-03	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□25.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
658	082-02	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□25.8	外：ハケメ (5本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：ハケメ (7本/cm)、ケズリ、ヨコナデ	やや密	10YR7/1 灰白 7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系 外面スス付着
659	080-05	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□38.1	外：ナデ、ハケメ (5本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	密	10YR8/2 灰白	□1/12	南伊勢系
660	081-03	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□39.0	外：ナデ、ハケメ (5本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	7.5YR7/2 明褐灰	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
661	081-01	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□39.0	外：ナデ、ハケメ (4本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	5YR4/2 灰褐 7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系 外面スス付着
662	081-02	土師器	鍋	R5-3	青灰色粘砂	□39.0	外：ナデ、ハケメ (6本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ、工具ナデ、ケズリ、ヨコナデ	やや密	10YR5/1 褐灰 7.5YR7/2 明褐灰	□1/12	南伊勢系 外面スス付着
663	082-01	土師器	焙烙	R5-3	青灰色粘砂	□36.0	外：ナデ、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/6 橙	□2/12	南伊勢系 外面スス付着
664	081-04	土師器	羽釜	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ヨコナデ、貼付ナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR6/3 にぶい褐	小片	南伊勢系 外面スス付着
665	093-01	土師器	羽釜	R5-3	青灰色粘砂 (排水坑部分)	□35.6	外：ハケメ (6本/cm)、ヨコナデ、貼付ナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	2.5Y8/1 灰白	□2/12	南伊勢系
666	082-05	土師器	茶釜蓋	R5-3	青灰色粘砂	□10.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/3 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
667	079-05	土師器	茶釜蓋	R5-3	青灰色粘砂	□12.4	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	□5/12	南伊勢系 スス付着
668	082-04	土師器	茶釜	R5-3	青灰色粘砂	□10.0	外：ハケメ (4本/cm)、ヨコナデ 内：オサエ・ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙 N3/0 暗灰	□3/12	南伊勢系 小形品
669	091-03	土師器	茶釜	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	10YR5/1 褐灰	小片	南伊勢系 内外面炭化
670	084-01	土師器	十能	R5-3	青灰色粘砂	残長13.0	外：ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/3 にぶい橙	-	南伊勢系 外面スス付着
671	084-02	土師器	十能	R5-3	青灰色粘砂	残長13.3	外：ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/4 にぶい橙 7.5YR5/1 褐灰	-	南伊勢系 外面スス付着
672	095-02	陶器	天目茶碗	R5-5	青灰色粘砂	台4.2	外：ロクロケズリ、施釉 (錆釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	10YR4/3 にぶい黄橙 10R4/3 赤褐	台11/12	瀬戸美濃産 加工円盤の可能性あり
673	065-01	陶器	丸皿	R5-3	青灰色粘砂	□10.9 高2.5	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ、施釉 (長石釉)	密	5Y8/1 灰白 5Y8/1 灰白/釉	□10/12	瀬戸美濃産 (志野)
674	079-02	陶器	丸皿	R5-3	青灰色粘砂	□12.0 高2.4	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ、施釉 (長石釉)	密	2.5Y8/1 灰白 2.5Y8/2 灰白/釉	□11/12	瀬戸美濃産 (志野)
675	063-01	陶器	鉄絵皿	R5-3	青灰色粘砂	□14.4 高3.8	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (銅緑釉) 内：ロクロナデ、鉄絵、施釉 (銅緑釉)	密	2.5Y8/2 灰白 10Y4/2 オリーブ灰/釉	□10/12	瀬戸美濃産 見込蘭竹文
676	079-06	陶器	卸皿	R5-3	青灰色粘砂	底6.0	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ、卸目、施釉 (灰釉)	密	10YR8/2 灰白 2.5Y8/2 灰白	底3/12	瀬戸美濃産 糸切痕
677	065-02	陶器	鉢	R5-3	青灰色粘砂	□24.0 高6.5	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (透明釉) 内：ロクロナデ、施釉 (透明釉)	密	2.5Y7/1 灰白 5Y7/2 灰白/釉	□1/12	美濃産 (御深井) 削出高台 口縁部・内面に印刻 釉は購入多い
678	079-01	陶器	折縁鉢	R5-3	青灰色粘砂	□22.7 高4.4	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/1 灰白 5Y7/2 灰白/釉	□2/12	美濃産 (御深井) 削出高台 釉は購入多い
679	063-05	陶器	向付	R5-3	青灰色粘砂	□15.6 高4.4	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (長石釉) 内：ロクロナデ	密	N3/0 暗灰 N8/0 灰白/釉	□2/12	瀬戸美濃産 (鼠志野)
680	063-03	陶器	半胴	R5-3	青灰色粘砂	□16.0	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	10YR8/2 灰白 2.5YR2/1 赤黒/釉	□1/12	瀬戸美濃産 口縁端部摩耗 681と同一個体の可能性あり
681	063-04	陶器	半胴	R5-3	青灰色粘砂	底14.0	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	10YR8/2 灰白 2.5YR2/1 赤黒/釉	底5/12	瀬戸美濃産 680と同一個体の可能性あり
682	079-07	陶器	半胴	R5-3	青灰色粘砂	底13.2	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	10YR8/2 灰白 7.5YR3/1 黒褐/釉	底2/12	瀬戸美濃産
683	079-04	陶器	茶入	R5-3	青灰色粘砂	□3.0	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ、施釉 (鉄釉)	密	10YR8/2 灰白 7.5YR4/3 褐	□4/12	瀬戸美濃産
684	065-03	陶器	茶入	R5-3	青灰色粘砂	肩6.0	外：ロクロナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	5Y8/1 灰白 7.5YR3/2 黒褐/釉	肩3/12	瀬戸美濃産
685	079-03	陶器	鉢	R5-3	青灰色粘砂	□17.0 高4.5	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	N7/0 灰白 7.5YR4/3 褐	□1/12	常滑産 (真焼) 底部砂粒多い 歪み大
686	064-01	陶器	壺	R5-3	青灰色粘砂	□40.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：オサエ・ナデ、ヨコナデ	密	2.5YR5/4 にぶい赤褐	□2/12	常滑産 (赤物)
687	063-02	磁器	皿か	R5-3	青灰色粘砂	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 N8/0 灰白/釉	小片	肥前産
688	i02-02	鉄製品	工具柄 冠	R5-3	青灰色粘砂	長2.8×2.1 厚0.2					幅0.9cmの板状材を土卵形底部で鍛接 2024-Y-02-1
689	i02-03	鉄製品	和釘	R5-3	青灰色粘砂	長8.4 厚0.4					頭巻釘 2024-Y-02-2
690	i02-04	鉄製品	鉢鉄片	R5-3	青灰色粘砂	長6.3 厚0.4					古地金か 2024-Y-02-3
691	062-07	石製品	砥石か	R5-3	青灰色粘砂	長8.5 厚1.7				小片	2箇所面取、面取箇所擦痕あり

第 15 表 遺物観察表 15

番号	実測 番号	様・質	器種等	調査坑	遺構・層名等	法量 (cm)	調整・技法の特徴	胎土	色 調	残存度	特記事項
692	063-06	磁器	碗	R5-3	造成土	□不明	外：ロクロナデ、施釉 内：ロクロナデ、施釉	密	N8/0 灰白 N8/0 灰白/釉	小片	瀬戸美濃産 外面青海波に千鳥か
693	094-02	土師器	皿	R5-4	暗褐色粘砂	□8.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	5YR7/4 にぶい橙	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
694	094-03	土師器	皿	R5-4	暗褐色粘砂	□8.2	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	密	7.5YR8/3 浅黄橙	□2/12	南伊勢系
695	094-06	土師器	台付皿	R5-4	暗褐色粘砂	台4.4	外：貼付ナデ 内：ナデ	密	10YR7/1 灰白	台10/12	南伊勢系 内面スス付着
696	094-07	土師器	鍋	R5-4	暗褐色粘砂	□35.0	外：ハケメ (8本/cm)、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/4 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系
697	094-05	陶器	丸碗	R5-4	暗褐色粘砂	台3.7	外：ロクロナデ、ロクロケズリ、施釉 (灰釉) 内：ロクロナデ、施釉 (灰釉)	密	2.5Y8/1 灰白	台12/12	瀬戸美濃産 削出高台
698	094-04	陶器	瓶か	R5-4	暗褐色粘砂	底5.0	外：ロクロナデ、糸切後ナデ、施釉 (鉄釉) 内：ロクロナデ	密	10YR6/3 にぶい黄橙 5YR4/2 灰褐	底9/12	産地不明 底部線刻「二」 外面煤付着
699	094-01	陶器	捏鉢	R5-4	暗褐色粘砂	□32.0	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	密	5YR6/4 にぶい橙	□2/12	常滑産 (赤物) 内面摩耗
700	096-03	土師器	皿	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□6.7 高1.5	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□6/12	南伊勢系
701	095-04	土師器	皿	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□6.7 高1.6	外：オサエ 内：ナデ	密	7.5YR7/4 にぶい橙	□6/12	南伊勢系
702	096-01	土師器	皿	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□9.2 高1.4	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	5Y8/4 淡橙	□3/12	南伊勢系
703	096-02	土師器	皿	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□8.0	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/4 浅黄橙	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
704	095-05	土師器	鍋	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□30.0	外：ハケメ (7本/cm)、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	7.5YR7/3 にぶい橙	□2/12	南伊勢系
705	095-03	土師器	鍋	R5-6	SK (暗褐色粘質土)	□不明	外：ハケメ (8本/cm)、ケズリ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	密	10YR7/2 にぶい黄橙	小片	南伊勢系
706	i02-06	鉄製品	釘か	R5-6	S K 2	長1.2 厚0.2				脚先片	2024-Y-02-6
707	i02-05	鉄製品	釘か	R5-6	S K 2	長1.7 厚0.4				脚先片	2024-Y-02-5
708	096-04	陶器	甕	R5-7	暗灰褐色礫層	□44.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	密	N5/0 灰	□1/12	常滑産 (真焼) □縁端部摩耗
709	097-05	陶器	山茶碗	R5-8	褐色粘質土	台9.0	外：ロクロナデ、貼付ナデ 内：ロクロナデ	密	N7/0 灰白	台2/12	渥美産 内面摩耗
710	096-06	土師器	皿	R5-8	暗褐色礫層	□9.4 高1.9	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR7/1 灰白	□4/12	南伊勢系 底部外面工具痕
711	096-08	土師器	皿	R5-8	暗褐色礫層	□10.0 高2.1	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR7/2 明褐灰	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
712	096-05	土師器	皿	R5-8	暗褐色礫層	□10.6 高1.7	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR7/2 明褐灰	□5/12	南伊勢系 油煙痕あり
713	096-07	土師器	皿	R5-8	暗褐色礫層	□13.6 高2.2	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR4/1 褐灰 10YR7/1 灰白	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり 外面スス付着
714	w01-07	木製品	不明板材	R5-8	暗褐色礫層	長6.7 厚0.5					2024-K0-01-7 樹種：マツ属複雑管束並風 鋸の刃痕が明確に残る
715	097-07	土師器	皿	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□13.6 高2.6	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	7.5YR7/3 にぶい橙	□4/12	南伊勢系
716	097-03	土師器	皿	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□7.0 高1.2	外：オサエ・ナデ 内：工具ナデ	やや密	7.5YR8/3 浅黄橙	□5/12	南伊勢系 内面工具痕
717	097-02	土師器	皿	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□7.4 高1.4	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや密	10YR8/2 灰白	□3/12	南伊勢系
718	097-06	土師器	皿	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□9.6 高1.5	外：オサエ・ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	10YR7/2 にぶい黄橙	□1/12	南伊勢系 油煙痕あり
719	097-04	土師器	皿	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□9.0 高1.3	外：ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、ヨコナデ	やや密	7.5YR8/2 灰白	□2/12	南伊勢系 油煙痕あり
720	097-01	土師器	焙烙	R5-8	暗褐色粘質土 (10 cm大礫混)	□38.0	外：オサエ・工具ナデ、ヨコナデ 内：工具ナデ、ヨコナデ	やや密	5YR7/3 にぶい橙 10YR8/3 浅黄橙	□1/12	南伊勢系 外面スス付着

第 16 表 出土貝類一覧表

調査坑No.	層位	分類群	部位		状態	備考
R5-1	暗灰色粘砂 (礫・木片混)	二枚貝	殻		破片	
R5-3	造成土	サザエ	殻		破片	
R5-3	暗青灰粘砂 (礫混)	サザエ	殻		破片	
R5-6	土坑か	アカニシ	殻		破片	殻皮剥離
R5-6	土坑か	アカニシ	殻	殻頂部	破片	
R5-7	暗灰褐色砂礫層	アワビ類	殻		破片	
R5-7	暗灰褐色砂礫層	不明二枚貝	殻		破片	
R5-8	暗褐色礫層	ヤマトシジミ	殻		破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10cm大礫混	ヤマトシジミ	殻		破片	
R5-8	暗褐色礫層	イタヤガイ	殻		破片	
R5-8	褐色粘質土	サザエ	殻	蓋	破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10cm大礫混	サザエ	殻	蓋	破片	
R5-8	暗褐色礫層	サザエ	殻	蓋	破片	
R5-8	暗褐色礫層	マダカアワビ	殻		破片	
R5-8	暗褐色礫層 10cm大礫混	アワビ類	殻		破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10cm大礫混	アワビ類	殻		破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10cm大礫混	カキ類	殻		破片	
R5-8	暗褐色粘質土 10cm大礫混	不明貝	殻		破片	

VI 自然科学分析

1 分析の目的

中館遺跡の各調査坑から出土した遺物とともに、植物種子・貝殻、漆器や木製品が出土している。土器出土層からの共伴であったり、その上下層から出土するこれらの同定を行い、堆積層周辺の植生や自然環境等の復元的考察を試みるために、同定分析を行った。以下に、令和3年度実施の調査坑から出土した試料について種実および貝類の同定結果を、令和5年度実施の調査坑から出土した漆器と木製品について漆塗膜分析および樹種同定結果を報告する。

2 中館遺跡から出土した大型植物遺体

(1) はじめに

調査坑No.3から出土した、中世後期～近現代と推定されている大型植物遺体について、同定結果を報告し、当時の利用植物について検討した。

(2) 試料と方法

分析試料は、調査坑No.3から肉眼で確認され、採取された3試料で、中世後期から近現代の大型植物遺体と推定されている。

同定および計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。同定された試料は、三重県埋蔵文化財センターに保管されている。

(3) 結果

同定した結果、3試料は木本植物のウメ核とモモ核、ヤマモモ核であった（第17表）。

以下に、出土した大型植物遺体を試料別に記載する。

試料①-1：ヤマモモ1点

試料①-2：ウメ1点

試料①-3：モモ1点

次に、得られた分類群の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。なお、分類群の学名は米倉・梶田（2003-）に準拠し、APG IIIリストの順とした。

ウメ *Prunus mume* Siebold et Zucc. 核 バラ科
茶色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は卵円形。表面全体に、不規則で深い小さな孔がある。着点は凹む。縫合線に沿って深い溝が入る。高さ19.6mm、幅13.5mm、厚さ11.3mm。

モモ *Prunus persica* (L.) Batsch 核 バラ科
茶褐色で、完形ならば上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形で先が尖る。表面に不規則な深い皺がある。片側の側面には縫合線に沿って深い溝が入るが、残存していない。残存高15.6mm、残存幅15.9mm、残存厚6.3mm。

ヤマモモ *Morella rubra* Lour. 核 ヤマモモ科
赤褐色で、いびつな凸レンズ型の扁平な球体。表面は粗い。核皮は厚く硬い。長さ7.8mm、幅6.1mm、厚さ4.6mm。

(4) 考察

調査坑No.3から出土した、中世後期から近現代と推定されている大型植物遺体3点を同定した結果、栽培植物で果樹のウメとモモ、野生植物で食用として利用可能なヤマモモであった。

ウメやモモ、ヤマモモの核は、果肉を食べた後に、食用にならない核の部分が捨てられた可能性や、周辺に生育していた果樹から落下し、堆積した可能性が考えられる。

（バンダリ スダルシャン パレオ・ラボ）

第17表 中館遺跡の調査坑No.3から出土した大型植物遺体（括弧内は破片数）

分類群	試料No. 時期 採取方法	①-1	①-2	①-3
			中世後期～近現代 現地取上げ	
ウメ	核		1	
モモ	核			(1)
ヤマモモ	核	1		



第 21 図 中館遺跡の調査坑No.3 から出土した大型植物遺体

1. ウメ核 (No. ① - 2)、2. モモ核 (No. ① - 3)、3. ヤマモモ核 (No. ① - 1)

3 中館遺跡出土の貝類同定

(1) はじめに

三重県に所在する中館遺跡から出土した貝類の同定結果を報告する。

(2) 試料と方法

試料は、確認トレンチから出土した貝類である。時期は、中世後期～近現代と考えられている。肉眼で試料を観察し、現生標本との比較により、部位と分類群の同定を行った。

(3) 結果

貝類の同定結果を第 18 表に示す。腹足綱で 2 分類群、斧足綱で 1 分類群が確認された。

調査坑 No. 1 の黒褐色粘質土からは、アカニシの体層破片 1 点が同定された。殻表には結節状の螺肋が認められる。

調査坑 No. 3 の黒褐色粘質土からは、バカガイの左殻 2 点、右殻 3 点、破片が 2 点と、アワビ属と思われる破片が 1 点同定された。バカガイとしたのは、いずれも弾帯受が大きく、前後の側歯が明らかな点、

殻頂があまり盛り上がらない点、太く低い輪肋が認められる点などから判断した。

貝類の生息域で見ると、アカニシは水深 30 m 以浅の砂泥底、バカガイは潮間帯下部～水深 20 m ほどの砂泥底に生息し、アワビ属は潮間帯～水深 50 m ほどの岩礁域に生息する。これらの貝類は、いずれも食用となるため、海岸部で採取された貝類が遺跡へ持ち込まれたと考えられる。

(三谷 智広 パレオ・ラボ)

4 中館遺跡における漆製品の塗膜分析

(1) はじめに

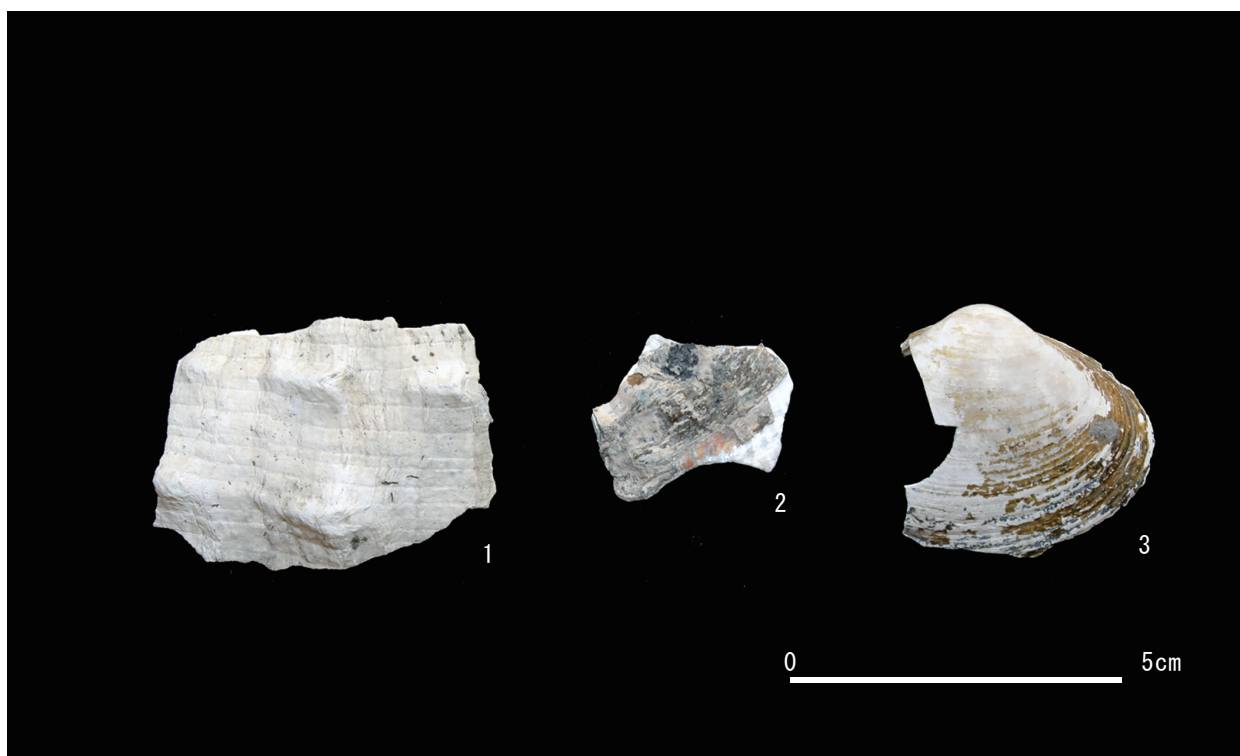
遺跡出土の漆椀について、断面の顕微鏡観察、蛍光 X 線分析を行い、その構造より製作工程の考察を行う。

(2) 試料

分析試料は、漆器皿より採取された漆膜である。漆器皿から木胎も含め 2 mm 角程の破片を採取した。なお、これは樹種同定および保存処理に用いられた漆器製品 (381) と同一試料である。

第 18 表 中館遺跡出土貝類の同定結果

試料No.	調査坑No.	層位	分類群	部位	状態	左右および点数			
							左	右	不明
②-1	1	黒褐色粘質土 (貝殻混)	アカニシ	殻	体層破片	1			
②-2	3		バカガイ	殻	殻頂部			1	
②-3	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-4	3		バカガイ	殻	殻頂部			1	
②-5	3		バカガイ	殻	殻頂部			1	
②-6	3		バカガイ	殻	殻頂部		1		
②-7	3		バカガイ	殻	破片				1
②-8	3		バカガイ	殻	破片				1
②-9	3		アワビ属?	殻	破片	1			



第 22 図 中館遺跡出土の貝類（1：調査坑 No. 1 出土 2・3：調査坑 No. 3 出土）

1. アカニシ（試料 No. ②-1） 2. アワビ属？（試料 No. ②-9） 3. バカガイ右殻（試料 No. ②-2）

（3）方法

断面観察 蛍光X線分析を行った後、包埋し、厚さ数 μm になるまで＃80、＃120、＃240、＃1500、＃4000、＃6000、＃10000の耐水紙やすりおよび研磨機（FG-18：RYOBI）で研磨した。なお、包埋およびプレパラートへの接着は高透明エポキシ樹脂（セメダインスーパー：セメダイン株式会社製）で行った。完成した試料を透過顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）および落射顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）で観察した。

蛍光X線分析 エネルギー分散型蛍光X線分析装置を用いて測定を行う。機器は Thermo Scientific 製可搬型蛍光X線分析装置 NITON SL2-950S Plus を使用した。測定条件は励起用X線ターゲットが Ag（銀）、測定モードは Soil モード、Mining モードの2種類を利用する。装置の測定部径は8mm、計測時間はともに約60秒で、大気雰囲気下で測定した。原子番号12番のMg（マグネシウム）から92番のU（ウラン）までの元素の検出が可能である。

（4）結果

漆器は内面は赤色、外面は底部が黒色、側面が赤色である。

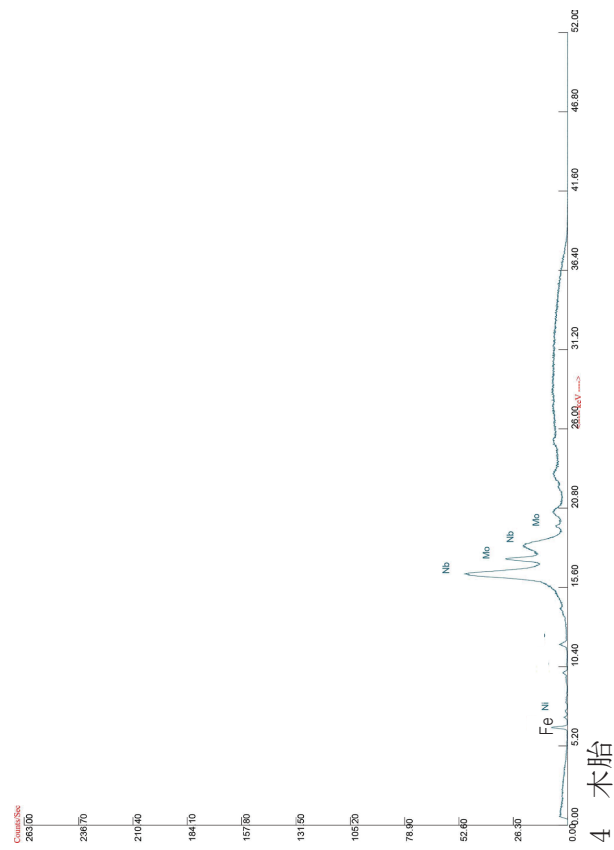
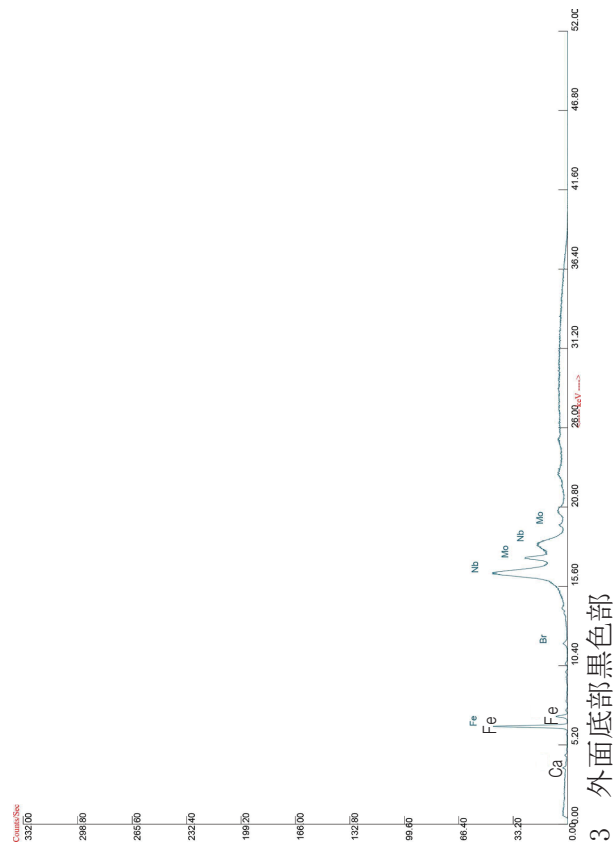
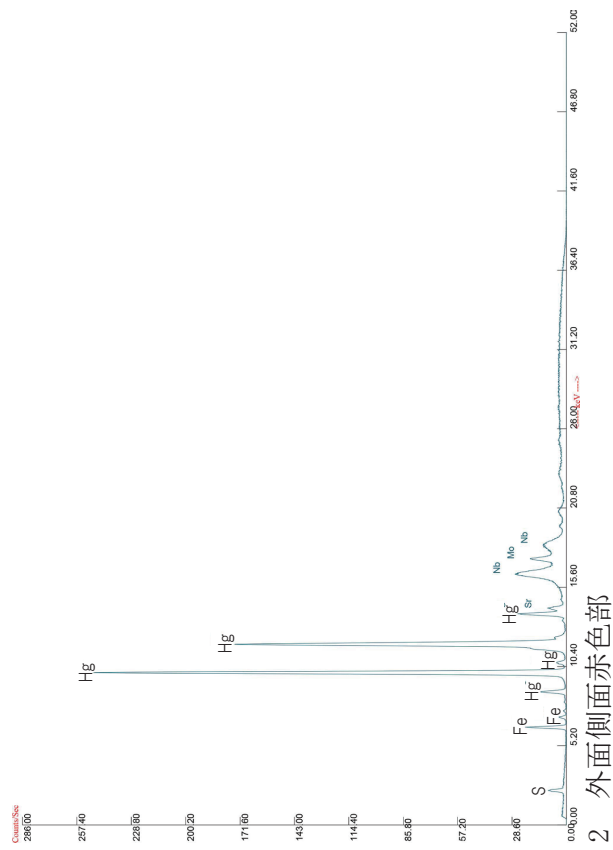
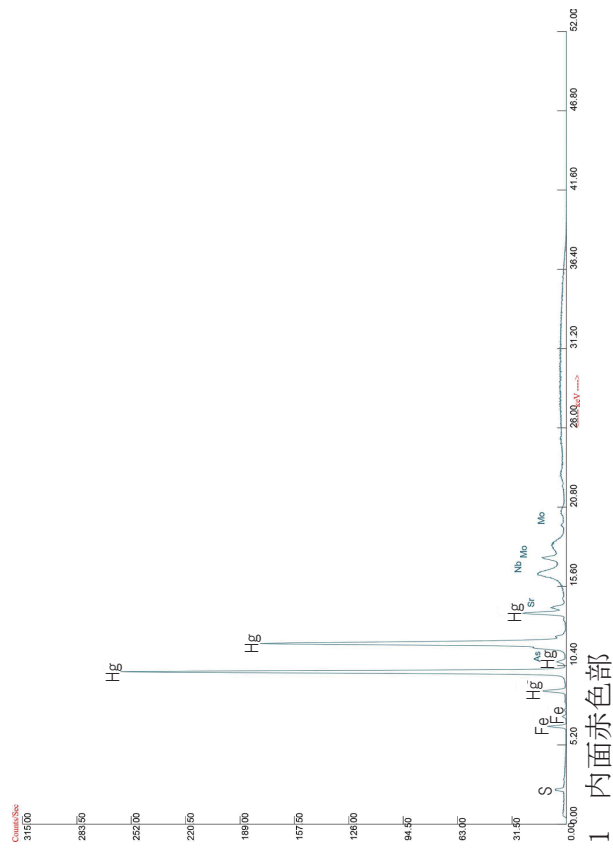
断面観察

・内面 赤色部

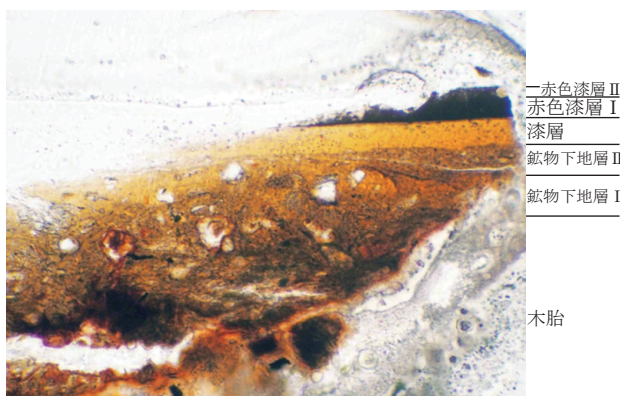
下位より木胎の上に下地層が2層、漆層が1層、赤色漆層が2層の5層が観察できた。下地層Ⅰは層厚23～113 μm で平坦ではなく、大きいもので径15 μm 程度の結晶鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英、黄色や青色に変化しながら消光する黒雲母などが観察された。下地層Ⅱは層厚3～28 μm で上部が平坦で、径4 μm 程度の結晶鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英などが観察された。漆層は層厚20 μm で平坦であり、不純物の無い透明な漆である。赤色漆層Ⅰは層厚17 μm で平坦であり、約径1 μm の赤色鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。赤色漆層Ⅱは層厚10 μm で平坦であり、約径1 μm の赤色鉱物が観察され、空隙には漆が観察された。

・外面 黒色部

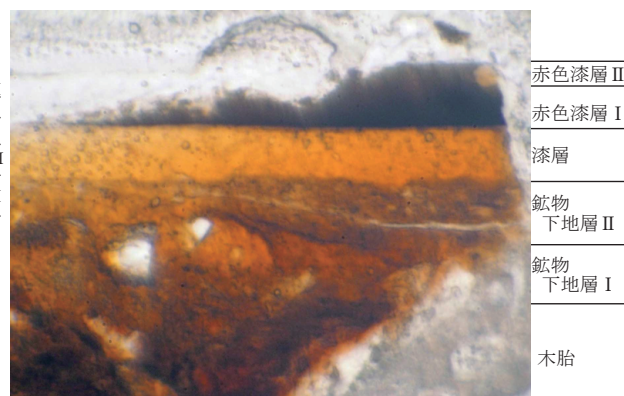
下位より木胎の上に下地層が1層、漆層が3層、有色漆層が1層の5層が観察された。下地層は15～31 μm で上部が平坦で、径4 μm 程度の結晶鉱物が観察



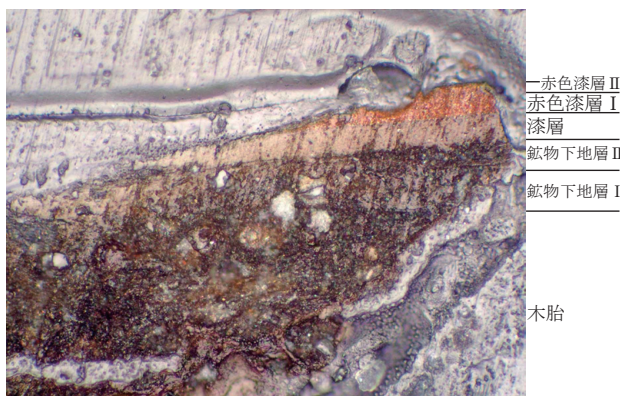
第23図 中館遺跡における蛍光X線分析結果



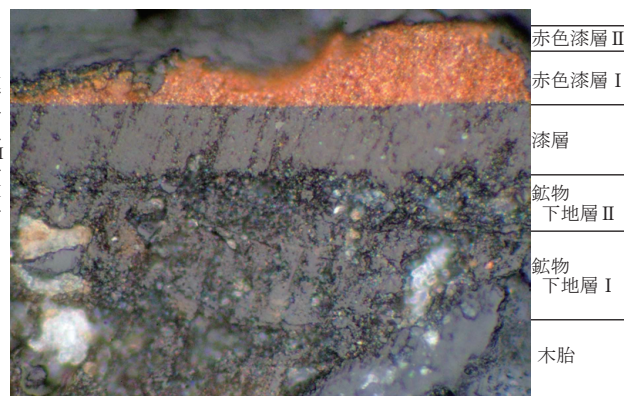
1 内面赤色部 透過顕微鏡 50 μ m



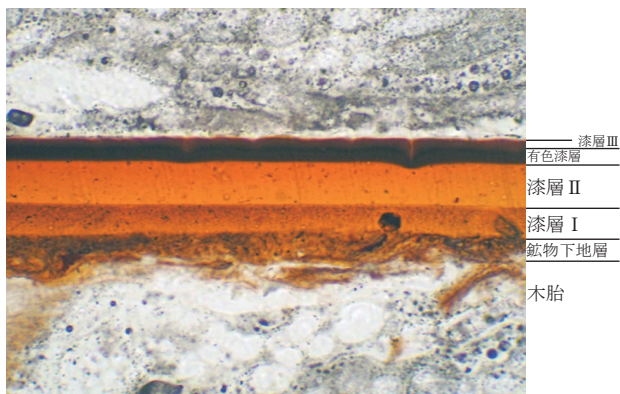
2 内面赤色部 透過顕微鏡 50 μ m



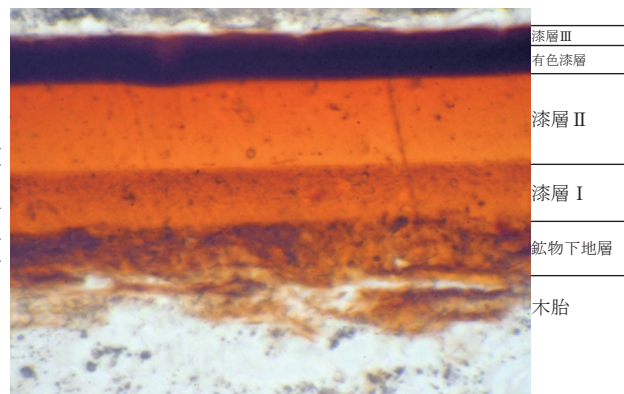
3 内面赤色部 落射顕微鏡 50 μ m



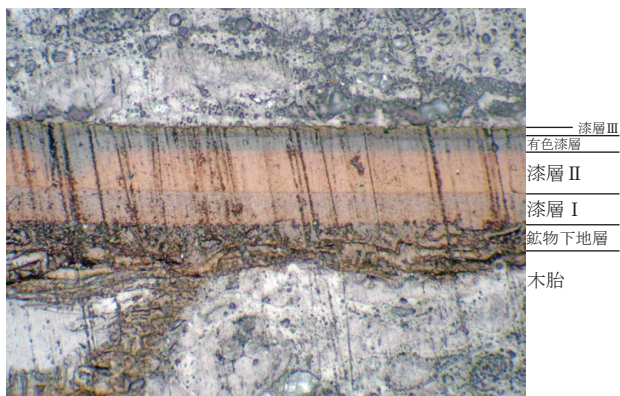
4 内面赤色部 落射顕微鏡 50 μ m



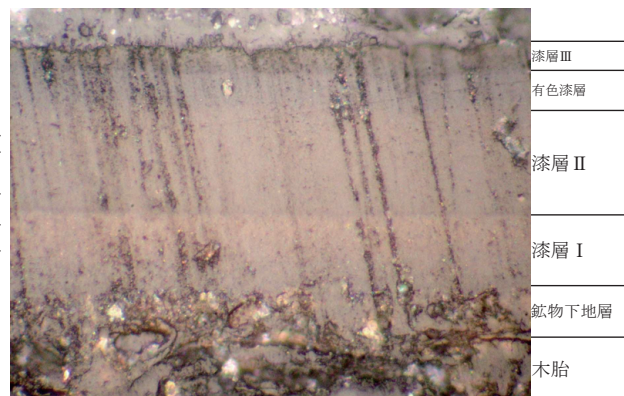
5 外面黒色部 透過顕微鏡 50 μ m



6 外面黒色部 透過顕微鏡 50 μ m



7 外面黒色部 落射顕微鏡 50 μ m



8 外面黒色部 落射顕微鏡 50 μ m

第 24 図 中館遺跡の塗膜分析写真

され、空隙には漆が観察された。結晶鉱物を偏光レンズを用いて観察すると、白から灰色へと変化しながら消光する石英などが観察された。漆層Ⅰは24 μ mで平坦であり、不純物の無い透明な漆層である。漆層Ⅱは37 μ mで平坦であり、不純物の無い透明な漆層である。有色漆層は層厚17 μ mで平坦であり、落射顕微鏡下では黒色、粒子は観察されない。漆層Ⅲは層厚12 μ mで平坦であり、落射顕微鏡下では乳黄色である。これは、下位の有色漆層の色が染み込んだため透過顕微鏡下では有色に観察されたのであり、不純物の無い漆層である。

蛍光X線分析 内面の赤色部、外面側面の赤色部、外面底部の黒色部、木胎の蛍光X線分析を行った。

赤色部では内面および外面側面共に水銀(Hg)のピークが高く検出され、硫黄(S)も検出される。外面底部黒色部では鉄(Fe)のピークが比較的高く検出される。木胎では目立って高く検出される元素は無いが、鉄(Fe)が検出される。

(5) 考察

・漆器皿の下地層は内面で2層、外面底部では1層であり、粒子の異なる鉱物を用いた鉱物下地であった。鉱物の粒径や観察状態から内面の鉱物下地層Ⅱと外面底部の鉱物下地層は同様のものと考えられる。なお、鉱物には石英が混じっていることから花崗岩などの風化土を用いた可能性が高い。また、鉱物下地層Ⅰでは粒子が大きく粒径がまばらだが、鉱物下地層Ⅱでは粒子が小さくほぼ均一のため、鉱物下地層Ⅰでは地の粉、鉱物下地層Ⅱではより細かく磨り潰した砥の粉を漆に混ぜたものを用いて下地塗りを行っている。多くの場合は地の粉、砥の粉に用いる土は珪藻土と言われるが、輪島、山科などでも用いられる。また、器の厚みが足りない部分に地の粉を用いた下地で厚みを持たせたものと考えられる。なお、下地に鉱物粒子を混ぜる漆下地は縄文時代から見られるが、それに並行して炭粉を漆に混ぜる炭粉漆下地も用いられてきた。平安時代中頃からはそれに加えて漆の代わりに柿渋を用いた安価な炭粉渋下地が主流となり、塗りの回数を1・2回にするなど製作工程を大幅に省略した漆器製品が流通するようになった(四柳2002)。そのため、下地に砥の粉、地

の粉を用いた漆下地は高価であったと考えられる。

・赤色部分は下地塗りを行った後、表面を研磨するなどで平坦にし、次に漆を塗布している。その後赤漆を2度塗布している。赤色に関しては水銀(Hg)、硫黄(S)が検出されていることから、水銀朱を漆に混ぜたいわゆる朱漆を用いている。また、最後の仕上げとしては木賊などで表面を磨いたものと考えられる。

・外面底部の黒色部では、下地塗りを行った後、表面を研磨するなどで平坦にし、次に漆を2度塗布し、黒色漆を塗布、最後に漆を塗布している。黒色は鉱物などの粒子が観察されなかったが、落射顕微鏡下では黒色を呈しており、他の測定点と比べると鉄(Fe)が比較的高く検出されたことから、漆に鉄粉を混ぜ酸化させることで漆黒にし、濾して鉄粉を回収した黒漆と考えられる。また、漆層Ⅲを塗布した後は木賊などで表面を磨いたものと考えられる。

(6) まとめ

本遺跡の漆器皿は木胎を製作したのち、花崗岩を磨り潰した鉱物粒子を漆液に混ぜた地の粉漆下地でまず木胎の傷や薄い部分を補強もしくは肉付けし、その後より細かく磨り潰した砥の粉漆下地で下地塗りをしたのち、表面を平坦に磨き、透き漆を塗っている。そして内面、外面の側面には朱漆を2度塗り、外面底部にはもう1度漆を塗ったのち鉄で酸化させた黒漆を塗布したのちに透き漆を塗布している。最後に木賊などで表面を磨き光沢が出るように仕上げたと考えられる。下地に鉱物粒子を利用し、また塗りの回数も多いため、高価な漆器製品であったと考えられる。

(金原 裕美子 一般社団法人 文化財科学研究センター)

5 中館遺跡における樹種同定

(1) はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して

移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

（２）試料と方法

試料は、漆器皿（381）、折敷部材（385・386）、箸（384）、棒状製品（383）、荷札（382）、角材（714）などの木製品7点である。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面（木口と同義）、放射断面（柾目と同義）、接線断面（板目と同義）の基本三断面の切片を作製し、切片をマウントクイックアクエオス(Mount-Quick “Aqueous”：大道産業)で封入し、プレパラートを作製する。観察は生物顕微鏡（OPTIPHOTO-2：Nikon）によって40～1000倍で行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

（３）結果

第19表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を第25図に示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。マツ属複雑管束亜属 *Pinus* subgen. *Diploxylon* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複雑管束亜属に同定される。マツ属複雑管束亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する常緑高木である。

ヒノキ *Chamaecyparis obtuse* Endl. ヒノキ科

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞が見られる。放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で1分野に2個存在する。放射組織は単列の同性放射組織型で、1～15細胞高である。

以上の特徴からヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40 m、径1.5 mに達する。

ケヤキ *Zelkova serrata* Makino ニレ科

年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形および接線状ないし斜線状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は異性放射組織型で上下の縁辺部の細胞のなかには大きく膨らんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の特徴からケヤキに同定される。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。落葉の高木で、通常高さ20～25 m、径60～70 cmぐらいであるが、大きいものは高さ50 m、径3 mに達する。

（４）所見

同定の結果、中館遺跡の木製品はマツ属複雑管束亜属1点、ヒノキ5点、ケヤキ1点であった。

最も多いヒノキは、折敷部材、箸、棒状製品、荷札に利用されている。ヒノキは木理通直で大きな材が取れ、耐久・耐湿性も高く、保存性が高い材である。加工工作が容易な上、建築部材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。本遺跡同様に折敷、箸、荷札にはよく用いられ、板状製品だけでなく柄や紡織具の一部などの棒状製品にもよく

第19表 樹種同定結果

No.	名称	R	出土遺構	結果（学名／和名）	
1	漆器皿	w001-01	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Zelkova serrata</i> Makino	ケヤキ
2	折敷部材	w001-02	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
3	折敷部材	w001-03	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
4	箸	w001-04	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
5	棒状製品	w001-05	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
6	荷札	w001-06	暗褐色粘砂（礫・木片多く混）	<i>Chamaecyparis obtusa</i> Endl.	ヒノキ
7	角材	w001-07	暗褐色礫層	<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複雑管束亜属

用いられる。なお、ヒノキないしヒノキ科の木材は律令期以降瀬戸内海から東海地方では流通し、最もよく用いられる。マツ属複雑維管束亜属は木理はやや通直で、重硬で水湿によく耐え腐りにくく、建築部材の中では水湿の影響のある柱、礎板などに用いられる。本遺跡のマツ属複雑維管束亜属の角材の大きさは比較的小さいため、大きさや鋸痕などから部材などの端材の可能性も考えられる。ケヤキは強靱で従曲性に富み、耐久・保存性が高く水湿にもよく耐え、建築、家具器具、船、土木などに広く用いられる。また、ケヤキは縄文時代以降現在まで伝統的に木地に用いられ、刳物および挽物の容器によく利用され、漆器では挽物が多く、本遺跡でも漆器皿に利用されている。

同定された樹種はいずれも温帯に分布する樹木であった。ヒノキは適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育し、ケヤキは谷沿いや河辺などの適潤な肥沃地に生育する。マツ属複雑維管束亜属は、土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。本遺跡で同定された樹木は当時遺跡周辺にも生育する樹木であるが、伊勢神宮外宮の門前町であることもあり、流通によってもたらされたと推定される。

(金原 美奈子 金原 裕美子

一般社団法人 文化財科学研究センター)

【引用文献・参考文献】

IV-2 引用文献

米倉浩司・梶田 忠 (2003-) BG Plants 和名-学名インデックス (YList), <http://ylist.info>

IV-3 参考文献

奥谷喬司編 (2000) 日本近海産貝類図鑑. 1173p, 東海大学出版会.

IV-4 参考文献

岡田文男 (1995) 古代出土漆器の研究－顕微鏡で探る材質と技法－. 京都書院, 191p.

四柳嘉章 (2002) 漆の技術と文化－出土漆の世界－. あらたな世界へ いくつもの日本Ⅱ, 岩波書店, p. 249-267.

四柳嘉章 (2006) 漆Ⅰ, ものとなりの文化史 131-Ⅰ. 法政大学, 252p.

四柳嘉章 (2006) 漆Ⅱ, ものとなりの文化史 131-Ⅱ. 法政大学, 435p.

四柳嘉章 (2018) 中世式の技術転換と社会の動向, 国立歴史民俗博物館研究報告第 210 集, 国立歴史民俗博物館, p. 249-267.

IV-5 参考文献IV-3 参考文献

奥谷喬司編 (2000) 日本近海産貝類図鑑. 1173p, 東海大学出版会.

伊東隆夫 (1995) 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 第31号, 京都大学木材研究所・京都大学木質科学研究所, p. 81-181.

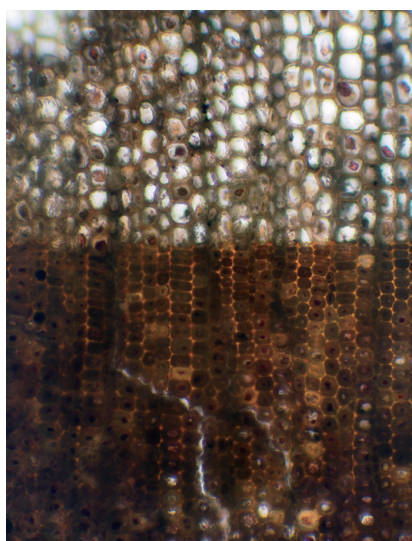
伊東隆夫・山田昌久 (2012) 木の考古学, 雄山閣, 449p.

佐伯浩・原田浩 (1985) 針葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p. 20-48.

佐伯浩・原田浩 (1985) 広葉樹材の細胞. 木材の構造, 文永堂出版, p. 49-100.

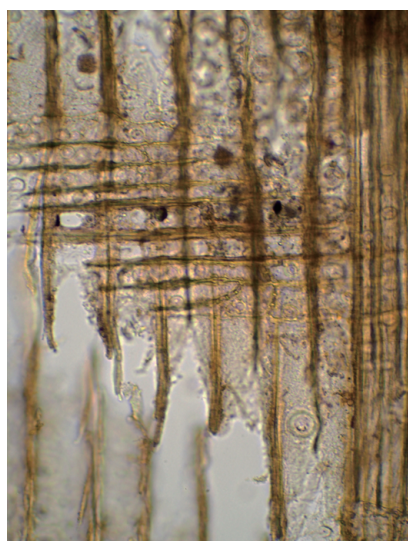
島地謙・伊東隆夫 (1982) 図説木材組織, 地球社, 176p.

島地謙・伊東隆夫 (1988) 日本の遺跡出土木製品総覧, 雄山閣, 296p.



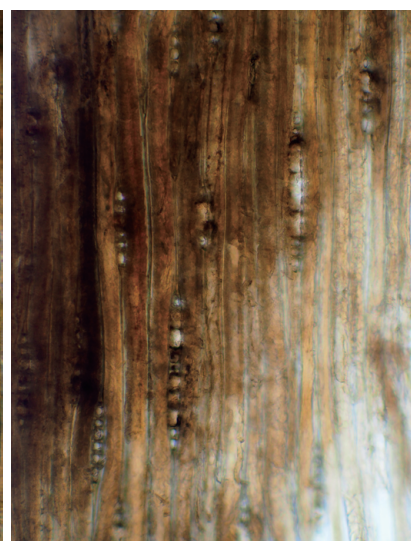
横断面

0.1mm



放射断面

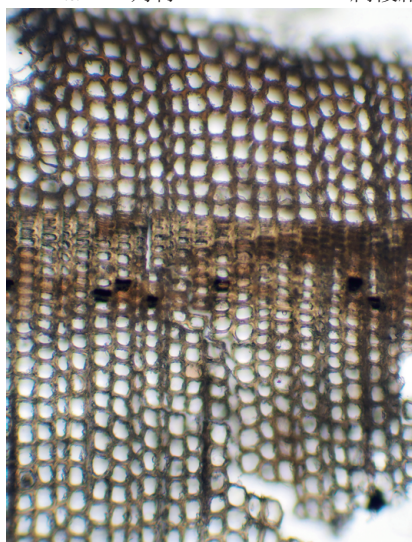
0.1mm



接線断面

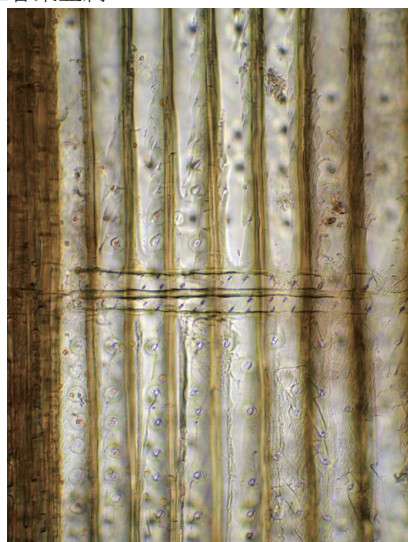
0.1mm

1. No. 7 角材 w001-07 マツ属複維管束亜属



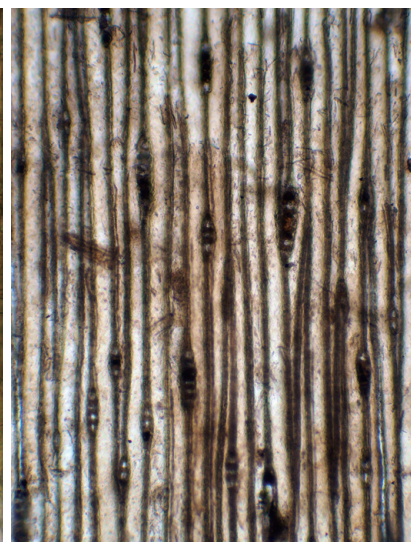
横断面

0.1mm



放射断面

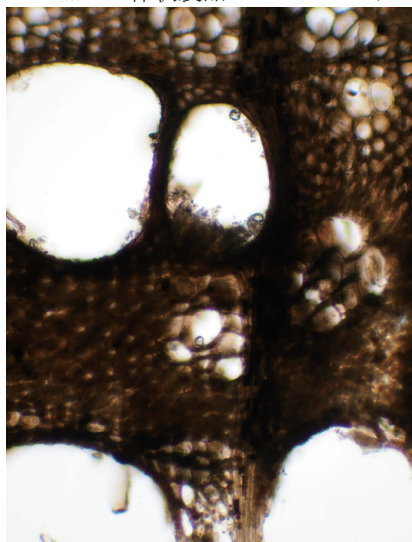
0.1mm



接線断面

0.1mm

2. No. 5 棒状製品 w001-05 ヒノキ



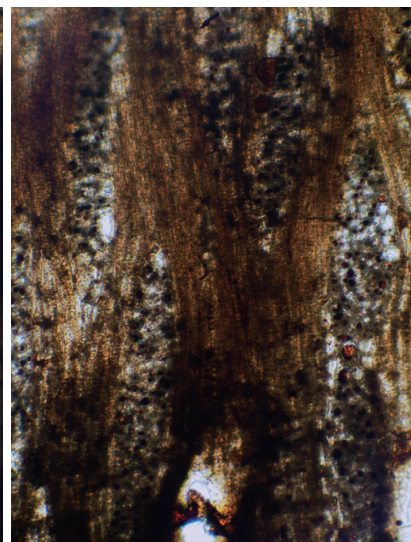
横断面

0.1mm



放射断面

0.1mm



接線断面

0.1mm

3. No. 1 漆器皿 w001-01 ケヤキ

第 25 図 中館遺跡の木材顕微鏡写真

VII 調査のまとめ

調査地となる外宮周辺（山田低地部）は市街化が進み、発掘調査は小規模で点的になされている程度である¹⁾。

今回は、山田低地部でも参宮街道と月夜見宮―外宮を結んだ交差点付近となる付近一帯での調査であった。点のかつ施工深までの調査であるため、限定的な情報しか得られなかったが、各調査坑の層序、出土遺物等を整理し、まとめとしたい。

1 遺跡の消長

点的な調査であるため、確認できた遺構は限られ、調査坑により出土遺物の多寡がある。時代毎に特徴をみていきたい。

古代以前は、現時点で遺構・遺物は確認できていない。今回の施工深度が当該時期の生活面まで達していない可能性がある。中世前期も遺構は認められず、遺跡西側に位置するR 5－8で山茶碗を1点のみ確認した。当該期の遺物が希薄な状況は、高河原遺跡と類似している。

中世後期は、遺跡西寄りに位置するR 5－6で土坑SK 2を確認したものの、多くは、粘砂層や礫混層からなる河川堆積土である。当該期は河川の流量が少なくなり16世紀代で湿地状となったと考えられる。これらの堆積土には貝殻片の出土もみられた。出土貝殻片のうち遺跡南側西部R 3－3の黒褐色粘質土から出土した貝殻は、同定結果からアカニシ・バカガイ・アワビ属等であることがわかった。これらの貝類は海岸部に生息するもので、食用などの後に投棄されたものと思われる。

遺物は遺跡南側にあたるR 3－2・3、R 4－1～4で、粘砂層から多量に出土した。時期は16世紀代のものが多い。これらの遺物も不要となったところで投棄されたのではないかと推定される。

近世は、基本的にはシルト層ないしは粘質土層からなる整地層で、場所により炭層、焼土層を確認している。17世紀以降、造成を繰り返していたようである。ただ、遺跡西寄りに位置するR 5－3は礫混じりの粘砂層となっており、多量の土師器皿類が

出土した。地点により多量の出土遺物を包含する状況は中世後期と類似している。

2 出土遺物の特徴

調査面積の割に中世後期及び近世の遺物が多く出土した。また、地点により出土遺物の多寡があった。特に出土量の多かった層序について抽出し、出土遺物の特徴をみていきたい（第20表・第26図）²⁾。

【中世後期】 R 3－2 黒褐色粘質土、R 4－2 黒褐～褐色粘砂、R 4－4 褐灰色粘砂を抽出した。

土師器 ほぼ南伊勢系土師器である。器種は皿が圧倒的に多く、鍋・羽釜等の煮炊具も一定量みられる。

陶器 ほぼ瀬戸美濃産で、常滑産が少量みられる。皿類が多く、折縁深皿や直縁大皿等の鉢類が一定量みられる。碗類は少ないが天目茶碗、丸碗小片などがみられる。また、志野釉のかかる皿類や向付の出土量が一定量認められる。

磁器 白磁・青花等の中国産磁器が一定量を占める。中でも白磁D群・E群、青花皿B群・C群の出土が目立つ。青磁は碗小片が出土する程度で少ない。

【近世】 R 5－3 青灰色粘砂を抽出した。

土師器 中世後期と同じ傾向でほぼ南伊勢系土師器である。器種は圧倒的に皿が多い。羽釜はほぼなくなり、台付皿や焙烙などの器種がみられるようになる。焙烙は径20cm以下の小形のものが比較的多い。

陶器 瀬戸美濃産・常滑産がみられるが、中世後期よりは出土量が少ない。皿、鉢類が一定量みられる。

磁器 中国産磁器は少なくなり、肥前産碗・皿が多くを占める。

中世後期・近世共に南伊勢系土師器が出土遺物の多くを占め、中でも皿が圧倒的な量を占める。陶器は古瀬戸・瀬戸美濃産を主体とし、碗・皿・鉢・壺類が一定量認められる。特に鉢類の出土量が多い傾向にある。磁器は中世後期において中国産が多く、近世においては肥前産に変わる傾向がみられた。

3 まとめ

今回の調査で、中世後期及び近世を中心とした遺物が出土した。明確な遺構は僅かであるが、中世後期から近世にかけて、流路から徐々に陸地化した様子が確認できた。本遺跡の状況は、同じ山田低地部となる高河原遺跡の調査成果を補填する形となった³⁾。高河原遺跡と比較して異なるのは、中世後期の遺物量が多い点である。これは、中館遺跡周辺の陸地化した段階が高河原遺跡より早い時期であったことを示している。調査地点が、山田低地部でもより中心に近いことに起因すると思われる。

(原田)

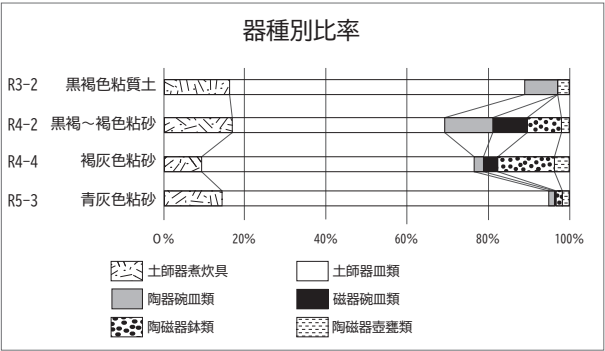
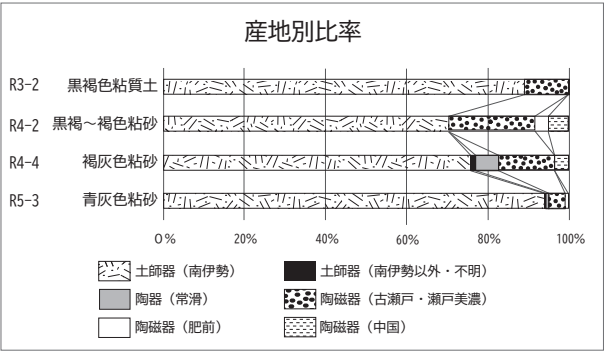
【註】

- 1) 当該地域の調査としては、伊勢市宮後・吹上の高河原遺跡のほか伊勢市史編纂に伴う試掘調査がなされている程度である。(三重県埋蔵文化財センター 2015『高河原遺跡発掘調査報告』、伊勢市 2011「第5章試掘調査遺跡」『伊勢市史』第6巻考古編)
- 2) 掲載遺物のうち、多数出土した層序にあたるものを産地・器種別に集計したものが、第20表・第26図である。接合後の破片数で計上している。なお、未掲載遺物も含めた場合、南伊勢系土師器皿類が圧倒的に多く、その比率が更に上がることが想定される。
- 3) 三重県埋蔵文化財センター 2015「VI高河原遺跡と近世都市山田～調査のまとめと検討～」『高河原遺跡発掘調査報告』

第20表 中館遺跡主な出土土器組成

調査区	層序	土師器														陶器 (古瀬戸・瀬戸美濃)									
		皿 (径4)	皿 (径5)	皿 (径6)	皿 (径7)	皿 (径8)	皿 (径9)	皿 (径10~)	鍋	焙烙	羽釜	茶釜	茶釜蓋	十能	その他	碗・小碗		皿		鉢		搥鉢		その他	
		口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部
R3-2	黒褐色粘質土			2	3	4	5	13	6							1	2							1	
R4-2	黒褐～褐色粘砂			1	7	12	3	8	7		2	1			1	3	1	2	1	2	2	1		1	
R4-4	褐灰色粘砂			1	9	30	4	14	4							1		1	3	5	2				
R5-3	青灰色粘砂	6	90	21	29	33	24	8	18	14	2	2		2	2	3	1		3	1	3			2	2

調査区	層序	陶器 (常滑)				磁器 (中国)				磁器 (肥前)				磁器 (瀬戸)			
		鉢		壺・壺		碗		皿		その他		碗		皿		その他	
		口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部	口縁	底部
R3-2	黒褐色粘質土																
R4-2	黒褐～褐色粘砂					1	1	1				2					
R4-4	褐灰色粘砂	2		2	1	1	1	1									
R5-3	青灰色粘砂	1		1								1					



第26図 中館遺跡出土遺物の各比率

写 真 图 版



主要地方道伊勢南島線 外宮北交差点付近（西から）



令和3年度 調査坑No.1 伊勢市観光協会付近（北から）



調査坑 R 3 - No.1 (南から)



調査坑 R 3 - No.2 (東から)



調査坑 R 3 - No.3 (西から)



調査坑 R 3 - No.4 (東から)



調査坑 R 4 - No.4 東壁面土層 (西から)



調査坑 R 4 - No.4 土器出土状況



調査坑 R 5 - No.2 東壁面土層 (西から)



調査坑 R 5 - No.2 土器出土状況

写真図版 3



出土遺物 1



写真図版 5



出土遺物 3



221



222



225



230



240



245



280



297



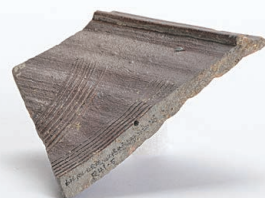
299



301



308



309



313



322



325



326



331



341

出土遺物 4

写真図版 7



出土遺物 5



414



416



418



420



427



447



457



460



462



473



484



497



524



528



537



567



576



580

出土遺物 6

写真図版 9



出土遺物 7



出土遺物 8



出土遺物 9・出土貝類

報告書抄録

ふりがな	なかたちいせきはつつちようきほうこく							
書 名	中 館 遺 跡 発 掘 調 査 報 告							
副 書 名								
巻 次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	4 2 4							
編著者名	大川 操・原田恵理子							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒515－0325 三重県多気郡明和町竹川503 T E L 0596-52-1732							
発行年月日	2 0 2 5（令和7）年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
な か た ち い せ き 中 館 遺 跡	い せ し ほんまち いちしちよう 伊勢市本町・一志町 ようかいちばちよう ・八日市場町	24203	a 376	34 ° 29 ' 21 "	136 ° 42 ' 19 "	20210329 ～20210406	調査坑 1 7.35	(都) 外宮常磐 線電線共同溝事業
						20210415	調査坑 2 15.00	
						20210524	調査坑 3 11.34	
						20210531	調査坑 4 9.20	
						20220516	調査坑 1 11.42	
						20220606 ～20220607	調査坑 2 13.80	
						20220712 ～20220713	調査坑 3 11.28	
						20220725 ～20220726	調査坑 4 14.64	
						20230224	調査坑 5 2.99	
						20230308	調査坑 6 8.40	
						20230328	調査坑 7 15.90	
						20230411	調査坑 1 14.21	
						20230508 ～20230509	調査坑 2 14.21	
						20230531	調査坑 3 8.14	
						20230713	調査坑 4 8.58	
						20230725	調査坑 5 8.00	
						20240129 ～20240130	調査坑 6 11.04	
						20240205 ～20240206	調査坑 7 14.40	
						20240213	調査坑 8 10.75	
						20240226 ～20240227	調査坑 9 18.00	
計		228.65 ㎡						
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
中館遺跡	散布地	戦国時代から近世初頭	土坑、井戸（結桶）		土師器、陶器、磁器、石製品、鉄製品、木製品			
要 約	令和5年度の調査坑3と調査坑6の井戸跡・土坑以外では、遺構は検出されなかったものの、旧河道の縁辺における堆積層から戦国時代～近世にわたる土器・陶器・磁器等が出土した。とりわけ、16世紀末から17世紀初頭の陶磁器類を多く出土した包含層の存在から、当該期には近世参宮街道沿いの当地での、陶磁器を多く扱った活動の痕跡をうかがうことができた。							

三重県埋蔵文化財調査報告書424

中館遺跡発掘調査報告

2025（令和7）年3月

編集
発行
印刷

三重県埋蔵文化財センター

株式会社 アイブレーション
